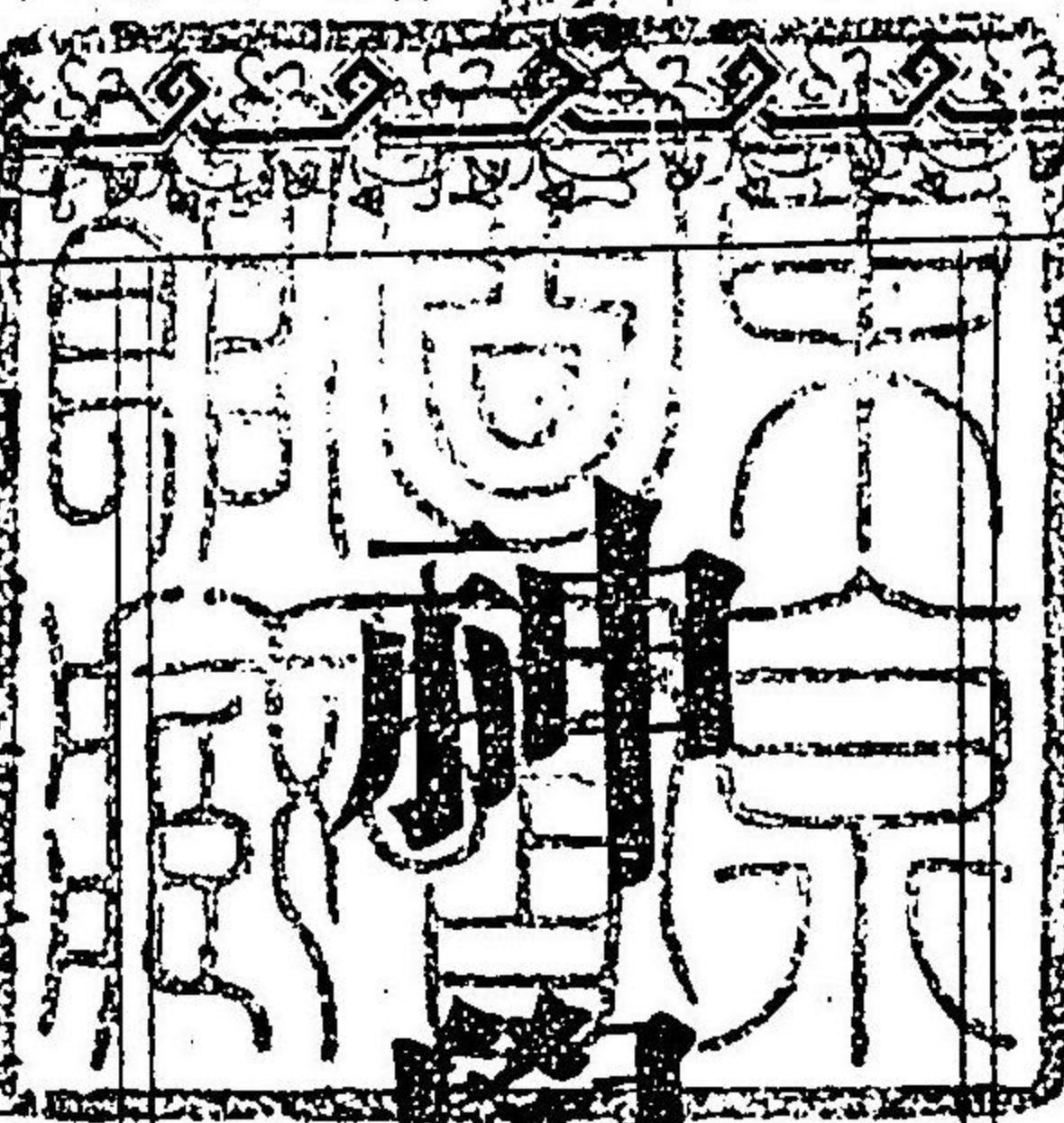


23-211

v213108

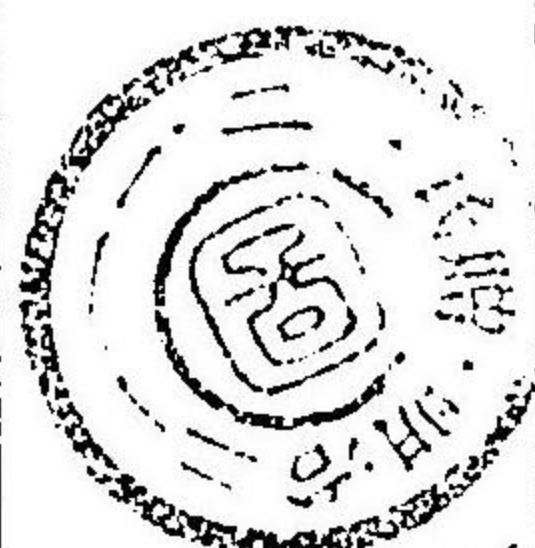


襄維納屈士口述  
歷山石川彝筆記

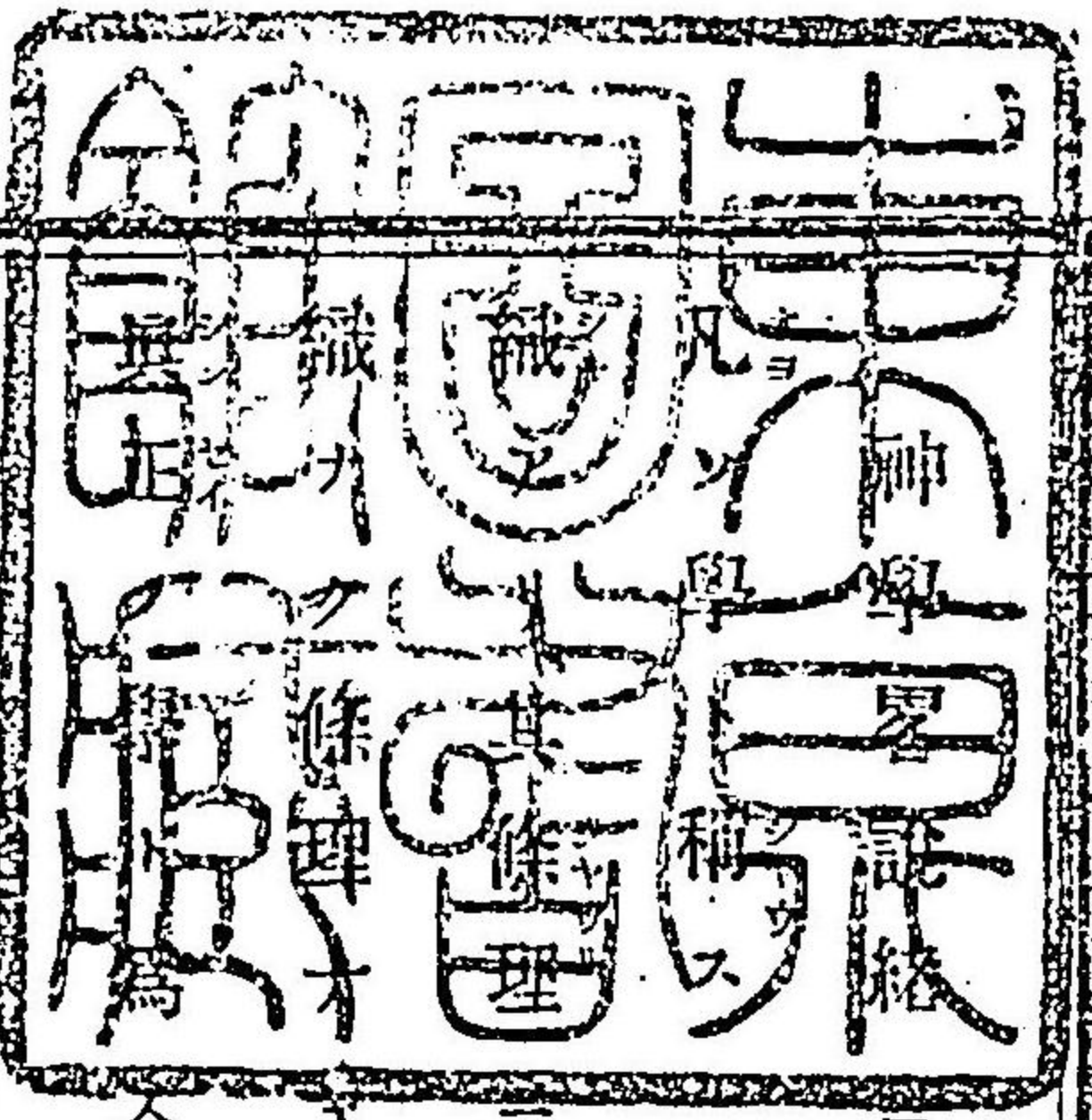
明治十七年  
十二月再版

神學略說 全

東京一致神學校藏版



シマルノア國本



者ハ、理學諸科ニ於ケルカ如ク、必ズ先一定ノ組  
 從ヒ順次ニ學ビ知ル可キ者ヲ謂フナリ、若其組  
 者ハ、漫ニ各別ノ事物ヲ辨知シ得ルモ、未ダ以テ  
 可カラズ、各自各物ハ必ズ皆相互ノ關係アリ、因  
 テ一定ノ組織ヲ立テ、之ガ聯絡ヲ成シテ后ニ、始メテ一科ノ學ト  
 謂フ可キナリ、

近世諸科ノ學ヲ修成シタル者ヲ觀ルニ、其工夫ハ大約左ノ如シ、  
 凡ソ一科ノ學ヲ修成セント欲スル者ハ、先其學科ニ關涉スル所  
 ノ各異ノ物件ヲ一々別々ニ探究シテ各事各物ノ性質ヲ考定シ、  
 次ニ其事物相互ノ關係ヲ理會シ、又其聯絡ヲ辨知シテ後ニ、其學

ノ主義ヲ定立シ其主義ニ基キテ復各事各物ヲ究理シ、審カニ其事  
 事理ニ習熟スルヲ須要トスルナリ、例ヘバ天文ノ如キモ始ヨリ  
 一科ノ學ヲ成シタルニ非ズ、古來日月星辰ヲ觀テ諸般ノ事物ヲ  
 解得シ、其運行ヲ測定シテ日月ノ蝕ヲ前言シタリト雖モ、只各異  
 ノ天體ヲ知り其經歷ヲ測リタルノミ、假令將來ノ天象ヲ豫知シ  
 得ルモ、未ダ其理ヲ究メザルニ於テハ、未ダ以テ一科ノ學ト爲ス  
 ニ足ズ、然ルニ凡二百年前ニ紐敦ナル者アリ、物體ノ引力ヲ發明  
 シテ始メテ其基ツク所ノ天理ヲ解得シタリ、是ヨリ以來此天理  
 ニ從ヒ各異天體ノ關係ヲ審カニシ途ニ一定ノ組織ヲ成シ、初テ  
 一科ノ學ト爲リ星學ノ名稱ヲ附スルニ至レリ、其以前ニ在テハ  
 日月ノ蝕ヲ豫知シ得ルモ、古來ノ經驗ニ因リ歴數ヲ推歩シテ後

來再蝕ノ年月日時ヲ算出シタルニ過ズ、然レバ則チ之ヲ一科ノ  
 學ト稱ス可キニ非ズ、後世重力ノ發明アリ物體互ニ牽引スルノ  
 理ヲ悟リ、必ズ當ニ然ルベキノ道理ヲ究メ得テ始メテ之ヲ星學  
 ト稱シタルナリ、  
 凡ソ何ノ學ヲ問ハズ、是ノ如キ工夫ヲ用キテ修成シタルノ後ニ  
 非ザレバ、實ニ一科ノ學ト爲スニ足ラズ、然リト雖モ是等ノ工夫  
 ヲ爲スニ方テ亦一ノ危險アリ、若速ニ一科ノ學ト爲サント欲シ  
 テ、證據未ダ十分ナラザルニ早ク臆說ヲ爲シ、妄ニ自說ヲ主張シ  
 誤テ其學ノ主義ト爲シ、他ニ何等ノ證據アルモ顧ミズ頑固ニ臆  
 說ヲ墨守スルガ如キヲアラバ、其基本既ニ脆弱ナリ、是ノ如キ脆  
 弱ノ學ニ於テハ衆多ノ學士屢々一箇ノ說ヲ立テ、遂ニ誤謬タル

ヲ免<sup>マカ</sup>レズ到底其學問ト工夫<sup>コフブ</sup>トヲ齋<sup>シヤク</sup>餅<sup>ビヤク</sup>ニ屬<sup>ゾク</sup>シ却<sup>カニ</sup>テ真正ノ學ノ損<sup>シ</sup>害<sup>ガイ</sup>ト爲<sup>ス</sup>ル者尠<sup>スクナ</sup>シトセズ、是等ノ損害ヲ避<sup>サ</sup>ント欲<sup>ス</sup>スレバ、必ズ先其事物ヲ擴張<sup>クワソウチヤク</sup>シテ尙<sup>ヒロ</sup>廣<sup>ク</sup>ク之ヲ試<sup>コト</sup>ミザル可カラズ、而シテ若其誤謬タルヲ知ラバ速ニ其組織ヲ改正セザル可カラズ、所謂ル組織ナル者ハ元來事物ヨリ出ル者ナルガ故ニ、學者益々廣ク事物ヲ經驗シテ常ニ其組織ヲ鞏固ニスルヲ勉メザル可カラズ、神學ノ工夫モ亦之ニ同シ、凡ソ神ニ就テ知り得タル事物ハ悉皆蒐集<sup>クワイシユ</sup>シテ以テ一定ノ組織ヲ成シ、而后ニ始メテ神學ト謂フ可キナリ、只神ニ就テ各事各物ヲ知ルヲ幾許ノ多キニ至ルモ、未ダ其事物ヲ解セズ一定ノ順序ニ從ハズ、又其主義ヲ立ザレバ則チ未ダ以テ一科ノ學ト爲スニ足ラズ、

我輩皆基督教ノ信者タルヲ以テ、聖書ハ神言ナリ天啓ナリト信仰シ、舊約全書ハ即チ神學ノ基礎タルヲ確信スル者ナリ、而シテ兩約全書ヲ緜<sup>ヘン</sup>閱<sup>エン</sup>スルニ、其中ニ史傳アリ豫言アリ詩アリ諺アリ文書アリ、其卷首ヨリ卷末ニ至ルマテ之ヲ通讀スルモ、未ダ其組織ナル者ヲ明記スルヲ見ズト雖也、而モ亦一定ノ組織アルヤ必然ナリ、只深思熟考スルニ非ザレバ其組織ヲ解得スルヲ能ハザルノミ、凡ソ天然ノ事物皆各其初ヨリ組織アリト雖也、人智未ダ開ケザルノ時ニ方チハ未ダ之ヲ知ルヲ能ハズ、近世ニ至テ漸ク其組織ヲ知得タルガ如ク、聖書ノ組織モ之ヲ理解セント欲スレバ、必ズ先其前後ヲ比較シ、各書各章ノ教義ヲ審カニシ相互ノ關係ヲ辨<sup>ワキ</sup>ヘ、其主義ノ定マル所ヲ曉<sup>サト</sup>リ得テ、而後ニ始テ眞ノ神學

タルヲ得ベキナリ、  
 夫神學ノ基礎タルヤ一切聖書ニ由ル者ナルガ故ニ、其順序ト主  
 義トハ必ズ皆聖書ニ合ハザレバ、則チ眞ノ神學ニ非ザルヤ固ヨ  
 リナリ、若其中僅ニ一二ト雖モ或ハ聖書ニ合ハザルニアラバ、則  
 チ必ズ之ヲ知ラザル可カラズ、故ニ本書中ノ各條必ズ其證據ヲ  
 聖書ニ取ラザル可カラズ、若一條モ聖書ニ徵證セザル者アラバ、  
 其條ハ則チ徒ニ人爲ノ教義タルニ過キズ、又若聖書ニ其確證ア  
 ルニ於テハ其教義ハ即チ是神教ナリ、故ニ神學ハ各條必ズ細カ  
 ニ聖書ヲ調査セザル可カラズ、  
 本書ノ目的ハ深ク組織神學ヲ教ヘントスルニ在ラズシテ、其意  
 味ノ大略ヲ示サントスルニ在ルノミ而シテ其教方ハ一ニ耶穌

教略問答ノ順序ニ從フ、蓋シニノ理由アルガ故ナリ、第一我神學  
 校ニ來學スル所ノ二三子ハ皆近日役者試補ノ候補タル可キ者  
 ナリ、其試験ヲ受クルニ當テハ、必ズ略問答ヲ知ラザル可カラザ  
 ルニ由リ、第二ハ畧問答ハ實ニ好順序ノ書タルニ由ルナリ、今ヨ  
 リ十年前ニ學士ハッチ氏著ハス所ノ組織神學ハ恰モ此順序ニ從  
 ヒ、又有名ナル神學士蘇格蘭ノチャーモル氏モ亦大ニ此順序ヲ稱  
 揚シタリ、  
 耶蘇教畧問答ノ由來ヲ尋ヌルニ、昔英國ニ於テモ歐洲諸國ニ於  
 ケルガ如ク、基督教改革ノ事アリ、一千六百四十三年英國國會ノ  
 權利ヲ以テ、基督教師一百二十一人信徒三十人ヲ其調査委員ニ  
 撰舉シタリ、此等ノ委員協議シテウエストミンスターノ信仰箇條、

耶蘇教問答、同略問答、及び教會政治ヲ編成シタリ、蓋歐洲大陸ノ改革教會モ亦大抵此教會ノ教義及び政治ニ似タル者ナルガ故ニ能是等ノ諸書ヲ編輯シ得タリト雖ヒ、尙是等ノ委員六年間刻苦シテ編纂スル所ノ諸書ヲ國會ニ提出シ、國會之ヲ受理スルニ及テ、其教義ニ就テハ更ニ異議ナク可決シタリ、但教會政治ハ其後稍議論アリト雖ヒ、ウエストミンストル信仰箇條、及び耶蘇教略問答ハ彼獨立教會ニ於テモ長老教會ニ於テモ當時ヨリ今日ニ至ルマデ共ニ用フル所ナリ、且夫基督教ノ問答ハ夥多アリト雖ヒ、蓋此略問答ニ勝レタル者ナシ、是予カ今此問答ニ從フ所以ナリ、

千時明治十七年七月

襄、維、納、屈、士、識

歷山石川彝譯

神學畧說目次

卷之一

神性部

○第一篇 組織總括

第一條 組織ノ主義、

第一款 學問ノ本、

第二款 重ナル目的ノ意義、

第三款 神榮ノ顯彰、

第一項 神榮ノ意義、

第二項 目的ノ理由、

第三項 目的ノ達方、

第四款 神ヲ樂シムト、

第一項 其意義、

第二項 是人ノ大幸福、

第三項 第二ノ目的、

第五款 神學ノ事物、

第二條 神學ノ事物、

第一款 自然神學ノ不完全、

第二款 神ノ示現、

第一項 舊新約全書ハ神ノ示現、

第二項 聖書ノ示現完全ナリ、

第三項 聖書ニ解シ難キ者アリ、

第三條 組織ノ區別、

第一款 神ニ就テ人ノ信可可キ事、

第二款 人ノ義務、

○第二篇 神ノ存在及ヒ本質、

第一條 神ノ本質、

第一款 神ハ靈ナリ、

第一項 靈ハ物體ニ非ズ、

第二項 靈ニ勢力アリ、

第三項 靈ハ識我ナリ、

第二款 無量ノ神質、

第三款 永遠、

- 第四款 不變易、
- 第五款 質、
- 第六款 智慧、
- 第一項 神ノ覺識、
- 第二項 神ノ眞智、
- 第七款 能、
- 第八款 聖、
- 第九款 義、
- 第十款 善、
- 第一項 深切、
- 第二項 堪忍、

- 第三項 恩惠、
- 第四項 慈愛、
- 第十一款 眞、
- 第十二款 本質ノ適合、
- 第二條 唯一眞神、
- 第三條 三位一體、
- 第一款 父、
- 第二款 子、
- 第一項 其存在、
- 第二項 其本質、
- 第三款 聖靈、



第一項 其意義、

第二項 其出所、

第三項 其「セルソナ」、

第四款 「三「ペルソナ」、

第五款 三者同質、

第六款 教ノ大要、

○第三篇 神定、

第一條 神定ノ解義、

第一款 萬物ノ經營、

第一項 萬物神定ニ從フ、

第二項 神意ニ適ス、

第三項 信者ノ安慰、

第二款 神定ノ目的、

第三款 神定ハ天命ニ非ズ、

第二條 神定ハ必ズ遠ク、

第一款 萬物創造、

第一項 未タ物アラザル時、

第二項 道ヲ以テス、

第三項 六日間、

第四項 萬物皆善、

第五項 人ハ萬物ノ靈、

第二款 神治、

- 第一項 天地萬物獨立ニ非ズ、
- 第二項 教ノ福、

卷之二

人性部

教說總論

○第四篇 人ノ罪、

- 第一條 罪ノ試、
- 第一款 始ノ情態、
- 第二款 人ノ自由、
- 第三款 善徳ノ好、
- 第四款 神ノ禁、

- 第五款 生死ノ約、
- 第二條 人ノ零落、
- 第一款 人ノ隨意、
- 第二款 犯罪、
- 第三款 罪ノ解義、
- 第三款 神罰、
- 第三條 亞當及ヒ子孫ノ零落、
- 第一款 人類同種、
- 第二款 遺傳法、
- 第三款 原罪、
- 第一項 人類罪ヲ亞當ト共ニス、

第二項 元義ヲ失フ、

第三項 全性聖カラズ、

第四款 人間ノ罰、

第一項 苦ハ罪ヨリ出、

第二項 罪ニ由テ神ノ交親ヲ失ヒ、

第三項 身體ノ死、

第四項 無限苦楚、

○第五篇 拯救ノ教、

第一條 拯救ノ定、

第一款 神ノ撰ビ、

第二款 創世以來、

第三款 隨神意、

第四款 拯救ハ贖主ニ由ル、

第二條 贖主、

第一款 唯主耶穌基督ノミ、

第二款 窮ナキ神ノ愛子、

第三款 又人ト爲ル、

第四款 神人兩性、

第五款 存在無究、

第六款 神子人ト爲ル方畧、

第一項 靈ノ能ニ由テ馬利亞ニ生ル、

第二項 眞ノ人體人魂アリ、

第三條 贖主ノ職、

第一款 豫言者ノ職、

第二款 祭司ノ職、

第一項 贖罪、

第二項 懇求、

第三款 王ノ職、

第四款 基督ノ卑カリシテ、

第五款 基督ノ高キコ、

第四條 拯救ノ受方、

第一款 聖靈拯救ヲ施ス、

第二款 何者カ神召ニ従ハシム、

第五條 今世拯救ノ恩惠、

第一款 義トセララル、

第一項 罪ノ赦、

第二項 基督ノ義ニ由ル、

第三項 唯信仰ニ由テ之ヲ受ク、

第二款 子トセララル、

第三款 聖トセラ、

第四款 特別ノ恩惠、

第六條 來世ノ恩惠、

第一款 死スル時ノ恩惠、

第二款 甦ル時ノ恩惠、

卷之三

道德部

教説總論

道德ノ緊要

道德ト信仰ノ連續

道德ノ基礎

道德ノ區別

○第六篇 人ノ本分

第一條 道德ノ規矩

第一款 規矩ノ本原

第一項 不文律

第二項 明示律

第二款 規矩ノ約言

第三款 規矩ノ主意

第一項 愛ノ意義

第二項 神ヲ愛ス

第三項 人ヲ愛ス

第四款 規矩ノ理由

第二條 神ニ對スル義務

第一款 第一誠

第一項 第一誠ノ命令

第二項 第一誠ノ禁令

第三項 第一誠ノ道理、

第二款 第二誠、

第一項 第二誠ノ命令、

第二項 第二誠ノ禁令、

第三項 第二誠ノ道理、

第三款 第三誠、

第一項 第三誠ノ命令、

第二項 第三誠ノ禁令、

第三項 第三誠ノ道理、

第四款 第四誠、

第一項 第四誠ノ命令、

第二項 安息日、

第三項 聖日、

第四項 第四誠ノ禁令、

第五項 第四誠ノ道理、

第三條 人ニ對スル義務、

第一款 第五誠、

第一項 第五誠ノ命令、

第二項 第五誠ノ禁令、

第三項 第五誠ノ道理、

第二款 第六誠、

第一項 第六誠ノ命令、

第二項 第六誡ノ禁令、

第三款 第七誡、

第一項 第七誡ノ命令、

第二項 第七誡ノ禁令、

第四款 第八誡、

第一項 第八誡ノ命令、

第二項 第八誡ノ禁令、

第五款 第九誡、

第一項 第九誡ノ命令、

第二項 第九誡ノ禁令、

第六款 第十誡、

卷之四

道德部續、

教説總論、

人ノ罪狀、

罪ノ輕重、

罪ハ罰ヲ招ク、

拯救ノ受方、

○第七篇 罪人ノ殊務、

第一條 信仰、

第一款 信仰ハ神恩拯救ノ方畧、

第一項 信仰ノ大切、

第二項 信仰ノ意味、

第三項 信仰ノ恩恵、

第二款 耶穌基督ヲ請テ依頼ム事、

第一項 福音ニ示スガ如ク、

第二項 拯救ハ只基督ニ在ルノミ、

第二條 悔改、

第一款 悔改ノ大切、

第二款 罪ヲ知ルヲ、

第三款 罪ヲ棄ルヲ、

第四款 神ニ事ルヲ、

第三條 聖書、

第一款 拯救ノ方畧、

第二款 聖書ニ由テ拯救ヲ受ルヲ、

第三款 聖書ニ由テ信仰ヲ進ルヲ、

第四款 聖書ヲ讀ムノ方法、

第四條 聖靈、

第一款 聖靈ノ意義、

第二款 聖靈ノ利益、

第三款 新約ノ聖靈、

第四款 洗禮、



第一項 洗禮ノ意義  
 第二項 洗禮ノ施法  
 第三項 受洗者  
 第五款 聖晚餐  
 第一項 聖晚餐ノ意義  
 第二項 聖晚餐ノ德  
 第三項 倍餐者  
 第五條 祈禱  
 第一款 祈禱ノ意義  
 第二款 祈禱式  
 第一項 初句

神學畧說目次畢

第二項 第一ノ禱詞  
 第三項 第二ノ禱詞  
 第四項 第三ノ禱詞  
 第五項 第四ノ禱詞  
 第六項 第五ノ禱詞  
 第七項 第六ノ禱詞  
 第八項 結句

神學畧說卷之一

在日本 米國宜教師 納屈士 口述

東京府士族 石川彝 筆記

神性部

○第一篇 組織總括

第一條 組織ノ主義

人ノ重ニ目的トスベキ事ハ神ノ榮光ヲ顯彰シ、際限ナク神ヲ  
樂シム事ナリ、

第一款 凡ソ學ノ根本ハ常ニ人ニ在リトス、假令ハ學問シテ審  
カニ深意ヲ理解セント欲スレバ、先人ノ精神ト其實體トノ關係  
或ハ人ト物トノ關係ヲ究理セザル可カラズ、神學ニ於テモ亦是

ノ如ク初ニ先人ト神トノ關係ヲ審カニセザル可カラズ、然ルニ  
 或ハ説ヲ爲ス者アリ、曰ク神ハ無限ノ者ナリ有限ノ人智ヲ以テ  
 神性ヲ知ル不能ハズ、神既ニ是ノ如ク尊貴ナレバ人間ニ神學ト  
 稱ス可キ者ナシ、假令之アルモ人智ハ固ヨリ神性ヲ知ルニ當ラ  
 ザルガ故ニ、是ノ如キ學問ハ無益ナリ、神ハ果シテ神ナルヤ否ヤ、  
 又神ハ如何ナル者ナル乎、人得テ知ラザル所ナリト、又或説ニ曰  
 ク、神ハ創メ天地萬物ヲ造リ給ヘリト雖モ、既ニ之ヲ造リ了リタ  
 ルノ後ハ、之ヲ離レテ在スガ故ニ、受造物ハ人ト雖モ既ニ神ト交  
 際關係ナシト、此兩説ハ固ヨリ基督教ヲ駁撃スル者ナリ、然リ而  
 シテ神ト人トハ其説ニ反シテ常ニ大關係アル者ナルガ故ニ、神  
 學ハ人間ニ甚ダ貴重ノ學ナリ、若其關係ヲ審カニセント欲スレ

バ宜シク先人間ノ目的ヲ考定スベシ、  
 第二款 人ノ重ナル目的トハ平常大切トスル所ノ目的ト云フ  
 ニ異ナラズ、最初ニ先此大切ナル目的ヲ知リ、其餘ノ目的ハ次ニ  
 之ヲ知ルヲ善トス、故ニ先此重要ナル目的ヲ達シテ後ニ其次ノ  
 目的ヲ達ス可キナリ、然ルニ此重大切要ナル目的ヲ棄テ第二以  
 下ノ目的ヲ重シ先之ヲ達スル者ハ之ヲ大ナル過誤ト謂ザル可  
 カラズ、

第三款 人間重要ナル目的ヲ分テ二トス、其一ハ即チ神ニ關ス  
 ル大目的ニシテ神ノ榮光ヲ顯彰ス是ナリ、  
 第一項 神ノ榮光トハ何ゾヤ、是ニ二義アリ即チ眞實ノ榮光及  
 ヒ外顯ノ榮光是ナリ、之ヲ人ニ譬フレバ學識才能アル者ハ人未

之ヲ知ラズト雖也、其人既ニ眞實ノ榮光アル者ナリ、若其人既  
 ニ著書出版等ノ事アリテ、世人其學識才能ヲ知レバ則チ外顯ノ  
 榮光アル者ナリ、夫神ノ眞實ナル榮光ハ無始無終不變不易ニシ  
 テ恒ニ同シキ者ナリ、故ニ人力ノ能ク之ヲ増ス可キニ非ズ、又能  
 シ之ヲ減ズ可キニ非ザル也、神ハ是ノ如ク無始無終不變不易ナ  
 ル眞實ノ榮光アリ、然リ而シテ神ハ何ニ由テ之ヲ外ニ顯シ給フ  
 乎乃チ萬物ヲ創造シ給フニ由ルナリ、其受造物ニ由テ之ヲ觀察  
 スレバ、則チ神ノ靈智慈愛正義大能ヲ知ル可キナリ、夫人ノ作業  
 ハ各其人ノ性質ヲ顯ハス者ナリ、其人若賢ナレバ則チ其智ヲ顯  
 ハシ、其人若愚ナレバ則チ其無智ヲ顯ハシ、各其性ニ從テ其作業  
 ニ眞實ノ性質ヲ顯ハス者ナリ、神ノ萬物ヲ創造シ給ヘルハ則チ

神性ノ至尊ナル眞實ノ榮光ヲ顯ハス者ナリ、詩第九十篇ニ曰ク、  
 ニ爾未ダ山岳ヲ立テズ、爾未ダ地界ヲ造ラザルノ前ヨリ、爾ハ恒  
 ニ神ニシテ無始無終ナリト、希伯來書第一章ニ曰ク、主ヨ爾元  
 始ニ地ノ基ヲ奠ク、天モ爾ガ手ノ工ナリ、十一此等ハ亡ビシ、然レ  
 爾ハ恒ニ存セン、此等ハ凡テ衣ノ如ク舊ビシ、十二爾此等ヲ袍ノ  
 如ク捲ム、又彼等ハ變ラン然レ爾ハ變ルコトナシ、爾ノ壽ハ終ラザ  
 ルナリト、  
 第二項 何故ニ人ノ重ニ目的トス可キ所ハ神ノ榮光ヲ顯彰ス  
 ニ在ル乎、夫人ハ神ノ創造シ給フ者ナリ、又日ニ我生活ヲ保ツ所  
 ノ諸物モ皆神ヨリ受ル者ナルガ故ニ吾人ノ身體生命靈魂モ皆  
 我有ニ非ズ、然レハ則チ我人ノ作業ニシテ若神慮ニ適ヘバ則チ

暫ク之ヲ保存スルトヲ得ベキナリ、且夫人ハ神ノ像ニ肖リテ造  
 ラレタル者ナルガ故ニ、其性質モ亦神ニ類セザル可カラズ、其作  
 業ハ則チ神性ニ則テサル可カラズ、人爲ニシテ若能ク神性ニ則  
 ラハ、則チ神ノ眞實ノ榮光ヲ顯彰スルノ行爲ナリ、人タル者ハ神  
 其榮光ヲ顯彰サシメンガ爲ニ造リ給フ所ナルヲ以テ、其性萬物  
 ニ勝レタルナリ、既ニ萬物ニ勝レタル人ニシテ神ニ則ラズ、之ヲ  
 擱テ他物ヲ目的トスルガ如キハ、則チ人性ヲ毀傷シテ漸ク邪惡  
 ニ墮落スルナリ、若之ニ反シテ他ノ諸物ヲ願ズ先神ノ榮光ヲ顯  
 彰ス、トチ目的トスル者ハ、則チ神性ニ則リ漸ク美德ヲ上進スル  
 トヲ得ベシ、且基督ハ其贖ヲ以テ人類ヲ救濟シ給ヘリ、故ニ神ノ  
 重ナル目的ハ乃チ神ノ榮光ヲ顯彰スルニ在ナリ、創世記第一章

ニ曰ク六神曰ク我儕宜ク人ヲ造リ我儕ノ像ニ肖リ海魚飛鳥牲  
 畜ヲ治メ亦全地及ヒ凡テ地ニ徇ル昆蟲ヲ治メシメント、七神乃  
 チ己ノ像ニ依テ人ヲ造レリ、之ヲ造リテ神ノ像ニ肖リ、且之ヲ男  
 女ニ造レリト、詩第百篇ニ曰ク、三耶和華ハ乃チ神ナリ、神我ヲ造  
 レリ我自ラ造ルニ非ズ、我儕ハ乃チ其民ナリ、神我ヲ牧ト羊ノ如  
 シト、哥林多前書第六章ニ曰ク、十九爾曹ノ身ハ爾曹ノ神ヨリ受  
 タル爾曹ノ衷ニ在ル聖靈ノ殿ニシテ爾曹ハ爾ノ屬ニ非ザルト  
 ヲ知ラザル乎、二十蓋爾曹ハ價ヲ以テ買ハレタル者ナレバナリ、  
 是故ニ神ノ屬タル爾曹ハ身ニ於テモ靈魂ニ於テモ神ノ榮ヲ顯  
 ハスベシト、又其第十章ニ曰ク、卅一爾曹ハ食ニモ飲ニモ何事ヲ  
 行フニモ凡テ神ノ榮ヲ顯ハス様ニ行フ可シト、哥羅西書第一章

二曰ク、十六盡彼ニ由テ萬物ハ造ラレタリ、天ニ在ル物、地ノ上ニ  
 在ル物、人ノ見ルトヲ得ル物、見ルトヲ得ザル物、或ハ位アル者、或  
 ハ主タル者、或ハ政ヲ執ル者、或ハ權威アル者、萬物彼ニ由テ造ラ  
 レタリ、且其造ラレタルハ彼ガ爲ナリ、十七彼ハ萬物ヨリ先キニ  
 在リ萬物ハ彼ニ由テ存ツトヲ得ルナリト、  
 第三項 如何セバ此重ナル目的ヲ達スルトヲ得ベキ乎、凡ソ人  
 類ヲ除クノ外、無心ノ萬物ハ思慮ナクシテ、皆能ク此目的ヲ達シ  
 神ノ榮光ヲ顯彰ス者ナリ、若能ク是等ノ受造物ニ注視スル者ハ  
 必ズ神榮ヲ見ル可シト雖モ、若學問アリテ是等ノ受造物ヲ觀察  
 スル時ハ益々明カニ神榮ヲ發見スルトヲ得ベシ、或有名ナル星  
 學士ノ説ニ曰ク、不信心ノ星學士ハ在人ナリト、詩第八篇ニ曰ク、

一我爾ガ手工ニ係レル蒼天ヲ觀、又爾ガ設置シタル月星ヲ觀ル、  
 四世人ヲ誰ト爲ス、爾之ヲ垂念ス人子ヲ誰ト爲ス、爾之ヲ眷顧ス  
 ト、又其第十九篇ニ曰ク、一上天神ノ榮光ヲ彰ハシ、穹蒼其經綸ヲ  
 彰スト羅馬書第一章ニ曰ク、二十夫人ノ見ルトヲ得ザル神ノ大能  
 ト其神タルトトハ受造物ニ由テ創世ヨリ以來曉リ得テ明カニ  
 見ル可シ、是故ニ人々推諉ル可キ様ナシト、  
 凡ソ人タル者ハ精神アルガ故ニ、自由自在ニ思慮シテ神ノ榮光  
 ヲ顯ハストヲ得ベキ者ナリ、又神ノ像ニ造ラレタル者ナルヲ以  
 テ明カニ其像ヲ顯ハサミル可カラズ、而シテ其像ト云ヒ其姿ト  
 云フ者ハ果シテ如何ナル者ヲ指ス乎、是固ヨリ身體ノ形像ニ非  
 ズ客姿ヲ謂フニ非ザルヤ明矣、何トナレハ神ハ本來無形ニシテ

人體ハ地上ノ芥塵ヨリ造ラレタル者ナレバナリ、然ラバ則チ所謂ル神ノ像トハ人心ノ正道、徳義、聖潔ナルハ即チ其像ナルノミ、然ルニ人類罪ヲ犯シテ其像ヲ傷ヒタレバ既ニ神ノ像ニ非ズ、反テ神ノ敵ト爲リ惡心ヲ顯ハス者ト爲レリ、然レバ則チ吾人罪人ハ今如何シテ神榮ヲ顯彰シ得ベキ乎、基督ハ我心ニ再ビ神ノ像ヲ立ル者ナリ、而シテ吾人基督ヲ信仰スルガ故ニ基督ヨリ生命ト勢力トヲ得テ再ビ神ノ像ニ復ルナリ、是故ニ信者ハ一切諸物ヲ棄テ、今世來世ヲ合セテ共ニ之ヲ神ニ放任ス可キナリ、且心ヲ盡シ意ヲ盡シ精神ヲ盡シテ、神ヲ愛シ己ノ如ク隣ヲ愛ス可キ者ナリ、又基督ノ生命ヲ受テ漸次ニ善ニ移リ、終ニハ只神意ニ適フ事ノミヲ爲ス可キ者ナリ、又其罪ヲ悔改メ惡ヲ棄テ己ヲ棄テ、眞ニ

我心ノ正義、聖潔ナルヲ神ニ類スル者ト爲ル可シ、然レバ則チ他人ハ其正義、聖潔ナル行爲ヲ視テ始メテ神ヲ頌讚スルニ至ル可シ、思フニ之ヲ是神ノ榮光ヲ顯彰スト謂フ可キナリ、羅馬書第十二章ニ曰ク、一然レバ兄弟ヨ我神ノ諸ノ慈悲ヲ以テ爾曹ニ勸ム、其身ヲ神ノ意ニ適フ聖キ活ル祭物ト爲シテ神ニ獻ケヨ、是當然ノ祭ナリ、ニ又此世ニ效フ勿レ、爾曹神ノ至ク且善ニシテ悦ブベキ旨ヲ知ランガ爲ニ心ヲ化テ新ニセヨト哥林多後書第三章ニ曰ク、凡テ我儕帕子ナシテ鏡ニ照スガ如ク主ノ榮ヲ見榮ニ榮彌増リテ其同像ニ化ルナリ、是主則チ靈ニ由テ也ト、加拉太書第五章ニ曰ク、廿二靈ノ結ブ所ノ果ハ仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信、廿三溫柔、撻節、此ノ如キ類ヲ禁ズル律法ハアルナシ、廿四夫基督

ニ屬スル者ハ肉ト其情及ビ慾トヲ十字架ニ釘タリト、哥羅西書  
 第一章ニ曰ク、廿一夫爾曹ハ素ヨリ惡行ヲ行フニ因テ神ニ遠ザカ  
 リ心ニテ其敵トナレル者ナリシガ、廿二神今基督ノ肉ノ身體ヲ以  
 テ共死ニ因リ爾曹ヲシテ己ト和ラガセ、潔ク玷ナク咎ナクシテ  
 己ノ前ニ立シメントスト、又其第三章ニ曰ク、十七爾曹ノ爲ス所ノ  
 諸事或ハ言或ハ行、皆主耶穌ノ名ノ爲ニ之ヲ爲シ、彼ニ由テ父ナ  
 ル神ニ感謝ス可シト、  
 第四款 人間自身ニ就テ重ニ目的トスル所ハ永遠神ヲ樂シム  
 一ナリ、  
 第一項 何ヲカ神ヲ樂シムト云フ乎、曰ク學士ノ學ヲ好ムガ如  
 ク、將校ノ兵ヲ好ムガ如ク、政治家ノ政治ヲ好ムガ如ク、信者ハ神

ヲ好ミ今世來世共ニ神ヲ樂シム者ナリ、但今世ニ於テ神ヲ樂シ  
 ム者ハ聖書ヲ讀ムトヲ好ミ、神ヲ拜スルトヲ好ミ、信徒ノ交際ト  
 其集會ヲ好ミ、神意ニ適フベキ事ノミヲ爲サントヲ好ミ、若罪過  
 アラバ速ニ之ヲ悔改メントヲ好ム、是今世ニ於テ神ヲ樂シムノ  
 徵候ナリ詩第十九篇ニ曰ク、七耶和華ノ律法全備ニシテ以テ魂  
 ナ化ス可シ、其證據明確ニシテ以テ愚ヲ破ル可シ、八其憲命正直  
 ニシテ以テ心ヲ悦ハス可シ、其誠言純清ニシテ以テ隙ヲ發ク可  
 シ、九其恐懼清明ニシテ悠久ナリ、其審判眞實ニシテ公正ナリ、十  
 其貴キト管ニ金ノミナラズ至美ノ純金モ比ブルニ足ズ、其甘キ  
 ト蜂蜜及ビ蜂房ノ滴瀝モ擬フルニ足ズ、十一且爾ノ僕之ニ由テ傲  
 戒メラレ、之ヲ守リテ大賞アリト、又其第九十四篇ニ曰ク、一爾ガ



帷幕何ゾ其優好ナル嗚呼我萬有ノ主ヨ、ニ我魂久シク主ノ室家  
 ヲ慕フテ將ニ絶ントス、我心我身、生ル神ヲ叫求ムト、又曰ク、十一  
 日モ爾ノ室ニ入ラバ千日ニ勝ラン、我惡人ノ帷幄ニ入ラソヨリ  
 寧ロ爾ガ家ノ門ヲ守ラント、約翰傳第四章ニ曰ク、三四耶穌彼等ニ  
 謂テ曰ク、予ヲ遣シタル者ノ旨ニ遵ヒ共工ヲ成シ畢ル、是予方糧  
 ナリト勝立比書第三章ニ曰ク、七然レド我曩ニ我益トナリシ所  
 ノ事ハ基督ニ由テ損アリト思ヘリト、  
 第二項 神ヲ樂シムハ人ノ最モ貴重ナル樂シミナリ、學問ノ樂  
 シミハ僅ニ受造物ヲ考究スルノ樂シミニ過キズ、受造物ヲ樂シ  
 ムモ亦殊勝ナル樂シミナリト雖、神ハ無限無變ニシテ永世不  
 易ナルガ故ニ、之ヲ樂シムモ亦無限無變ニシテ永世不易ノ樂シ

ミナリ、抑モ此樂シミタルヤ來世ニ至テ完全スベキノ樂シミナ  
 リ、今世ニ在テモ亦聖書ト教會ト祈禱トノ在ルアリテ神ト相交  
 ルノ道アリト雖、來世ニ至テハ神顔ヲ拜シ其聲ヲ聽キ、其位ニ  
 咫尺シテ直接ニ神ニ交ルヲ得ベシ、是之ヲ天國ノ樂シミト謂  
 フナリ、詩第十六篇ニ曰ク、十一、爾我ニ永生ノ道ヲ示ス、爾ノ前ニ在  
 テ欣喜勝ズ、爾ノ右ニ在テ恒ニ其樂シミアリト、約翰傳第十七章  
 ニ曰ク、三、永生トハ唯獨ノ眞神ナル爾ト其遣セシ耶穌基督ヲ知  
 ル是ナリト、默示錄第七章ニ曰ク、十五是故ニ彼輩ハ神ノ寶位ノ前  
 ニ在リ、且神殿ニテ晝夜神ニ事フ寶位ニ坐スル者ハ彼等ノ中ニ  
 居リ給フベシ、十六彼等ハ重テ飢ヘズ重テ渴カズ、又日モ熱氣  
 モ彼等ヲ害ハザルナリ、十七蓋寶座ノ前ニアル羔彼等ヲ養ヒ彼等

ヲ活ル水ノ源ニ導キ、又神彼等ノ涙ヲ其目ヨリ拭ヒ給フ可ケレ  
バナリト、

第三項 人先重ナル目的ヲ達スルヲ得レハ則チ次ノ目的ヲ  
達スルヲ善トス、何ヲカ次ノ目的ト云フ、蓋人ノ性質ト其他ニ關  
係スル所トヲ見レバ、則チ次ノ目的ヲ知ル可シ、夫人ハ其性質モ  
亦神ヨリ受得タル者ナルガ故ニ、其性質ノ目的ヲ達スルハ固ヨ  
リ惡事ニ非ズ、然レ此第二ノ目的ヲ以テ、第一重要ナル目的ニ  
代フレバ、則チ以テ罪ト爲ス可シ、既ニ神ノ榮光ヲ顯彰シ神ヲ樂  
シムノ目的ヲ達シタルノ後ニハ、更ニ第二ノ目的ヲ達ス可シ、是  
蓋シ佛法ニ反對スル所ナリ、佛法ニ於テハ世ヲ棄テ情ヲ去テ以  
テ正ニ歸ルト爲セ、基督教ハ則チ否ズ、人若此重要ナル目的ヲ

達スルノ心アレバ、則チ次ノ目的ニ從フ所之ヲ惡事トセズ、次ノ  
目的ヲ達スルニ於テモ亦重要大切ナル目的ヲ立ルヲアリ、創世  
記第一章ニ曰ク、廿八神彼等ヲ祝ミ又之ニ謂テ曰ク、生育衆多ニシ  
テ地ニ滿盈ス可シ爾克ク之ヲ治メ、並ニ海魚飛鳥及ビ地上ノ有  
生動物ヲ治ム可シ、廿九神曰ク、祝ヨヤ遍地ノ鹹ヲ結ブノ疏、核ヲ懷  
ク、樹果ハ、我爾ニ賜フテ以テ食ト爲サシムト、馬太傳第六章ニ曰  
ク、卅一然レバ何ヲ食ヒ何ヲ飲ミ何ヲ衣ント思ヒ煩フ勿レ、卅二此皆  
異邦人ノ求ムル所ナリ、爾曹ノ天ノ父ハ凡テ此等ノ物ノ必需ヲ  
ヲ知給ヘリ、卅三爾曹マヅ神ノ國ト其正義トヲ求メヨ、然ラバ此等  
ノ物ハ皆爾曹ニ加ヘラル可シト、

第五款 以上論ズル所ハ以テ神學ト示現ノ要旨ヲ解スルニ足

ル可シ、是徒ニ愉快ト爲シ珍奇ト爲シテ以テ神ノ本質ヲ考フルニ非ズ、蓋神ノ本質ヲ考フルハ神ト人トノ關係ヲ考フルニ在ルナリ、故ニ神學ニ於テモ又示現ニ於テモ人ノ救ノ爲ニ之ヲ論究スルナリ、之ヲ詳説スレバ人ハ如何ニシテ神ニ歸リ、再ビ神ノ像ヲ現ハスヲ得ルヤ、之ヲ考定スルニ在ルナリ、故ニ神學ヲ學ブ者ハ常ニ此主意ヲ記憶シ、此學ハ他ニ目的アルニ非ズ、只神ト人トノ關係ヲ論ズル者ト知ル可シ、是故ニ神學ハ神ノ本質ヲ詳論シ人ノ性質ヲ細説シテ遺漏ス所ナキニ非ズ、只神榮ヲ顯彰サンガ爲ニ必要缺ク可カラザル所ノミヲ論ズル者ナリ、

第二條 神學ノ事物

我等神ノ榮ヲ顯ハシ神ヲ樂シム爲ニ、我等ニ授ケテ教フル法

ハ新舊兩約書ニ記セシ神ノ言ノ外アルコトナシ、  
 第一款 古人コジン或ハ神ノ示現ニ由ラズ、只受造物ヲ考ヘテ能ク神ヲ知リタル者アリ、就中サクラチー！スヲ以テ最優モットモマサレル者トス、然レ此輩ノ考案中ニハ又種々ノ誤謬アヤアリ、或ハ其説未ダ十分ナラザル者アリ、殊ニ拯救スグヒノ道ニ至テハ全ク之ヲ知ラザリシナリ、何故ニ人ハ各其智識ヲ以テ神ノ本質ト拯救スグヒノ道トヲ知ルコト能ハザリシ歟、蓋シ人心暗愚オロカニシテ受造物ノ中ニ神性カミダレト其存在ノ顯ハレタルヲ知ラズ、皆既ニ不義ニ陥リタルガ故ニ神ノ本質ヲ知ルコト能ハズ神ヲ擱オキテ人獸ヒトケモノ、鳥魚トリイシナ、昆蟲ムシ、若クハ偶像ヲ拜スルニ至リシナリ、古人既ニ神ヲ知ラザルノ原因ヲ探究スレバ、則チ人心ノ不義ニ陥リタルニ是因ルナリ、羅馬書第一章ニ曰ク、十八夫神ノ

怒<sup>イカリ</sup>ハ不義ヲ以テ眞理ヲ抑<sup>オサ</sup>フル人々ノ凡テノ不虔不義ニ向テ天ヨリ顯<sup>アヲ</sup>ハル十九蓋<sup>ソノ</sup>人ノ知ル可キ所ノ神ノ事情ハ人ニ顯明ニシテ既ニ神之ヲ人ニ顯ハシ給ヘバナリ、二十夫人ノ見ルヲ得ザル神ノ永能<sup>カゼリナキカラ</sup>ト其神性トハ受造物ニ由リ、創世ヨリ以來悟リ得テ明ラカニ見ルベシ、是故ニ人々推誘<sup>イヒノガル</sup>ベキヤウナシ、廿一既ニ神ヲ知テ尙之ヲ神ト崇メズ、亦謝スルヲセズ、反テ其思念ヲ亂シ其愚ナル<sup>オロカ</sup>必蒙昧ナレリ、廿二自カラ智ト稱ヘテ愚魯ナル者トナリ、廿三朽壞ザル神ノ榮光ヲ變テ朽壞ベキ人及ビ禽獸昆蟲ノ像ニ似スルト、  
 第二款 神人ノ状態ヲ感憐ミ給ヒテ新舊約全書ト稱スル示現ヲ施シ給ヘリ、希伯來書第一章ニ曰ク、一神昔ハ多ノ區別ヲ爲シ、多ノ方ヲ以テ豫言者ニ由テ列祖ニ告給ヒシガ、ニ此末ノ日ニハ

其子ニ託テ我儕ニ告給ヘリト、提摩太後書第三章ニ曰ク、十六聖書ハ皆神ノ默示ニシテ教諭ト督責、又人ヲシテ道ニ歸セシメ、又正直ヲ學ハシムルニ益アリ、十七是神ノ人ノ完全ヲ得テ諸ノ善事ヲ行フニ缺ナカラン爲ナリト、彼得後書第一章ニ曰ク、二十先首ニ知ルベキ事ハ聖書ノ諸ノ豫言者ハ豫言者己ノ意ヲ以テ示セルニ非ザルヲ知ランナリ、廿一蓋豫言ハ素ヨリ人ノ意ニ由テ出シニ非ズ、神ニ屬スル聖人聖靈ニ感シテ語リシ者ナレバナリト、加拉太書第一章ニ曰ク、十二兄弟ヨ我爾曹ニ示ス、我曾テ爾曹ニ傳ヘシ所ノ福音ハ人ヨリ出ルニ非ズ、十二蓋我之ヲ人ヨリ受ズ、亦教ラレズ惟耶穌基督ノ默示ニ由テ受タレバナリト、  
 第一項 何ノ證據アリテ新舊約全書ハ神ノ示現タルヲ知ルヤ

其證據頗多シト雖凡先其一二ヲ舉レバ、聖書ノ教訓ト道德トハ遙ニ聖人ヨリモ勝レタル者ナリ、又聖書ノ勢力ハ古來數多ノ改革ヲ成シ、其當時ノ信者ノ證據ニ由テ、即今ト雖凡新ニ生ル、者アリト爲セリ、且基督自カラ我ハ神ノ愛子ナリトノ言アリ、又種々ノ奇蹟アリ、奇蹟中ノ最奇ナル者ニハ基督ノ復活アリ、又豫言ニハ一々應果アリ、況ヤ聖書ノ著者凡ソ三十名ニシテ、之ヲ著シタル處各異ニシテ、其時ハ凡ソ一千五百年ノ久シキニ涉リ、其書中ニハ歴史アリ、詩アリ、豫言アリ、諺アリ、文書アリ、而シテ其主義一貫シテ前後照應セザルコトナシ、是基督敎證據論ニ專ラ論スル所ナリ、

第二項 聖書ハ十分ナル示現ナリ、神ノ存在ト本質ト、又天地萬物ヲ創造リ、之ヲ保守リ之ヲ管理シ、之ヲ裁判シ給フノ方法、及ヒ人ノ罪惡ト義務ト拯救ノ道ト、神ヲ拜スルコトニ就テハ實ニ十分ナル示現ナリ人類拯救ノ爲ニハ此他ニ教ヲ須要トセズ、只奇事異聞ヲ好ミテ他事ヲ知ラント欲スル者アリト雖凡是固ヨリ拯救ノ爲ニ非ザルナリ、提摩太後書第三章ニ曰ク、十五且幼少時ヨリ聖書ヲ識ルコトヲ知レバナリ、聖書ハ爾ヲシテ基督耶穌ヲ信ズルニ因テ救ヲ得セシメンガ爲ニ智慧ヲ予フル者ナリ、十六聖書ハ皆神ノ默示ニシテ教誨ト督責又人ヲシテ道ニ歸セシメ、又正直ヲ學ハシムルニ益アリ、十七是神ノ人ノ全キヲ得テ諸ノ善事ヲ行フニ缺ナカラシ爲ナリト、

第三項 凡ソ聖書中最モ重要ナル所ノ意味ハ明晰ニシテ解シ

易シ、能ク信實ニ之ヲ讀ム者ハ拯救ノ道ヲ解得セザルナシ、然レレ聖書ニ記ス所ノ者ハ、神ノ本質ト其存在トニ由テ生ヨタル事ナルガ故ニ解シ難キ者モ亦之アルハ固ヨリナリ、且世間或ハ智者ト稱セラル、者ト雖凡、亦全ク之ヲ氷解セザル者アリ、彼得後書第三章ニ曰ク、十五且我儕ノ主ノ我儕ヲ永ク忍ビ給フハ、我儕ノ救ト爲ルヲ知ルベシ、我儕ノ愛スル兄弟保羅モ其賦ヘラレシ智慧ニ從ヒ、曾テ此事ヲ爾曹ニ書贈レリ、十六彼其凡テノ書ニモ此事ニ就テ語りタリ彼ノ書ノ中ニハ難明トコロアリ、無學ナル者心ノ堅カラザル者他ノ聖書ヲ強解ガ如ク、之ヲモ強解テ自カラ敗亡ニ至ルナリト、

第三條

組織ノ區別

聖書ハ重ニ神ニ就テ人ノ信ズ可キ事、又神ノ命ヲ給ヘル人ノ本分ヲ教フルナリ、

第一款 神ニ就テ人ノ信ズ可キ事トハ、神ノ存在ト其本質ト其定ト其工作トヲ謂フ、即チ神自身ニ就テ教ヘ給フ事、及ビ受造物ニ就テ神ノ工作ノ教是ナリ、  
 又信ズ可キ事トハ即チ神道ナリ神教ナリト知ル可キノ謂ニシテ、神ヲ拜ミ神命ヲ守リ、之ヲ神教ナリト思惟ザル可カラザルナリ、然レ凡眞ノ信仰ナル者ハ皆ニ此ノ如クナルノミナラズ、必ズ又聖靈ノ助ナカル可カラズ、而シテ眞ノ信仰ヲ爲ス者ハ只想像ノミナラズ赤心ヲ以テ神教ヲ識認シ之ニ任セ服フノ意アルベキナリ、

第二款 又神ノ命シ給ヘル人ノ本分トハ人間ノ神ニ就テ行フ可キ義務、及ビ人間相互ニ行フ可キ義務ヲ謂フナリ、馬太傳第五章ニ曰ク、十七我ハ律法ト豫言者トヲ廢ル爲ニ來レリト意フ、勿レ、來リテ之ヲ廢ルニ非ズ、成就セン爲ナリ、十八我誠ニ爾曹ニ告ン、天地ノ盡サル中ニ律法ノ一點一畫モ遂盡サズシテ廢ル、十九是故ニ人若誠命ノ至微キ一ヲ壞リ又ハ如是ク人ニ教ヘナハ天國ニ於テ至微キ者ト謂レン、凡ソ之ヲ行ヒ且人ニ教フル者ハ天國ニ於テ大ナル者ト謂ル可シト、

聖書ハ重ニ之ヲ惟教フル者ナリ、此他ノ教モ亦其中ニナキニ非ズト雖モ此ノ如ク大切ナル教ニ非ズ、而モ尙神言ナレハ皆之ヲ信仰セザル可カラズト雖モ、拯救ノ爲ニハ此ノ如ク大切ナル者ニ非ズ

○第二篇 神ノ存在、及ビ本質

第一條 神ノ本質

神ハ靈ニシテ其質、智慧、能聖、義、善具ナル、トニ於テ皆變易ナク永遠變化ザル者ナリ、

第一款 神ハ即チ靈ナリ、靈ハ英語ニ「スピリット」ト云フ、羅匈語ノ「スピリタス」ヨリ出タル語ナリ、聖書ノ原文ヲ見レバ希臘語ニ「マ」ト云ヒ、希伯來語ニ「ルア」ト云フ、而シテ此語ノ意義ヲ明亮ニセント欲スレバ、原文ニ就テ「ヌマ」ルア」ノ二語ヲ審詳ニセザル可カラズ、此二語ノ本義ハ風ナリ、約翰傳第三章第八節ニ風ハ己ガマヽニ吹ク、爾其聲ヲ聞ケ凡何處ヨリ來リ何處ヘ住ヲ知ラズ、凡テ靈ニ由テ生ル、者モ此ノ如シト、希臘ノ原書ニ就テ之ヲ觀レバ

風モ「ヌマ」ナリ靈モ亦「ヌマ」ナリ、又人ノ息ヲモ「ヌマ」ト云フ、又其國  
 民ノ説ク所ニ由レバ、凡ソ天地間ノ萬物ヲ觀テ、是何故ニ金石ナ  
 ル乎、是何故ニ草木ナル乎、是何故ニ鳥獸ナル乎、其由テ來ル所ヲ  
 察スルニ、是皆各々其「ヌマ」即チ英語ニ所謂ル「スピリット」ニ從テ、是  
 ノ如キ物ト爲リタル者ナリト云ヘリ、故ニ山川ノ「スピリット」ト云  
 ヒ、草木ノ「スピリット」ト云ヒ、鳥獸ノ「スピリット」ト云ヒ、又春夏秋冬ノ  
 「スピリット」ト云フ、是ニ由テ之ヲ觀レバ其説ク所ハ、山川ハ「スピリッ  
 ト」ニ非ズ、鳥獸モ亦「スピリット」ニ非ズト雖モ、是等ノ物ハ皆各其「ス  
 ピリット」ニ由テ是ノ如キ物體ト爲リタル者ナリト云フナリ、然リ  
 ト雖モ、凡ソ見テ金石ノ「スピリット」ヲ見ズ、山川ヲ見テ山川ノ「ス  
 ピリット」ヲ見ズ、凡ソ「スピリット」ナル語ハ常ニ勢アリテ形ナキ者ヲ

指ナリ、從來慣用スル所ノ「スピリット」ナル言ノ意義ヲ推考スルニ、  
 是惟大切ナル勢力アリテ形體ナキ者ナリト雖モ、因テ以テ萬物  
 ナ區別ス可キ者ナリ、人若自身ノ性質ヲ回想スレバ、我體內別ニ  
 一物ノ在ル有リ、其物タルヤ物質ナク形體ナク、聲モナク香モナ  
 ク、見ヘズ聞ヘズト雖モ、而モ最モ大切ナル者ナリ、其之アルガ故  
 ニ人能ク人タルヲ得ル者ナリ、若之ナクバ則チ人ニシテ人ニ非  
 ズ、人體ハ輒チ塵芥ニ歸スル者ナリ、此最大切要ナル一物ヲモ亦  
 稱シテ「スピリット」ト云フ、蓋シ其無形ニシテ大勢力アルガ故ニ、風ニ  
 似タル所アルヲ以テ名ヅケタルナラン手、然レモ其意大ニ異ナ  
 ル所アリ又所謂ル鳥獸草木ノ「スピリット」ニモ似タル所アリテ亦  
 大ニ異ナル所アリ、夫人ノ「スピリット」ハ智慧アリ心情アリ生命ア



リ良心リヤウシンアリ、而シテ自ラ能ク己オノレヲ知ル者ナリ、故ニ傲慢ゴウマンナル者ヲ指シテ「ハイ高」スピリットト云ヒ、激怒ゲキドスル者ヲ「ヘスト急」スピリットト云ヒ、正義セイギナル者ヲ「ビュール清」スピリットト云ヒ、無殘ムゼンナル者ヲ「グール猛」スピリットト云フ、蓋人心ヲ説ク者ハ皆其「スピリット」ニ由テ之ヲ名ヅクルナリ、從來シヨライ「スピリット」ノ意義イギ大畧ダイリヤク上ノ如クニシテ、常ニ形體ツネナク人目ヒトメニ見ヘズ而シテ勢力セリキアル者ナリ、然ラバ則チ「スピリット」ハ本ホツ來ライ高貴コウキニシテ尊タラトブ可キ者ニ非ズ、又卑ヒ下カニシテ賤イキシム可キ者ニ非ズ、若物質ブツツノ「スピリット」ト云フガ如キハ大低ダイテイ皆キ勢カセキヲ云フナリ、又鳥獸トウブツノ「スピリット」ト云フガ如キハ固ヨリ貴オウツキ者ニ非ズ、人ノ「スピリット」ニ至テハ世間最モ尊タラトキ者ナリト雖タラト凡オノレ、人ハ即チ「スピリット」ナリト

云フ丁能ハズ人ハ體ト「スピリット」トヲ併セタル者ナリ、眞ノ「スピリット」ナル者ハ則チ體ナキ者ナリ、夫「スピリット」ナル言ハ當今コトイマ慣用クワンヨウスル所ニ於テモ、種々ノ意義アリト雖タラト凡オノレ、單ニ「スピリット」ト云フ者ハ大概オノレ人ノ「スピリット」ノ如キ者ノ類、即チ智チ覺カク、良心リヤウシン、自知チ、等ヲ指ス者ナリ、然レ凡オノレ若之ニ熟ジュク字ジヲ配ハイシ或ハ形容詞ケイヨウシヲ附ツスル時ハ則チ其熟字、若シハ形容詞ニ由テ能ク其意義ヲ解得ケトクス可シ、又此「スピリット」ヲ日本語ニ譯シテ、能ク是等種々ノ意義ニ適當テキトウスル者ハ、恐ラシハ氣キノ字ナラン乎、其他ニ未ダ穩當オントウナル譯字ヲ得ザル者ノ如シ、スピリットハ是ノ如ク廣大ナル意味アルヲ以テ、學者中ニハ區々ノ論議アリ、例バ「ホリー聖」スピリットハ一アル說セツニ是只オノレ神カカミノミト曰フト雖タラト凡オノレ、日本語ニ譯スルニ方

テハ前ノ如ク廣大ナル意味アル語ニ非ザレバ當ラズ、若之ヲ譯シテ靈ト云ハ、其意味恐ラクハ狭キニ過ルナラン、實ニ上ニ説ケルガ如キ種々ノ意味ヲ説明スルニ足ザル者ナリ、然リト雖モ畧問答、及び聖書ノ譯語ニ靈ノ字ヲ填タルヲ以テ、本書中ニモ亦之ヲ襲用スレモ、靈ノ字ハ希臘語ノ「ダイモン」ト稍相似タルヲ以テ、讀者或ハ是ヨリ誤謬ヲ生センコトヲ恐ル、ナリ、是ヲ以テ「スピリット」ヲ説明スル者ハ平常人事ノ作業ニ通用スル語ヲ以テセザル可カラズ、何トナレバ人ノ「スピリット」ノ作業ニ由テ神ノ「スピリット」ノ質ヲ知ル可ケレバナリ、

第一項 神ハ即チ「スピリット」ニシテ形體ナク物質ナキ者ナリ、故ニ物質ヲ以テ神ノ性質ヲ説明スルコト能ハズ、蓋神ハ無量無究ニ

シテ朽廢ザル者ナリ、金石動物植物ヲ需要スル者ニ非ザルナリ、

第二項 神ハ勢力アル者ナリ、

第三項 人自カラ我「スピリット」ヲ顧レバ、智慧アリ良心アリ自知アリ、神ノ「スピリット」モ亦此ノ如シ、

右此三項ヲ了解スレバ、人々二三ノ大事ヲ知ル可シ、

其一 神ハ「スピリット」ナリト云ヘバ、天體地球ノ如キハ固ヨリ神ニ非ザルヲ知ル可シ、是等ハ皆物質アル者ニシテ「スピリット」ハ之ニ反スル者ナリ、

其二 是ニ由テ第二ノ誠ヲ了知ス可シ、神ハ元來形體ナキ者ナルガ故ニ、偶像ヲ造リテ之ヲ拜スルハ實ニ罪ナリ、神ノ像ニ非ザレバ則チ神ニ非ズシテ別物ナリ、神ハ「スピリット」ナレバ其形容詞

ニ由テ之ヲ詳知ス可シ即チ聖書ニ現レタル性質ニ由テ如何ナル「スピリット」ナル乎、之ヲ知ル「得」ベキナリ、復傳律例第四章ニ曰ク、十五「耶和華何烈山ニ於テ火中ヨリ爾ニ諭ス時ハ、爾曹未ダ何シ像ヲモ見ズ、故ニ宜シク自カラ慎シムベシ、十六「恐クハ爾自カラ敗壞セシ己ガ爲ニ何ノ像ヲ彫刻シ、或ハ諸形ニ彷彿シ、或ハ男或ハ女ノ狀、十七「或ハ地ニ在ル諸獸ノ狀、或ハ翼アリテ空ヲ飛ブ諸鳥ノ狀、十八「或ハ地上ニ滿行スル諸物ノ狀、或ハ地下水中ノ諸魚ノ狀ヲ論ズル無キヲ致サン、十九「恐クハ爾目ヲ舉テ天ニ向ヒ、爾ノ神耶和華ノ普天下萬國ニ分布セル日月星辰、即チ天ノ全軍ヲ見テ則チ惑テ之ヲ拜シ之ニ事ヘント、路加傳第四章ニ曰ク、廿四「神ハ靈ナレバ拜スルモ亦靈ト眞トテ以テ之ヲ拜ス可キナリト、

其三 神ハ「スピリット」ナルガ故ニ固ヨリ何物ヲモ吾人ヨリ奉ズルヲ要セザルナリ、殊ニ衣食ノ如キハ之ヲ神ニ奉ズルモ、未ダ以テ神ヲ喜バシムルニ足ラズ、且夫神ハ形體ナク物質ナキヲ以テ、是處ニ在リ彼處ニ在ラズト云フ「能ハズ、然レバ則チ神前ニハ心ヲ以テ尤モ大切ナリトス、正義潔白ノ心ヲ以テ神ヲ拜ス可キナリ、使徒行傳第十七章ニ曰ク、廿四「夫宇宙ト其中ノ萬物ヲ造リ給ヘル神ハ是天地ノ主ナレバ、手ニテ造レル殿ニハ住給ハズ、廿五「且衆人ニ生命ト息氣ト萬物ヲ予ヘ給ヘバ物ニ乏シキ「ナシ、人ノ手ニテ事ヘラル、者ニ非ズト、

其四 神ノ本質ヲ視ルニハ人ノ本質ヲ顧ミルヲ以テ尤必要トス、若シ他事ノミヲ考テ神ハ「スピリット」ナリトスルハ大過ヲ生

スルヲアラン、人類ハ神像ニ造ラレタル者ナルカ故ニ之ヲ他物  
 ニ比スレバ最モ神ニ類似スル者ナリ、  
 以上論ズル所ニ由テ、神ハ「スピリット」ナルノ大意ヲ解スルナラン、  
 然リト雖モ又大ニ之ニ異ル者アリ故ニ未ダ是ニ由テ神ハ果シ  
 テ何物ナルヲ知ル可カラズ、今其質ヲ考定セザル可カラザルナ  
 リト  
 第二款 量ナキ神ノ質ヲ考察スルニ是悉皆ク無量無限ノ者ナ  
 リ乃チ人ハ假令聖賢智識ト雖モ神ヲ測ルヲ能ハズ、幾多ノ智慧  
 感覺アリト雖モ神ノ質ハ則チ尙常ニ人ノ上ニ在ル者ナリ、若天  
 使ノ如キ神ノ創造セル物ノ中ニハ最モ尊キ者ト雖モ、尙未ダ神  
 ノ本質ヲ全ク理解スルヲ能ハズ、又人ハ未來ノ世々ニ至ルマデ

際限ナク神ノ質ヲ考フルモ、到底誠ニ能ク之ヲ理解スルヲ得  
 ベキ者ニ非ズ、何トナレバ人ハ皆限りアル者ナリ、人ノ智慧ト感  
 覺トハ萬物ニ勝レテ貴重ナル者ト雖モ、尙未ダ限アル者タルヲ  
 免カレズ、但神ハ限ナキ者ナルガ故ニ、是ト彼トヲ比較スルヲ能  
 ハズ、何トナレバ限アル者ハ之ヲ合併シ、之ヲ積堆シテ幾百千萬  
 ノ大數ニ至ルモ、尙限アル者ニシテ限ナキ者タルヲ能ハザルナ  
 リ、然レバ則チ神ト人或ハ受造物トヲ考フレバ當ニ之ヨリ尊キ  
 ノミナラズ、人ハ億兆ヲ合スルモ尙且限アリ、真ノ神ハ獨リ限ナ  
 キガ故ニ其差違測ル可カラズ、神ハ無量無限ナルヲ以テ神ノ本  
 質即チ智能、聖義、善、真等ノ如キハ悉ク無量無限ナリ、詩第四百十  
 五篇ニ曰ク、三耶和華ハ乃チ大ナリ、宜シク極メテ讚美スベシ、其

大ナル勝テ察ス可カラズト、羅馬書第十一章ニ曰ク、三四孰カ主ノ  
 心ヲ知り、孰カ彼ト共ニ議ルヲ爲シヤト、  
 第二款 永遠 神ハ量ナキ者ニシテ、其存在モ亦量ナキ者ナリ、  
 是ヲ永遠ト云フ、乃チ神ノ存在ハ無始無終ニシテ恒ニ同様ナリ、  
 此無量無限ナル永遠ト世上ノ時代トヲ考フルニ、是亦互ニ比較  
 スルヲ能ザル者ナリ、時代トハ前後繼續ノ謂ニシテ、前ト云ヒ今  
 ト云ヒ後ト云フヲ得ベシト雖、神ノ存在ハ永遠ニシテ繼續  
 ナキノ謂ナリ、故ニ前、今、後ノ別ヲ論セズ何時モ皆今ナリ、永遠無  
 始無終ノ存在ハ人智ノ能ク知ル所ニ非ズ、神ノ本質ハ皆無始無  
 終ノ者ナリ、人ノ魂ハ終ナキ者ナリト雖、神ノ如ク永遠ナル者  
 ニ非ズ、何トナレバ人ノ魂ハ始アル者ニシテ、且其終ナキハ神力

ニ由ル者ナルガ故ニ、無終ノ存在ハ神ヨリ受ル所ナリ、而シテ神  
 ノ永遠ナル、存在ハ獨立自在ナル者ナリ、詩第九十篇ニ曰ク、一主  
 ヲ 歴古以來ノ世々、爾ハ曾テ我儕ノ居處タリ、ニ山未ダ生セラレ  
 ズ、爾未ダ天地ヲ産セザルノ先ニ永遠ヨリ永遠ニ至ルマデ爾ハ  
 神タリ、三爾人ヲシテ塵ニ歸セシメ、乃チ曰ク、人ノ嗣ヨ爾宜シク  
 歸スベシト、四蓋シ爾ノ目前ニ在テ一千年ヲ經ルハ己ニ過ルノ  
 昨日ノ如ク、夜間ノ更ルガ如シト、彼得後書第三章ニ曰ク、八愛ス  
 ル者ヨ爾曹此一事ヲ知ラザル可カラズ、主ニ於テハ一日ハ千年  
 ノ如ク、千年ハ一日ノ如シト、提摩太前書第六章ニ曰ク、十六獨一死  
 ザル者、近ヅクトヲ得ザル光ニ在シテ人未ダ見シトナク、又見ル  
 丁能ハザル者ナリ、尊貴ト窮ナキ權力彼ニ在レ、アーメン、

第四款 不變易、神ノ永遠、無始無終ナル存在ヲ熟考スルニ、神ハ固ヨリ變易ザル者ナリ、何トナレバ時ノ前、今、後ヲ論セズ、元始ヨリ萬事ヲ知リ萬物ヲ知リ、又萬物ノ行爲ヲ知リ給ヘリ、此ノ如クナレバ固ヨリ變易ル可キノ理由ナキ者ナリ、且夫神ハ量ナキ者ニシテ即チ全キ者ナルガ故ニ變易ザル者ナリ、若變易ルアアリトセバ或ハ尙善ト爲リ、或ハ稍惡ト爲ルベキ歟、善惡孰ヲ問ハズ若稍移ルアアリトセバ、則チ神ハ變易ザル者ニ非ズ、全キ者ニ非ザルナリ、若善ニ進ムアアル者ハ本來純全ナル者ニ非ズ、又若惡ニ移ルアアル者モ亦純全ナル者ニ非ズ、是順序ノ最モ觀易キ者ナリ、故ニ若變易ルアアル者ハ眞ノ全キ者ニ非ズ、即チ神ニ非ザルナリ、神ノ智慧、感覺、正義、眞誠ノ如キハ時ニ因テ増減アルベ

キノ理ナシ、必ズ常ニ相同シカル可キ者ナリ、是故ニ神ハ恒ニ變易ザル者ナリ、馬拉基書第三章ニ曰ク、六我ハ乃チ耶和華我ハ變易ラズト、詩第三十三篇ニ曰ク、十一耶和華ノ旨ハ永ク在リ、其意ハ易ラズト、雅各書第一章ニ曰ク、十七凡ノ善賜ト全キ賜ハ、皆上ヨリ諸ノ光明ノ父ヨリ降ルナリ、父ハ變ルアナク又轉動テ顯ル、影モナキ者ナリト、然リト雖、聖書中ニ耶和華己ノ人ヲ地ニ造レルヲ悔テ之ヲ愛フト云フガ如キ言ナキニ非ズ、是只人事ニ擬ヘテ之ヲ言ヘルノミ、人間神ノ作業ヲ説明スルニ我言語ヲ用フルナリ、神ノ作業ハ徹頭徹尾人間ノ知ル所ニ非ズ、或ハ暫時之ヲ視テ其變易タルガ如キヲ覺ユレ、神慮神意ニ於テハ實ニ變易ルアナク後ヨリ之ヲ觀レバ其行爲モ亦變易ザルナリ、

第五款 質<sup>シツ</sup> 神ノ本質ハ量<sup>ハカリ</sup>ナク永遠變易ザル者ナリ、然レハ則チ神ハ萬物自然ノ性質ノ資格<sup>シカク</sup>ノ如ク人ノ考定ニ出ル者ニ非ス、學者ハ心理學ヲ立テ以テ諸物ヲ考究シ永遠窮<sup>カキ</sup>ナク變ラザルノ說ヲ以テ神ト爲スト雖<sup>モ</sup>神ハ反テ實在<sup>シツ</sup>スル者ナリ、神學者ハ神ノ示現<sup>シ</sup>ヲ觀テ其本質ヲ知ルナリ、神ノ本質ハ無量<sup>ムリヤク</sup>無限<sup>ムゲン</sup>ニシテ實ニ在ラザル所ナキ者ナリ、天地ニ於テモ日星ニ於テモ地獄ニ於テモ神ノ在ラザル所ナシ、斯ク論シ來テハ、神ハ至大<sup>シ</sup>ナル者ニシテ、一分<sup>ブ</sup>ハ此處ニ在リ又一分ハ彼處ニ在リ、其分ハ天ニ在リ此分ハ地ニ在リトスルガ如キ考<sup>カク</sup>按<sup>ア</sup>ニ似タリト雖<sup>モ</sup>決シテ然ルニ非ズ、分トハ元來<sup>モトヨリ</sup>物質ノ部分ニ用フル言<sup>コトバ</sup>ナリ、神ハ「スピリット」ナルガ故ニ其部分ヲ區別ス可キ者ニ非ズ、然レ<sup>モ</sup>神ノ本質ハ此ニ在リ

彼<sup>カノ</sup>ニ在リ天ニ在リ地ニ在リ皆在ラザル所ナキモ人能ク之ヲ知ラザル也、神ハ量ナキ者ナルヲ以テ只其本質ヲ知ラザル可カラズ、列王記略上卷第八章ニ曰ク、廿七神ハ果シテ肯<sup>ア</sup>テ地ニ居ラン乎、視ヨ諸天ノ天ト尙以テ爾ノ居ルニ足ラズ、况ヤ我建ル所ノ此室<sup>コノ</sup>ヲヤト、詩第三百三十九篇ニ曰ク、七我何ニ由テ爾ノ靈ヲ逃<sup>ユ</sup>ル、ヲ得<sup>エ</sup>ン乎、八若我天ニ昇<sup>ノボ</sup>レバ爾ハ則チ彼<sup>カノ</sup>ニ在リ、若我榻<sup>トク</sup>ヲ陰府<sup>ヨミ</sup>ニ下サバ視ヨ爾モ亦彼<sup>カノ</sup>ニ在リ、九若我昧<sup>アイ</sup>爽<sup>ソウ</sup>ノ翼<sup>ツバサ</sup>ニ乘テ海ノ極<sup>キョク</sup>ニ居ラハ、十彼<sup>カノ</sup>ニ在テ爾ノ手モ亦我ヲ導<sup>ミチ</sup>キ爾ノ右手我ヲ執<sup>ト</sup>ルト、神ハ實ニ在ラザル所ナシト雖<sup>モ</sup>凡<sup>ソ</sup>或處ニ於テハ特ニ其本質ヲ顯彰<sup>アキラ</sup>シ給フ所アリ、例<sup>タト</sup>ハ天ト其教會ノ如キ則チ是ナリ、馬太傳第十八章ニ曰ク、二十蓋<sup>フタ</sup>我名ノ爲ニ二三<sup>フタ</sup>人集<sup>アツ</sup>レル所ニハ我モ其中ニ在レバナ

神ノ本質ハ永遠無始無終ニシテ唯神ノミ獨立シテ實在スル者ナリ、神ハ生レタル者ニ非ズ造レタル者ニ非ズ、他ヨリ生命ヲ受タル者ニ非ズ、獨立自在ニシテ始ナク生ル者ナリ、而シテ其他ノ萬物ハ則チ皆神ヨリ其存在ト性質トヲ受タル者ナリ、神ノ助カニ因テ現有物タルヲ得ル者ナリ、而シテ唯神ノミ純全實在ノ者ナリ、使徒行傳第十七章ニ曰ク、世ハ夫我儕ハ彼ニ頼テ生キ又動キ又存テ得ルナリ、爾曹ノ詩人等モ我儕ハ其裔ナリト云シガ如シト、

是故ニ神ノ本質ハ變易ザル者ニシテ萬物ハ神ヨリ其存在ヲ受ルト雖モ、神ノ本質ハ之ガ爲ニ減ズヘキ者ニ非ズ、又永遠増加ス

可キ者ニ非ザルナリ、

第六款 智慧、神ノ智慧ニ二ノ區別アリ、即チ覺識及ヒ眞智是ナリ、

第一項 神ノ覺識ハ無量ニシテ、天地萬物固ヨリ知ラサル所ナシ、大ハ則チ日月星辰ヨリ、小ハ則チ砂土微塵ニ至ルマテ全ク之ヲ識リ給ヘリ、人ノ身體心志思想、行爲、皆明カニ之ヲ見又能ク己ノ本質ヲ識リ給フ者ナリ、故ニ神ノ覺識ハ實ニ無量無限ナリ、詩第百三十九篇ニ曰ク、一耶和華ヨ爾會テ監テ而シテ我ヲ識レリ、ニ我坐シ我起ツ爾之ヲ識リ爾遠ヨリシテ我念慮ヲ知ル、三我ノ徑我ノ寢、爾之ヲ察シ、凡ソ我ノ途ハ爾深ク之ヲ知ル、四耶和華ヨ蓋シ我舌ノ言ハ爾周知ラザルナシト、又其第百四十七篇ニ曰



ク、五我主ハ乃チ大ニシテ大能アリ、其明哲窮ナシト、馬太傳第十  
 章ニ曰ク、廿五二羽ノ雀ハ一錢ニテ售ルニ非ズヤ、然ルニ爾曹ノ父  
 ノ許ナクハ其一羽モ地ニ墮ルトアラシ、三十爾曹ノ頭ノ髮亦數ヘ  
 ラルト、  
 神ノ覺識ハ永遠變易ザル者ナリ、時ノ前、今、後ヲ論セズ、諸事皆神  
 ノ目前ニ顯ハレタル者ナリ、後世ノ事ト雖モ知ラザル所ナク、人  
 間ノ歴史ハ世ヲ終ルマデ至ク之ヲ知リ給ヘリ、人間自由ノ行爲  
 ト雖モ神ハ素ヨリ之ヲ識リ給ヘリ、神ノ覺識ハ如何スルモ之ヲ  
 増減シ得ベキニ非ズ、詩第百二十九篇ニ曰ク、十一若我ハ惟暗キト  
 我ヲ蔽フト云ハ、則チ昏夜ハ將ニ我ニ於テ光ヲ爲サントス、十二  
 夫暗キモ爾ニ暗カラシメズ、然シテ夜モ亦光リ照ス、丁日ノ如シ、

暗キト如何、光モ亦如何ト、使徒行傳第十五章ニ曰ク、十八神ハ世ノ  
 始ヨリ其諸ノ所作ヲ知リ給ヘリト、  
 第二項 神ノ眞智モ亦永遠量ナキ者ナリ、智トハ猶才智ト云フ  
 ガゴトキ者ニシテ、事ニ當テ能ク活動シ能ク作爲スルヲ云フナ  
 リ、凡ソ天地間ノ萬物微小ノ物ヨリ至大ノ物ニ至ルマデ、一トシ  
 シテ神法ニ從ハザル者ナシ、世間ノ學士輩心ヲ協セ力ヲ戮セテ  
 探窮スレモ、極小微物ト雖モ全ク其事情ヲ氷解スルト能ハズ、只  
 何物ヲ觀テモ一々神ノ眞智ニ驚クノミ、夫聖書ハ特ニ神ノ眞知  
 ヲ顯彰ス者ナリ、基督ノ拯救ノ道ニ由テ明カニ之ヲ知ル可シ、詩  
 第八篇ニ曰ク、三我爾ノ天ハ爾ノ指ニテ造ル所ナルヲ觀、月ト星  
 トハ爾ノ設クル所ナルヲ觀レバ、四則チ世ノ人ヲ誰ト爲ス、爾之ヲ

念フヲ致ス乎、人ノ子ヲ誰ト爲ス、爾之ヲ願ルヲ致ス乎ト、又其第百零四篇ニ曰ク、廿四耶和華ヨ爾ノ造ル所何ゾ其多キヤ皆爾ノ手ヲ以テ造ル所タリ、地ハ爾ノ物ヲ以テ充滿スト、羅馬書第十章ニ曰ク、三三嗚呼神ノ智ト識トノ富ハ深イカナ、其法度ハ測リ難ク、其踪跡ハ索テ難シ、三四孰カ主ノ心ヲ知リシ、孰カ彼ト共ニ議ルヲ爲シヤト、

第七款 能<sup>チカク</sup>神ノ能ハ量<sup>ハカリ</sup>ナク永遠變易ナキ者ナリ、人ノ力モ亦之アリト雖<sup>レ</sup>、僅<sup>ク</sup>少<sup>シ</sup>ニシテ或ハ爲シ得ルトアリ、或ハ能ハザルトアリ、又屢々<sup>ズ</sup>器具<sup>ヲ</sup>用ヒテ其作爲<sup>ハ</sup>助クルトアリ、然レ<sup>レ</sup>神力ハ決シテ是等ノ類ニ非ズ、物ノ有無<sup>ニ</sup>關<sup>ス</sup>セズ、自由ニ作爲<sup>ス</sup>キ得ル者ナリ、例ヘバ始メ一物ナクシテ唯其道<sup>ノ</sup>ミチ以テ天地萬物ヲ創

造シ給ヘリ、人ハ自己ノ望ノ儘ニ作爲<sup>ス</sup>キ得ル者ニ非ズ、獨神ハ其望ニ從ヒ何方<sup>ニ</sup>マテモ作爲<sup>ス</sup>キ得ル者ナリ、且其心ニ適ヘバ能ハザル<sup>ル</sup>トナク、其心ニ適ハザル事ハ之ヲ爲スヲ得ズ、神ノ本質ニ智慧<sup>ニ</sup>聖義、善、真ナルトアリ、是則チ神ノ心ナリ、若之ニ反スル者ハ其心ニ適ハザル事ナルガ故ニ之ヲ成ス<sup>ル</sup>能ハズ、然リト雖<sup>レ</sup>、凡<sup>レ</sup>之ヲ以テ神ニ能ハザル所アリト爲ス可カラズ、神ハ其心ノ欲スル所ニ從ヒ、何事モ自由自在ニ成シ能ハザル所ナシ、若其心ニ適ハザル<sup>ト</sup>チ爲ス者ハ、是自由自在ノ動作ヲ爲シ得ル者ニ非ズ、自己ノ望ヲ棄テ他ニ從ヒ、自己ノ心ニ背キテ他ノ奴僕ト爲ル者ナリ、然レバ則チ不自由不自在ナル者ト謂フ可シ、而シテ神ハ自由自在ニシテ固ヨリ其心ニ適ハザル事ヲ成ス可カラザル者ナリ、

世人或ハ天地萬物ヲ考察シテ稍神能ヲ知ルト云フト雖凡、人智  
 限アリ究極ニ至ルヲ能ハズ、若小ナル者ヲ觀ルモ其小キ究極ヲ  
 觀ルヲ能ハズ、例ヘバ人清水ヲ視テ之ヲ清潔ナリトスルモ、顯微  
 鏡ヲ以テ之ヲ觀レバ則チ無數ノ小蟲アリ、又顯微鏡ノ力ヲ増セ  
 バ漸ク蟲類ノ數ヲ加ヘ、愈々増セバ愈々多キヲ加フルガ故ニ、人  
 得テ小蟲ノ究極ヲ見ルヲ能ハズ、若大ナル者ヲ觀ルモ亦之ニ同  
 シク究極ナシ、例ヘバ地球ハ恒星ノ如ク大ナル者ニ非ズ、僅ニ一  
 遊星ニ過キズ即チ日輪ヲ回轉シテ行ク所ノ行星ナリ、之ヲ日輪  
 ニ比ブレバ至微至小ノ者ナリ、然レ凡星辰多クハ大サ日輪ノ如  
 シ、且恒星ノ中ニ就テ日輪ハ甚大ナル者ニ非ズ、而シテ此諸星辰  
 ノ數ハ果シテ幾許ナル乎、人得テ之ヲ知ラザルナリ、單ニ肉眼ヲ

以テ之ヲ視ルモ其數尙頗ル衆多ナリ、若望遠鏡ヲ以テ之ヲ視レ  
 バ又大ニ其數ヲ増加シ鏡力愈々増加スレバ其數從テ増加ス、人  
 誰カ能ク星數ノ限ヲ知ランヤ、而シテ此衆星皆一定ノ法則ニ從  
 フ者ナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ小ニモ限ナク大ニモ亦限ナシト  
 雖凡、是皆神ノ能ニ由テ造リ給フ所ナリ、故ニ人間僅ニ神力ノ能  
 ハザル所ナキヲ知ルト雖凡、神力ハ受造物ヲ以テ測ルヲ能ハザ  
 ル者ナリ、  
 基督ノ奇蹟ノ如キハ則チ神能ノ適例ナリ、基督ハ其道ヲ以テ病  
 ヲ醫シ風波ヲ制御シ死人ヲ蘇生セシメタリ、詩第三百三十五篇ニ  
 曰ク、五耶和華凡ソ欲スル所ノ者ハ則チ之ヲ天ニ地ニ海ニ諸淵  
 ニ行フト創世記第一章ニ曰ク、一元始ノ時、神天地ヲ創造セリ、三

神曰ク宜シク光アルベシト即チ光アリキト、耶利米記第三十二章ニ曰ク、十七主耶和華ヨ視ヨヤ爾爾ノ大能ヲ以テ爾ノ引セル臂ヲ以テ天地ヲ造リ成セリ、爾ガ成シ能ハザル事ナシト、馬太傳第十九章ニ曰ク、廿六耶穌彼等ヲ見テ曰ク、是人ニハ能ハザル所ナリ、然レド神ニハ能ハザル所ナシト、

第八款 聖ノ原語ノ本義ハ清潔ナリ、美麗ナリ、汚穢ナキナリ、夫神ハ全ク清キ者ナルガ故ニ、其行爲其心思全ク清淨シテ罪惡不良ノ事絶テナキ者ナリ、世間聖人ト稱スル者ハ之ト異ニシテ、或ハ自カラ其罪愆其惡徳ヲ明言スル者アリ、神ハ則チ然ラズ罪愆惡徳ノ如キ缺處ハ一モ之アルコトナシ、乃チ純全神聖ナル者ナリ、故ニ神ノ聖清ハ罪惡ノ反對ニシテ其營敵ナリ、冥暗ハ光明ト

共ニ在ルコト能ハザルガ如ク罪惡ハ神ト共ニ在ルコト能ハズ、蓋シ罪惡ハ若神前ニ出レ、ハ忽チ消滅ス可キ者ナリ、然リ而シテ人ノ神聖ヲ見ルコト能ハザル者ハ、其心ニ罪惡アルガ爲ナリ、若神聖ヲ見ル時ハ忽チ消失スルナラン、聖清ハ實ニ神ノ本質ノ中心ナリ、神若聖清ヲ棄レバ則チ其本質ヲ全廢スルノ理ナルヲ以テ、神ハ則チ神ニ非ズシテ別物トナルニ至ラン、故ニ神ハ決シテ其聖清ヲ廢棄シ給ハズ、神ハ恒ニ常ニ全聖清潔ナル者ナリ、夫聖書ハ特ニ神聖ヲ顯ハス者ナリ、異端ノ道ニ於テハ神聖ニ就テモ亦異説アリト雖、聖書中ニハ始ヨリ終ニ至ルマデ神聖ノ教義最モ明カナリ、若之ニ就テ疑惑アラバ則チ主ノ教義ヲ失フニ至ラン、信者ハ則チ否ラズ心ヲ盡シテ神聖ヲ愛シ、遙ニ天地萬物ニ優リテ

大切ナル者ト深ク感賞スル者ナリ、詩第五篇ニ曰ク、蓋シ爾ハ惡ナル者ヲ悦ブノ神ニ非ズ、不義ナル者ハ爾ト偕ニ居ルトヲ得シ、五騎レル者ハ爾ノ目前ニ立ツトヲ得ズ、爾ハ凡テ惡ヲ作ス者ヲ恨ムト、哈巴谷書第一章ニ曰ク、十三爾ノ目ハ乃チ潔ヨク背テ妄爲ヲ觀ズ爾背テ惡行ヲ視ズト、默示錄第十五章ニ曰ク、主ヨ誰カ爾ヲ畏レザランヤ、誰カ爾ノ名ヲ崇メザランヤ、唯爾ハ聖シ、萬國ノ民爾ヲ來リテ拜セン、爾ノ義キ行爲既ニ顯ハレタリト、

第九款 義 神ハ聖ク潔ヨキ者ナリ、人能ク神ノ聖ヲ見ルトヲ得ズト雖也、若其行爲ヲ視レバ則チ實ニ其聖ヲ知ル可シ、神ハ正義キ者ナリ、凡ソ天地間ノ萬物ハ皆天理ニ背ク者ナク悉ク天理ニ從フ者ナリ、凡ソ至微ノ物ヨリ至大ノ物ニ至ルマデ、悉皆ク神

ノ創立シ給ヘル天理ニ從フ者ナリ、若天理ニ背ク者アラハ必ズ當ニ大ニ苦シムベシ、是公正嚴肅ノ天法ナリ、學士ハ儘ニ物性物質ノ學ニ由リ説ヲ爲シテ曰ク、天法ニ背ク者ハ困苦ヲ遁ル、一能ハズト、此言ニ由テ之ヲ觀ルモ神ハ實ニ正シク且嚴シキ者ナリ、又人性ノ本心ヲ見ヨ、常ニ惡ヲ咎メ義ヲ賞ル者ナリ、惡ヲ棄ヨ善ヲ爲スト勸ムル者ナリ、昔或ル聖人ハ神ノ示現ヲ知ラズト雖也、唯本心ノ性善ヲ考究シテ以テ道德ノ學ヲ立テタリ、然レバ則チ其本心ヲ造リ給ヘル神ハ乃チ公明正義ナラザル可カラズ、又神ノ示現ヲ見ヨ、其十誡ハ實ニ正シキ律法ナリ、基督山上ノ説教ヲ以テ十誡ヲ見レハ、神ノ律法ハ全ク正キ者タルヲ知ル可シ、又夫耶穌基督生涯ノ行爲ヲ見ヨ、降世ヨリ昇天ニ至ルマテ惡害ナ

ク過矢ナク、罪愆ナク、完全無缺ノ義者ナリ、神ノ榮光ヲ顯彰シタル者ナリ、神ノ本質ノ形像ナリ、此ノ如ク基督ノ正義ヲ知ル者ハ亦以テ神ノ正義ヲ知ル可シ、又基督ノ贖罪ニ由テモ亦神ノ正義ヲ知ル可シ、但某學者ノ説ニ由レバ神ハ人ノ罪ヲ赦ス可キ者ニ非ズ、罪ヲ犯ス者ハ必ス當ニ苦楚ヲ受ベキ者ナリト、神ハ固ヨリ故ナク罪ヲ赦スナシト雖モ、基督共信徒ニ代テ罰ヲ受ケ給ヘルヲ以テ人ノ罪ヲ赦スアルナリ、罪アル者ハ固ヨリ罰ナカル可カラス、神ノ愛子ハ自由自在ニシテ之ヲ受タリ、是ニ由テ神ノ正義ヲ知ル可シ、且現世ノ終ニ至レバ神ハ人ヲ裁判シ給フナリ、其時ニ至テ各人刑罰若クハ報賞ヲ受ク可キナリ、此事固ヨリ誤謬ニ非ズ又無理ニ非ズ、誰一人モ輕重不當ノ罰ヲ受ル者ナク、實ニ正

道公義ノ裁判ナリ、是亦以テ神ノ正義ヲ知ル可キナリ、復傳律例第三十二章ニ曰ク、四彼磐石タリ其功成全ナリ、凡テ彼ノ行ナヘル所ハ例ニ循ヒテ忝シメズ、眞實ノ神毫モ罪愆ナシ、彼乃チ公義ナリ、彼乃チ端然ナリト、羅馬書第二章ニ曰ク、五剛愎ニシテ悔ナキ心ニ循ヒ、己ノ爲ニ神ノ怒ヲ積テ其義シキ鞫ノ顯ハレン震怒ノ日ニ及フナリ、六神ハ人ノ行ニ循ヒテ各人ニ其報ヲ爲ス可シ、七耐忍ビテ善ヲ行ヒ榮光ト尊貴ト不朽トヲ求ムル者ニハ永生ヲ以テ報ヒン、八然レモ争闘ヲ爲シ眞理ニ順ハズ、不義ニツク者ニハ報ユルニ忍ト怒ト患難辛苦トヲ以テス、此ハ猶太人ヲ始メ希臘人スベテ惡ヲ行フ者ニ及ブナリ、十猶太人ヲ始メ希臘人凡テ善ヲ行フ人ニハ榮光ト尊貴ト平康トニ以テ報ユベシ、十一是神

ニハ偏視ナケレバナリト、又其第三章ニ曰ク、廿六神ハ耶穌ヲ信ズル者ヲ義トスル尺、尙自カラ義ヲラン爲ニ今其義ヲ彰ハサントスト、

第十款 善、神ノ善ニ四ノ別アリ、

第一項 神ハ受造物ニ種々ノ善物ヲ施コシ、之ヲ保祐ケ之ヲ喜怡スハ即チ神ノ深切ナリ、人間ニモ獸類ニモ何物ニ限ラズ皆深切ナル者ナリ、是平日ノ常事ニ於テ能ク之ヲ知ル可シ、神ハ實ニ善人ニモ惡人ニモ皆能ク深切ナル者ナリ、馬太傳第五章ニ曰ク、四五此ノ如クスルハ天ニ在ス爾曹ノ父ノ子トナラン爲ナリ、夫天ノ父ハ其日ヲ善者ニモ惡者ニモ照シ、兩チ義キ者ニモ義カラザル者ニモ降セ給ヘリ、又其第六章ニ曰ク、廿六爾曹天空ノ鳥ヲ見ヨ、

稼ヲナシ穡ヲ爲ズ、倉ニ蓄フルヲナシ、然ルニ爾曹ノ天ノ父ハ之ヲ養ヒ給ヘリ、爾曹ハ之ヨリモ大ニ勝ル、者ナラズヤト、

第二項 神ハ罪人ヲモ亦早ク殺シ給ハズ、却テ其罪ヲ悔改ムルヲ俟タマヘリ是即チ神ノ堪忍ナリ、羅馬書第九章ニ曰ク、廿二若神怒ヲ彰ハシ其能力ヲ示サン爲ニ滅亡ニ備ハレル器ヲ永ク耐忍ブトヲ爲スト、彼得前書第三章ニ曰ク、二十此獄ニ在ル靈ハ昔諾亞方舟ヲ備フル間、神ノ忍ビテ待タマヘル時從ハザリシ靈ナリ、

第三項 神ハ罰ヲ受ベキ者ニ反テ吉事、幸福、拯救、永生ヲ授ケ給フ是ヲ神ノ恩惠ト云フ、以弗所書第二章ニ曰ク、五罪ニ死シ時スラ我儕ヲ基督ト偕ニ生シ、爾曹恩ニ由テ救ハレシナリ、六又耶穌基督ニ在ル我儕ヲ彼ト偕ニ甦ラセ共ニ天ノ處ニ坐セシメ給ヘ

リ、七是今ヨリ後ノ世々基督耶穌ノ中ニテ我儕ニ施コス所ノ仁慈ヲ以テ其恩ノ勝レテ豊ナルヲテ顯ハサン爲ナリ、八爾曹恩ニ由テ救ヲ得、是信仰ニ由テナリ、己ニ由ルニ非ズ神ノ賜ナリ、九行ニ由ルニ非ズ、此ノ如クナルハ誇ル者ナカラシメ爲ナリト、

第四項 神ハ人ヲ見テ之ヲ樂ミ給フ、是ヲ神ノ愛ト云フナリ、神ハ正義潔白キモノヲ愛スルハ固ヨリナリト雖、其ニ正義潔白キ神ニシテ醜穢罪惡ナル人ヲ愛シ給フヤ否ヤ、未タ之ヲ知ルヲ能ハズ、示現ヲ除クノ外ニ神ハ人ヲ愛スル者ナルヲ知ルニ由ナシ、神ハ我輩叛逆不孝ノ者ヲ愛スルハ惟基督ニ由テ能ク之ヲ知ル蓋シ示現ノ至極ナリ、己ノ罪ヲ感シテ我ニ罪アリト知ル、又神ハ我愛深キ父ナリト思フハ、實ニ解シ難キ事ナリト云ハン乎、

因ヨリ我ハ惡人ニシテ聖キ神ノ意ニ適フ者ニ非ズ、然レモ基督ハ全ク善ナル者ニシテ、信仰ニ由テ其義ハ我義ト爲リ、之カ爲ニ神我ヲ愛スルナリ、神ノ愛ハ固ヨリ神聖ニ背ク者ニ非ズ、即チ聖キ愛ナリ、故ニ神ノ愛ハ實ニ罪ヲ憎ムヲナリ、神ノ愛ト聖トハ異ナル物ニ非ズシテ即チ同一ノ物ナリ、約翰傳第三章ニ曰ク、十六夫神ハ其生給ヘル獨子ヲ賜フホドニ世ノ人ヲ愛シ給ヘリ、此ハ凡テ彼キ信ズル者ニ亡ブルヲ無シテ永生ヲ受シメシガ爲ナリト、

又約翰第一書第四章ニ曰ク、七愛スル者ヨ我儕互ニ相愛ス可シ、愛ハ神ヨリ出レバナリ凡ソ愛アル者ハ神ニ由テ生レ且神ヲ識レルナリ、八愛ナキ者ハ神ヲ識ラズ、神ハ即チ愛ナレバナリ、九神ハ共生給ヘル獨子ヲ世ニ遣ハシ、我儕ヲシテ彼ニ由テ生ヲ得セ



シム、是ニ於テ神ノ愛我儕ニ顯ハレタリ、十我儕神ヲ愛スルニ非ズ神我儕ヲ愛シ、我儕ノ罪ノ爲ニ其子ヲ遣ハシテ挽回ノ祭物トモリ、是即チ愛ナリト、

第十一款 眞マコト 神ハ眞ナル者ナリトハ神ノ本質無限ニシテ變

易ナク眞ナルヲ謂フナリ、神ハ誤謬ナク虛偽ナク、又是ニ由テ受

造物モ亦皆眞誠ナルヲ知ル可シ、天地萬物ハ夢幻ノ如キ者ニ非

ズ實有ノ者ナリ、又是チ以テ我本質本性ヲ應レバ、自己ヲ惑ハス

者ニ非ズシテ、眞正ノ者ナリト思惟ス可シ、是ノ如ク視來レハ神

ノ眞誠ナルハ實ニ學問ノ基本ナリ、若神既ニ眞誠ニ非ズトセバ

天地萬物モ亦眞正ノ物ト思惟スルノ理由ナシ、又我精神ト本心

上ハ眞誠ナル者ナリト思惟スルノ理由ナシ、然モ尙此ニ疑アル

者ハ學問ノ道ヲ立ルヲ能ハズ、何事ヲモ知ルヲ能ハザルナリ、而シテ神ノ立給ヘル約束ハ變易ヘキ事ニ非ズ、永久之ヲ守ラセ給フ可キ者ナリト、給翰傳第十七章ニ曰ク、十七爾ノ眞理ヲ以テ彼輩ヲ潔メ給ヘ爾ノ言ハ眞理ナリト、

第十二款 神ハ靈ニシテ其質、智慧、能聖、義、善、眞ナルヲニ於テ皆

量ナク永遠變易ザル者ナリ、

神ノ本質ヲ察スルニ是等ハ皆相互ニ適合スル者ナリ、決シテ互

ニ反對スル者ニ非ズ、神ノ能ト智ト義ト聖ト愛ト眞トハ皆異ナ

ル者ニ非ズ、恰モ協和適合スル者ナリ、例ヘバ神智ハ聖潔ナル智

慧ナリ、神義ハ仁愛ナル正義ナリ、神能ハ獻智ナル能力ナリ、無量

永遠不變ナル本質モ亦皆然ルナリ、

第二條 唯一眞神

唯一ノ活生ル眞ノ神ノミナリ、  
 既ニ第一條ニ論ズル所ニ由レバ、神ハ量ナク限ナク變ナク全ク  
 潔ク賢ク義キ善キ眞ナル者ナリ、之ニ依テ神ノ獨一無二ナルハ  
 眞ニ明々白々ナリ、無始無終ニシテ無量無限ナル純全者ニアリ  
 ト爲ルハ固ヨリ道理ニ合ハザル事ナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ能  
 ク神ノ本質ヲ知ル者ハ亦其唯一ナルヲ知ル可シ、是ノ如キ眞神  
 ニアリト爲ル者ハ何國ニ於テモ未ダ嘗テ之アラザルナリ、且夫  
 天地萬物ハ悉皆同一天理ニ順フ者ナルカ故ニ、彼造物者ハ勿論  
 唯一ナリト見ヘタリ、然レバ則チ神ノ獨一ナルハ人智モ亦能ク  
 之ヲ知ルニ足ルナリ、故ニ古ノ聖賢或ハ示現ヲ知ラズシテ能ク

之ヲ知レル者アリ、其然リ而シテ人間種々ノ神ヲ拜スル者多キ  
 ハ果シテ何等ノ理由アヤ、蓋シ神ノ本質ヲ知ラザルカ故ニ世人  
 ノ謬妄ヲ致シ或ハ人ヲ以テ神ト爲シ或ハ人ヨリ稍尊キ者、或ハ  
 少シク智アル者、能アル者ハ皆以テ神ト爲シ、遂ニ種々ノ者ヲ拜  
 スルニ至レルナリ、然リト雖モ若能ク神ノ本質ヲ觀レバ是等ノ  
 者ハ皆神ニ非ザルヲ知ル可シ、是等ノ僞神ハ衆多ナリト雖モ、眞  
 神ハ乃チ一ナリ又他ニ神ト稱スル者アルモ、是惟人ノ想像ヲ以  
 テ神ト思惟シタルニ過ズシテ生活神ニ非ズ、生命アル神ハ則チ  
 獨一ナリ、人若神ハ何箇アリヤト問ハゞ人間ノ神ト稱スル者ハ  
 夥多ナルモ眞ノ生活神ハ乃チ唯一ナリ、  
 眞神獨一ノ說ハ示現ノ基礎ニシテ示現ハ徹頭徹尾唯一ノ眞神

ヲ稱スル者ナリ、故ニ聖書中何處ニ縊クモ皆以テ之ヲ證スルニ足ラン、以賽亞書第四十四章ニ曰ク、六耶和華以色列ノ王、即チ其贖者萬軍ノ耶和華是ノ如ク言テ曰ク、我ハ乃チ原始ノ者我ハ乃チ末後ノ者、我ノ外ニ他ノ神ナシト、耶利米記第十章ニ曰ク、十惟耶和華ハ眞神タリ彼ハ活神タリ永遠ノ王タリト、哥林多前書第八章ニ曰ク、四偶像ニ獻シ物ヲ食スルニ就テハ我儕偶像ノ世ニナキ者ナルヲ知ル、又獨ノ神ノ外ニ神ナキヲ知ル、神ト稱フル者或ハ天ニ在リ或ハ地ニ在リテ多クノ神、多クノ主アルガ如シト雖也、六我儕ニ於テハ唯一ノ神、即チ父アルノミ、萬物之ヨリ生リ我儕ニ歸ス、又獨ノ主即チ耶穌基督アリ、萬物之ニ由リ、我儕モ之ニ由レリト、

第三條 三位一體

神ニ三アリ即チ父ト子ト聖靈是ナリ、此三ハ其性質同シク、其能モ榮モ均シクシテ惟獨一ノ神ナリ、

第一款 父、

- 一、神ニ父ト稱スル者アリト謂フハ、凡ソ天地萬物ハ皆神ヨリ生命ト存在トヲ受タルノ義ニシテ、神ハ慈愛深キ者ナリト云フ意ナリ、
- 二、聖書ヲ知ラザル人ト雖也亦神ヲ指テ父ト稱シタル者アリ、希臘人羅馬人ノ如キハ父タル者ハ人間至尊ノ者ト思惟シタルヲ以テ神ヲモ亦父ト稱シタリ、
- 三、基督教ニ於テハ新舊約書共ニ耶和華ノ神ハ實ニ萬物ノ本

元<sup>シ</sup>ニシテ、人ノ父タル者其子女ヲ愛スルガ如ク、父ナル神モ亦其創造スル所ノ萬物ヲ愛スル者ナリ、

四、父タル者ニシテ若子ナケレバ一ノ不足アル者ナリ、神天地萬物ヲ造リ之ヲ愛スト雖<sup>レ</sup>、萬物ハ皆始<sup>メ</sup>アル者ニシテ父タル神ハ始ナキ者ナリ、萬物元始ノ前ニ於テ既ニ父タル神ノ在ルナリ、始終<sup>ハ</sup>ナク變易<sup>ナ</sup>キ者ナルガ故ニ當今<sup>モ</sup>尙仁愛深キ者ナリ、而シテ天地萬物ハ皆限アル者ナリ、神限ナキノ愛ヲ以テ限アルノ萬物ヲ愛スルモ未ダ以テ其愛ニ満足セシムルニ足ラズ、且夫人ハ萬物ノ首<sup>ナ</sup>リト雖<sup>レ</sup>、罪惡甚ダ多シ、然ラバ則チ神其愛ヲ以テ人ヲ愛スルモ、未ダ以テ至善<sup>ナル</sup>神ノ慈愛ニ満足セシムルニ足ラズ、

五、然ラバ則チ父タル神ニハ始ヨリ全善ナル子ナクハ則チ其限ナキ愛ニ満足セシムルニ能ハズシテ、一ノ不足アル者ナリ、

六、然シテ父ナル神ノ深意ヲ了解セント欲スレバ、則チ聖書ニ顯<sup>ラ</sup>ハレタル神ノ愛子ノ教義<sup>ヲ</sup>知ラザル可カラズ、次ノ第二款ハ則チ其愛子タル者ヲ説カント欲スル所ナリ、

七、其父タル者ハ實ニ眞神タルニ違フナシ、若聖書ヲ讀ム者ハ誰カ父タル眞神ニ疑惑スルニアランヤ、仍テ茲ニ僅ニ二三ノ證據ヲ引カントス、約翰傳第六章ニ曰ク、四四我ヲ遣<sup>シ</sup>、父若引ザレバ人能ク我ニ就<sup>ル</sup>ナシ、我ニ就<sup>ル</sup>シ人ハ末日<sup>ニ</sup>我之ヲ甦<sup>ラ</sup>ス可シ、四五像言者ノ書ニ人皆教ヲ神ニ受シト録サレタリ、是故ニ凡テ父ヨリ聽テ學ビシ者ハ我ニ就<sup>ル</sup>、四六然<sup>レ</sup>ト父ヲ見シ者ハナシ、

惟神ヨリ就ル者ノミ之ヲ見タリト、又其第十七章ニ曰ク、一耶穌  
 此言ヲ語り畢リテ天ヲ仰キ曰ケルハ、父ヨリ時至リヌ、爾ノ子、爾ノ  
 榮ヲ顯ハサンガ爲ニ爾ノ子ノ榮ヲ顯ハシ給ヘ、是爾我ニ賜ヒ  
 シ所ノ者ニ我永生ヲ予ヘンガ爲、凡テノ者ヲ制ムル權威ヲ我ニ  
 賜ヒタレバナリ、三永生トハ唯一ノ眞神ナル爾ト、其遣シ、耶穌  
 基督ヲ知ル是ナリト、約翰第二書第一章ニ曰ク、三爾曹ハ實ト愛  
 トニ居テ、神乃チ父及ビ父ノ子耶穌基督ヨリ恩寵ト慈悲ト平康  
 トヲ受ク可シト、

第二款 子

第一項 神ニ子タル者アリ、子モ亦量ナク限ナク善ニシテ全キ  
 者ナリ、聖書ニハ之ヲ指テ子ト云ヒ、愛子ト云ヒ、獨子ト云ヒ、道  
 ト

云ヒ、神ノ榮ノ輝ト云ヒ、又神ノ質ノ形ト云ヘリ、之ヲ子ト稱スル  
 ハ父子ノ關係ヲ以テ云フノミニシテ、神ノ子ハ人ノ如ク生ル、  
 者ニ非ザルハ勿論ナリ、故ニ始メナキ者ニシテ其生命ハ常ニ父  
 タル者ト俱ニ永續スル者ナリ、父ト別ニ存在アルニ非ズ、聖書ヲ  
 讀メバ子ハ其存在ヲ父ヨリ受タリト云フト雖、父ハ其存在ヲ  
 子ヨリ受タリト云フトナシ、而モ子タル神トハ子タルノ關係ア  
 リテ云爾ナリ、然ラバ則チ唯其愛子ノミ獨リ神ノ子ナリ、神ハ其  
 他ノ人物ヲ造レルガ故ニ、皆其父ト稱スルヲ得ルト雖、獨子  
 ハ則チ神之ヲ造ルニ非ズ、其存在ハ乃チ父タル神ノ存在ナリ、約  
 翰傳第三章ニ曰ク、十六天神ハ其生給ヘル獨子ヲ賜フホドニ世ノ  
 人ヲ愛シ給ヘリト、

第二項 子タル者モ亦神ニシテ始ナク終ナク量ナク變易ナク全ク善ニシテ且愛深キ者ナリ、其本質ヲ觀、又其父ノ本質ヲ察スレバ恰モ相同シキ者ナリ、是ニ由テ子タル神ハ眞神タルヲ知ル可キナリ、

一、始ナク終ナシ、約翰傳第一章ニ曰ク、一太初ニ道アリ道ハ神ト偕ニ在リ、道ハ即チ始ナリト、又其第十七章ニ曰ク、五父ヨ今我ヲシテ爾ト偕ニ榮ヲ得サセ給ヘ、即チ創世ヨリ先ニ爾ト偕ニ有テシ所ノ榮ヲ得サセ給ヘト、希伯來書第一章ニ曰ク、十主ヨ爾元始ニ地ノ基ヲ奠ク天モ爾ガ手ノ工ナリ、十一此等ハ亡ビシ然ト爾ハ恒ニ存タン此等ハ凡テ衣ノ如ク舊ビシ、十二爾是等ヲ袍ノ如ク捲ム、又彼等ハ變ラン然ト爾ハ變ルトナシト、

二、變易ナシ、希伯來書第十三章ニ曰ク、八耶穌基督ハ昨日モ今日モ永遠變ラザルナリト、

三、在ラザル所ナシ、馬太傳第十八章ニ曰ク、二十蓋我名ノ爲ニ三人ノ集レル處ニハ我モ其内ニ在レバナリ、又其第二十八章ニ曰ク、二十且我凡テ爾曹ニ命ゼシ言ヲ守レト彼等ニ教ヘヨ、夫我ハ世ノ末マテ常ニ爾曹ト偕ニ在ナリ、アーメント、

四、知ラザル所ナシ、約翰傳第二章ニ曰ク、廿四耶穌自己ヲ彼等ニ托セズ、蓋凡テノ人ヲ知リ、廿五又人ノ心ノ中ヲ知ルガ故ニ人ニ就テ證ヲ立ツル者ヲ求メザレバナリト、

五、能ハザル所ナシ、默示錄第一章ニ曰ク、八主タル神言給ヘリ、我ハアルバ也、オメガ也始ナク終ナク今アリ昔アリ後アル全能

ノ者ナリト、

六、天地萬物ヲ造リ之ヲ守ル者ナリ、約翰傳第一章ニ曰ク、三萬物之ニ由テ造ラル、造ラレタル者ニ一トシテ之ニ由テ造ラレザルハナシト、哥羅西書第一章ニ曰ク、十五彼ハ人ノ見ルヲ得ザル神ノ形ニシテ萬ノ造ラレタル物ノ先ニ生レシ者ナリ、十六蓋彼ニ由テ萬物ハ造ラレタリ、天ニ在ルモノ地ノ上ニ在ルモノ、人ノ見ルヲ得ル者、見ルヲ得ザル者或ハ位アル者、或ハ主タル者或ハ政ヲ執ル者、或ハ權威アル者、萬物彼ニ由テ造ラレタリ、且其造ラレタルハ彼ガ爲ナリ、十七彼ハ萬物ヨリ先ニ在リ、萬物彼ニ由テ存ツヲ得ルナリト、

七、聖書ニハ子ヲ稱シテ亦神ト曰フ、約翰傳第一章ニ曰ク、一太

初ニ道アリ道ハ神ト偕ニ在リ、道ハ即チ神ナリト、又其第二十章ニ曰ク、廿八トマス答ヘテ曰ケルハ我主ヨ、我神ヨ、廿九耶穌彼ニ曰ケルハ、爾我ヲ見シニ因テ信ズ、見ズシテ信ズル者ハ福ナリト、羅馬書第九章ニ曰ク、五列祖ハ是彼等ガ先祖ナリ肉體ニ因テ言ヘバ基督モ亦彼等ヨリ出ツ、彼ハ萬物ノ上ニ在テ世々讚美ヲ得ベキ神ナリ、アーメント、

八、夫聖書ハ卷首ヨリ始終誠メテ獨一ノ眞ノ神ヲ拜セヨト云フト雖也、又子ヲ拜スルヲ可シトス、希伯來書第一章ニ曰ク、六又家子ヲ世ニ入シムル時ニ曰給ヘルハ、神ノ諸ノ使者ハ皆之ニ跪ツクベシト、約翰傳第五章ニ曰ク、廿二夫父ハ誰ヲモ鞠カズ、審判ハ凡テ子ニ委テタリ、廿三是諸ノ人ヲシテ父ヲ敬フ如ク子ヲモ敬ハ

シメンガ爲ナリ、子ヲ敬ハザル者ハ之ヲ遣セシ父ヲ敬ハズト、腓立比書第二章ニ曰ク、十此ハ天ニ在ル者地ニ在ル者及ビ地ノ下ニ在ル者ヲシテ悉ク耶穌ノ名ニ由テ膝ヲ屈シメ、十一且諸ノ舌ヲシテ悉ク耶穌基督ハ主ナリト稱揚シテ父ナル神ニ榮ヲ歸セシメン爲ナリト、黙示録第五章ニ曰ク、十三我又天及ビ地ノ下、及ビ海ノ上ニ在ル所ノ凡テノ受造物又其中ニ在ル者皆云ルヲ聞ク、曰ク願ハクハ讚美、尊敬、榮光、權力、寶位ニ坐ズル者ト、羔ニ歸シテ世々窮ナカラントヲ、十四是ニ於テ活物アーメント曰ヘリ、二十四ノ長老伏シテ拜セリト、

第三款 聖靈

第一項 此靈ナル言モ亦「スピリット」即チ無形ニシテ能力アリ智

慧アリ能ク己ヲ知ル者ナリ、靈ナル言ヲ用フル時ハ必ズ先是等ノ意義ヲ熟知セザル可ガラズ、聖書ヲ觀ルニ聖靈トハ即チ神力ナリ、蓋シ神ノ作爲ハ即チ是聖靈ノ作爲ナリ、

一、 神天地萬物ヲ創造セルハ是此聖靈ノ作爲ナリ、創世記第一章ニ曰ク、二地ハ乃チ虛曠ニシテ淵面ハ晦冥ナリキ、神ノ靈水面ヲ覆育セリト、

二、 又善人ノ正義ト智慧トハ則チ聖靈ノ正義ト智慧ナリ、出埃及記第三十一章ニ曰ク、三我神ノ靈ヲ以テ之ヲ充シメ、其ヲシテ智慧ヲ以テ聰明ヲ以テ知識ヲ以テ云々ト、路加傳第二章ニ曰ク、廿五諸耶路撒冷ニシメオント云ヘル人アリ、斯人ハ義シク且敬虔アリテ以色列ノ民ノ慰メラレノンヲ俟テル者ナリ、聖靈其上ニ



臨メリ、廿六又主ノ基督ヲ見ザル間ハ死シト聖靈ニテ示サルト、  
 三、基督ノ降世ハ即チ聖靈ノ動作ナリ、路加傳第一章ニ曰ク、三五  
 天使答ヘテ曰ケルハ、聖靈汝ニ臨ル至上者ノ大能汝ヲ庇ン是故  
 ニ爾ガ生ム所ノ聖ナル者ハ神ノ子ト稱ヘラル可シト、  
 四、又基督ハ聖靈ノ力ニ由テ人ヲ救ヘ、又奇蹟ヲ爲シタリ、路加  
 傳第四章ニ曰ク、十八主ノ靈我ニ在ス故ニ貧者ニ福音ヲ宣傳ヘン  
 トヲ我ニ膏ヲ沃テ任シ心ノ傷メル者ヲ醫シ、又囚人ニ釋サン  
 ト替者ニ見サセント示シ、又壓制ラル、者ヲ縦ツト、馬太傳第  
 十二章ニ曰ク、廿八若我神ノ靈ニ由テ鬼ヲ逐出セシナラバ、神ノ國  
 ハモハヤ爾曹ニ至レリト、  
 五、又其力ニ由テ死ヨリ甦リタリ、羅馬書第八章ニ曰ク、十一若耶

蘇ヲ甦ラシ、者ノ靈爾曹ニ住マバ基督ヲ死ヨリ甦ラシ、者ハ  
 其爾ニ住ム所ノ靈ヲ以テ爾曹ガ死ヌベキ身體ヲモ生ズベシト、  
 六、聖書トハ聖靈ヨリ顯ハレタル者ナリ、約翰傳第十五章ニ曰  
 ク、廿六我訓慰師ヲ父ヨリ遣ラン即チ父ヨリ出ル真理ノ靈ナリ、其  
 來ル時我爲ニ證ヲ爲ス可シト、又其第十六章ニ曰ク、十二我尙爾曹  
 ニ多ク語ル可キトアレヒ、今爾曹曉ルコトヲ得ズ、十三然レ彼即チ真  
 理ノ靈ノ來ラン時、爾曹ヲ導キテ凡テノ真理ヲ知ラシム可シ、蓋  
 彼己ニ由テ語ルニ非ズ、其間シ所ノ事ヲ爾曹ニ言ヒ又來ラント  
 スルコトヲ爾曹ニ示ス可ケレバナリ、十四彼我榮ヲ顯サン、蓋我屬ヲ  
 受テ爾曹ニ示セバナリト、  
 七、又信者ノ新タニ生ル、ハ聖靈ノ動作ナリ、約翰傳第三章ニ

曰ク、五耶蘇答へケルハ誠ニ實ニ爾ニ告ン、人ハ水ト靈トニ由テ生レザレバ神ノ國ニ入ルテ能ハザルナリ、六肉ニ由テ生ル、者ハ肉ナリ、靈ニ由テ生ル、者ハ靈ナリ、七我爾ニ新タニ生ルベキトナ言シヲ奇ト爲ル勿レ、

八、基督教徒ノ信仰ト其儀式ト安慰トハ皆聖靈ヨリ受タル者ナリ、哥林多前書第十二章ニ曰ク、八或ハ靈ニ由テ智慧ノ言ヲ賜ハリ、或ハ同シ靈ニ由テ知識ノ言ヲ賜リ、九或ハ同シ靈ニ由テ信仰ヲ賜リ、十或ハ異能ヲ行ヒ、或ハ豫言シ或ハ靈ヲ辨マヘ、或ハ方言ヲ云ヒ或ハ方言ヲ譯スルノ能ヲ賜ハレリ、十一然レド凡テ此等ノ事ヲ行フ者ハ同シク一靈ナリ、彼其心ノ隨ニ各人ニ頒與フルナリト、

九、聖靈ハ信者ノ爲ニ神ニ祈ルテアリ、羅馬書第八章ニ曰ク、廿六聖靈モ亦我儕ノ荏弱ヲ助ク、我儕ハ祈ル可キ所ヲ知ラザレド、聖靈自カラ言ガタキノ慨難ヲ以テ我儕ノ爲ニ祈リヌト、

十、聖靈ハ信者ニ在リテ信者ハ聖靈ノ宮殿ナリ、哥林多前書第六章ニ曰ク、十九爾曹ノ身ハ爾曹ガ神ヨリ受タル爾曹ノ衷ニアル聖靈ノ殿ニシテ爾曹ハ爾曹ノ屬ニ非ザルテ知ラザル乎ト、

十一、且夫聖靈ハ神ノ深情ヲ知ル者ナリ、哥林多前書第二章ニ曰ク、十二夫人ノ情ハ其中ニ在ル靈ノ外ニ誰カ之ヲ知ランヤ、斯ノ如ク神ノ情ハ神ノ靈ノ外ニ知ル者ナシト、

第二項 夫聖靈ハ父子ヨリ出ル者ナリ、而シテ其相互ノ關係ハ固ヨリ得テ知ル可カラズト雖モ、之ヲ近ク譬フレバ息ハ常ニ

人口ヨリ出ル者ナルガ如ク、聖靈ハ父タル神ヨリ出ル者ナリ、又子タル神モ亦聖靈ヲ施シ給フ者ナリ、約翰傳第十五章ニ曰ク、廿六我訓慰師ナクサムルモヲ父ヨリ遣ラン、即チ父ヨリ出ル眞理ノ靈ナリ其來ル時、我爲ニ證ヲ爲スベシト、

第三項 然レハ聖靈ハ惟能力ノミアル者ニ非ズ、實ニ智慧アリテ能ク自己キレヲ知ル者ナリ亦量ナク變ナキノ神ナリ、使徒行傳第五章ニ曰ク、三彼得曰ケルハアナニアヨ何故ニ爾ノ心サタンニ滿サレ、聖靈ニ對ヒ僞リテ地所ノ價ノ幾分ヲ藏ス事ヲ爲シ乎爾人ニ對ヒテ僞ルニ非ズ、神ニ對テ僞ルナリト、哥林多前書第二章ニ曰ク、十然ト神ハ其靈ヲ以テ之ヲ我儕ニ顯ハセリ、靈ハ萬事スベテノコトヲ究知リ又神ノ深事フカキコトヲモ究知ルナリ、十一夫人ノ情ハ其中ニアル靈

ノ外ニ誰カ之ヲ知ランヤ、此ノ如ク神ハ靈ノ外ニ知ル者ナシト、

第四款 神ニ三アリ即チ父ト子ト聖靈、是ナリ、此三ハ惟名或ハ職ツクメアルノミニ非ズシテ、相互ニ三ナリ而シテ父ハ子ヲ生ウマヒ子ハ父ヲ生マズ父ト子ハ聖靈ヲ施セヒ聖靈ハ父又ハ子ヲ施サズ、此三、ハ皆自カラ稱シテ我ト云ヒ他ノ二ヲ稱シテ爾ト云フ、即チ互ニ人代名詞ヲ用フルト得、而シテ其差異カガヒ三アリ、基督ノ洗禮バプテスマヲ以テ此三者ヲ知ルベシ、父ノ聲アリテ聖靈ハ鳩トビノ如ク下リテ愛子ノ頭カシラニ當リタリ馬太傳第三章ニ曰ク、十六耶穌洗禮バプテスマヲ受テ水ヨリ上レル時、天忽チ之カ爲ニ開ケ神ノ靈ノ鳩トビノ如ク降リテ其上ニ來ルヲ見ル、十七又天ヨリ聲アリテ此ハ我心ニ適フ我愛子ナリト云ヘリト、又信者ノ洗禮ノ言ニモ亦此三ヲ知ル可キ者アリ、馬

太傳第二十八章ニ曰ク、十九是故ニ爾曹往テ萬國ノ民ニ洗禮ヲ施シ、之ヲ父ト子ト聖靈ノ名ニ入テ弟子トセヨト、哥林多後書第十三章ニ曰ク、十四願クハ主耶穌基督ノ恩ト神ノ愛ト聖靈ノ交際爾曹衆ト偕ニ在ン、アーメント、

第五款 此三者ハ其本質相同シク其能力ノ榮光モ均クシテ惟獨一ノ神ナリ、父ト子ト聖靈トノ本質ト其存在トハ共ニ同シキ者ナリ、父限ナク子モ限ナク聖靈モ限ナシト雖、三ノ限ナキ者アルニ非ズ、限ナキ者ハ唯一ナリ、永遠ナルモ唯一ナリ、變易ザルモ一ナリ、智慧モ正義モ能力モ真理モ皆唯一ナリ、父ハ神、子モ神、聖靈モ神ナリト雖、三ノ神アルニ非ズ、其神タルトハ則チ唯一ナリ、然レバ則チ、神ハ三ナリト云フト雖、獨一ノ活ル真ノ神ノ

ミナリ、假令人ハ全ク之ヲ知ルト能ハズト雖、而モ之ガ爲ニ信仰セザルノ理由ナシ、人ハ自身ノ本質ヲ知ラズ、何ニ由テ身體ト精神トハ即チ我一人タラン乎、白光ニ七色アリ、光線ニ光ト熱トアリ、或者ニ三アリト雖、之ガ爲ニ三者タルノ理由ナシ、神ハ唯一ナリトハ聖書ニ明白ナル所ナリ、又神ニ三アルモ亦明白ナル所ナリ、故ニ教會ハ兩ナガラ之ヲ信仰スルナリ、

第六款 以上述ル所ハ實ニ是大切ナル教義ナリ、若之ナクバ眞ノ基督教ト爲ス可カラズ、此他ノ教義即チ基督ノ贖ト恩トノ如キ、聖靈ノ作業ト交際トノ如キハ皆是此一ノ教義ヨリ出ル者ナリ、又歴史ヲ讀メハ此神ニ三アリト云フ教義ヲ棄去ル者ハ既ニ基督教ヲ全廢スルノ徒ナルヲ知ル可シ、

○第三篇 神定

第一條 神定ノ解義

神ノ定ハ己ノ榮ヲ顯彰サン爲萬事ヲ其旨ノ儘ニ世ノ始ノ前ヨリ定メ給ヒシナリ、

第一款 神定トハ天地萬物ノ經營ナリ、凡ソ建築ノ前ニ方テハ必ズ先其經營ヲ爲スガ如ク、神天地萬物ヲ創造スルノ前ヨリ、既ニ其經營ヲ成シ給ヘリ、此經營ヲ神定ト謂フナリ、以弗所書第一章ニ曰ク、十一萬事ヲ其意ノ隨ニ行フ者己ノ旨ニ循ヒテ豫シメ我儕ヲ定メ基督ニ在テ嗣子ト爲ルヲ得セシムト、又其第三章ニ曰ク、十一此ハ神世々ノ先ヨリ定メ給ヒシ旨ニ循ヘルナリ、此旨ハ我儕ノ主耶穌基督ニ由テ成就セリト、

第一項 萬物ハ皆此定ニ循フ、神ハ知ラザル所ナク能ハザル所  
 ナキ者ニシテ、其定トハ即チ萬物ノ經營ナリ、此定ノ外ニハ一物  
 モアルトナシトス、至小ノ物ト雖モ至大ノ物ト雖モ、其至小至大  
 ナルガ爲ニ此定ニ背ク者ニ非ズ、後世ノ事ト雖モ知ラザル所ナ  
 キ神ノ定ナリ、神ハ能ハザル所ナキカ故ニ、萬物一トシテ此定ヲ  
 破ル者ナク、悉ク其意ニ循ヒテ萬事ヲ爲ス者ナリ、故ニ神定ハ完  
 全無缺ニシテ唯一ナリ、譬ヘバ木工ノ家屋ヲ建築スルガ如ク其  
 經營ハ則チ一ナリ、若之ヲ細別スレバ基礎ノ經營アリ、屋梁ノ經  
 營アリ、裝飾ノ經營アルハ固ヨリ論ヲ竣タズト雖モ、實ニ是一家  
 建築ノ經營ニ過キズ、神ノ經營ニ於ケルモ亦此ノ如ク、天地ノ經  
 營アリ、人獸ノ經營アリ、鳥魚ノ經營アリ、草木ノ經營アリ、金石ノ

經營アリト雖モ、實ニ是天地萬物ノ經營ニシテ唯一ノ神定ナリ、  
 然ルニ今一個ノ意見アリ、曰ク神定ハ固自ナル人間ニモ亦適當  
 スルヤ否ヤ、答テ曰ク人類ハ自由ナリト雖モ、其自由ナルガ爲ニ  
 神定ノ外ニ出ヅ可キニ非ズ、神定ハ固ヨリ受造物ノ首領ヲ省カ  
 ズ、人ノ自由モ亦神ノ創造シ給フ所ナリ、然レバ則チ人ノ自由モ  
 亦神ノ經營ニ循フ可キハ勿論ナリ、曰ク世間惡人アリ、彼輩モ亦  
 神定ヲ破ラザル乎、答テ曰ク破ラズ、神定ハ惡人ノ惡情ニモ亦適  
 當スル者ナリ、彼輩モ亦神定ヲ果ス者ナリ、善人ハ自由ニシテ神  
 意ニ適フ事ヲ爲シ、罪人ハ不自由ナガラ亦神定ヲ果ス者ナリ、蓋  
 シ其意ニ謂ヘラク我ハ神定ヲ果ス者ニ非ズ、神ノ律法ニ背ク者  
 ナリト、然リト雖モ神智神能ハ至大至尊ニシテ人ノ遙ニ及バザ

ル所ナリ、惡人ニ惡心アルモ神豫メ慮リテ其定ヲ爲シ給ヘリ、曰ク然ラバ神ハ惡ヲ憎ミ嫌ヒ給フ手、曰ク然リ神ハ惡ヲ爲セト命シ給ハズ、又惡ニ誘ヒ給フ者ニ非ズ、嚴ニ之ヲ禁戒メ給ヘリト雖  
 凡、人ハ神ヨリ自由ヲ得タルガ故ニ、其自由ヲ以テ罪ヲ犯シタリ、人ハ罪ヲ犯シタリト雖凡、神ハ之ガ爲ニ其經營ヲ改メ給ハズ、萬事皆此經營ニ由ル者ナリ、創世記第五十章ニ曰ク、二十爾曹ニ至テハ爾我ヲ害セント欲スレ凡、神ハ則チ反テ善意アリ、兆民ノ命ヲ保タシメ今日ノ如キヲ得タリト、路加傳第二十二章ニ曰ク、廿二人ノ子ハ果シテ定メラレタル如ク逝ン、然凡、人ノ子ヲ賣ス者ハ禍ナル哉ト、使徒行傳第二章ニ曰ク、廿三人ハ即チ神ノ定メシ旨ト像メ知リ給フ所ニ應ヒテ解サル、爾曹ハ無法ノ手ヲ以テ之ヲ捕

ヘ十字架ニ釘テ殺セリト、又其第四章ニ曰ク、廿七夫誠ニヘロデトボシテテ、ピラト、異邦人及ヒ以色列ノ民相共ニ此城ニ集マリ、爾ガ膏ヲ沃タル聖僕耶穌ニ逆ヘリ、廿八是爾ノ手、爾ノ旨ニテ預メ定給ヒシ事ヲ彼等ハ成ルナリト、雅各書第一章ニ曰ク、十三誘ル、者ハ神我ヲ惡ニ誘フト云フコ勿レ、神ハ惡ニ誘ハレズ、又人ヲモ誘ヒ給ハズト、  
 第二項 神意ニ適フトハ神ノ本質ニ適ヘル定メニ循フノ意義ナリ、神ノ定ヲ觀テハ毎ニ其本質ヲ知ラザル可カラズ、夫神智ハ完全ノ智ニシテ其定モ亦完全ノ定ナリ、故ニ道理ニ合ヒ正義シテ僅少ノ缺瑾ナク非理不正ノ如キハ固ヨリ之アルコトナシ、神ハ潔白ク正義ク愛深キ者ナルガ故ニ、其定モ亦是ノ如キ者ナリ、默

示錄第十五章ニ曰ク、三彼等神ノ僕摩西ノ歌ト羔ノ歌ヲ謳ヒテ、  
 曰ケルハ主全能ノ神爾ノ行爲ハ大ナル哉、妙ナル哉、萬民ノ王ヨ  
 爾ノ道ハ義ナル哉、誠ナル哉ト、  
 第三項 神意ニ適フヲ好ムノ人ハ即チ信者ナリ、故ニ神定ハ  
 信者ノ安慰ナリ、人未ダ天地萬物ノ經營ヲ知ラザルモ、其經營タ  
 ルヤ誠ニ神意ニ適ヘルノ定タルヲ知ラバ則チ足レリ、神ノ本質  
 ヲ識テ神ハ是ノ如キ者ナリト信仰シ、而シテ吾人安心スルナリ、  
 假令或ハ無理アルガ如ク視ル者アルモ、後ヨリ神ノ經營ヲ知レ  
 バ決シテ無理ナル事ニ非ズ、惡人或ハ慄慄シテ神定ヲ破ルカト  
 疑ハル、者アリト雖モ、決シテ之ヲ破ル可キ者ニ非ズ、知ラザル  
 所ナキ神ノ定ハ彼我共ニ適當ス可ク、萬國ノ人民ヲ管理ス可ク、

今世來世ノ萬事皆神定ニ循フ者ナルヲ以テ、信者ハ別ニ安慰ヲ  
 要セズ、羅馬書第十一章ニ曰ク、三六蓋萬物ハ彼ヨリ出テ彼ニ倚リ  
 彼ニ歸レバナリ、願クハ世々榮神ニ在レ、アーメン、  
 第二款 神ノ榮ヲ顯ハスハ定ノ目的ナリ、吾人既ニ第一篇ニ於  
 テ其意ヲ説明シタリ、一言ヲ以テ之ヲ云ヘバ神ノ質、智、能、聖、義、眞  
 ヲ顯ハスハ即チ神榮ヲ顯彰スナリ、凡ソ天地萬物ハ皆以テ之ヲ  
 顯彰ス可シ、其榮ヲ觀テ以テ其本質ヲ知レハ則チ神ハ拜ス可キ  
 者タリ、是即チ神定ノ無上ノ目的ナリ、例ヘバ耶穌基督ハ能ク神  
 榮ヲ顯彰シタル者ナリ、其操作ト贖罪トノ如キハ實ニ世間無上  
 ノ善事ナリ、又其信者ハ基督ノ龜鑑ニ從ヒ、神意ニ適ヘル事ヲ爲  
 セバ即チ神榮ヲ顯彰スナリ、又人間最上ノ目的ナリ、然レバ則チ



娛樂ハ人間ノ目的ニ非ズト雖、幸福ハ神榮ヲ顯彰スニ聯續スル事ナリ、而シテ其他ニ又眞ノ幸福ト謂フ可キ者ナシ、惟神榮ヲ顯彰スニ由テ世人眞ノ幸福アルナリ、以弗所書第一章ニ曰ク、四夫共我儕ヲシテ其前ニ聖ク疵ナカラシメン爲ニ、世基ヲ置ザリシ先ヨリ我儕ヲ基督ノ中ニ簡ビ、五其意ノ隨ニ耶穌基督ニ由テ、我儕ナ己ノ子ト爲サントヲ愛テ以テ預メ定メタリト、又其第三章ニ曰ク、十是教會ヲ以テ天ノ處ニ在ル政事ヲ執ル者ト權威ヲ有ル者ニ神ノ萬殊ナル智慧ヲ知ラシメン爲ナリ、十一此ハ神世々ノ先ヨリ定メ給ヒシ旨ニ循ヘルナリ、此旨ハ我儕ノ主基督耶穌ニ由テ成就セリト、默示錄第四章ニ曰ク、十二主ヨ爾ハ榮ト尊貴ト權威ヲ受ベキ者ナリ、爾ハ萬物ヲ造リ萬物ハ意旨ニ由テ有テ且

造ラシメタリト、

第三款 或説ニ曰ク、所謂ル神定トハ猶天命ト云フガゴトシト、天命ノ教ヲ説ク者一ナラズト雖、其教義ノ大意ハ天約左ノ如シ、其説ニ由レハ所謂ル天命ナル者ハ、慈悲ナク聖潔ナク智慧ナクシテ惟大能アリ、萬物自由ヲ得ズシテ悉皆ク之ニ從順サルヲ得ザル者ナリ、是天命ノ教ト神定ノ教トノ大ニ異ナル所ナリ、實ニ神ハ獨大能アルノミナラズ、又智慧アリ、聖潔アリ、慈愛最モ深ク且人間自由ヲ得ル者ナリ、故ニ神定モ亦此ノ如ク、其中ニ自カラ愛アリ望アリ、又人間ニ自由アリ決シテ天命ノ教ニ似タル者ニ非ザルナリ、

第二條 神定ハ必ズ遂グ

神ハ萬物ヲ造リ之ヲ護リ之ヲ治ムルヲ以テ其定ヲ遂ゲ給フナリ、

第一款 萬物ヲ造リ給ヒシ神業ハ未ダ物アラザリシ時、神其能アル言ヲ以テ六日ノ間ニ萬物ヲ造レリ、其造リシ者皆旨ニ合ヘリ、

第一項 未ダ物アラザリシ時トハ、未ダ形、力、氣、靈、物質、實體、等アラザルノ時ニシテ獨神ノミ在ス時ナリ、故ニ天地萬物ハ皆始アル者ニシテ、只神ノミ始ナキ者ナリ、初ハ管ニ實體ヲ以テ萬物ヲ造リ給フノミナラズ、其前既ニ實體ヲモ造リ給ヘルナリ、夫實體ハ變ザル者ニ非サルヲ以テ始ナキ者ニ非ズ、唯變ザル者ノミハ

即チ始ナキ者ナリ、又天地萬物ノ本原ヲ考フレハ必ズ其始ノ根元ナカル可カラズ、而シテ始ノ根元ハ唯一ニシテニヲ要セザル者ナリ、若シ其根元ニアリトセハ是道理ニ合ハザル事ナリ、今假ニ神ト實體トヲ以テ兩ナカラ始ナキ者トセン乎、則チ始ノ根元ニアル者ナリト雖、始ノ根元ハ理ニ於テニアル可キ者ニ非ズ、必ズ唯一ナリトスルヲ以テ道理ニ適ヘル説ト爲ス可シ、故ニ實體モ亦神ノ創造シ給フ所ナラザル可カラズ、創世記第一章ニ曰ク、一元始ノ時、神天地ヲ創造セリト、哥羅西書第一章ニ曰ク、一元始ノ時、神天地ヲ創造セリト、彼ニ由テ萬物ハ造ラレタリ、天ニ在ル物、地上ニ在ル物、人ノ見ルヲ得ル物、見ルヲ得ザル物、或ハ位アル物、或ハ主タル者、或ハ政ヲ執ル者、或ハ權威アル者、萬物彼ニ由テ造ラレタリ、且其造ラ

レタルハ彼ガ爲ナリ、十七彼ハ萬物ヨリ先ニ在リ萬物彼ニ由テ存  
 ツトチ得ルナリト、希伯來書第十一章ニ曰ク、三我儕信仰ニ由テ  
 諸ノ世界ハ神ノ言ニテ造ラレ如此見ユル所ノ物ハ、見ル可キ物  
 ニ由テ造ラレザルトヲ知ルト、  
 第二項 其能力アル道ヲ以テ實體ヲ造リ、實體及ビ他物ヲ以テ  
 天地萬物ヲ造リ給フニ非ズ、只神道ヲ以テ之ヲ造リ給ヘルナリ、  
 夫人ハ實體又ハ其外ノ物ヲ以テ新形ヲ造ルトヲ得ルト雖、實  
 體物質ナクバ一物ヲモ作ルテ能ハズ、神ハ則チ否ラズ、能ハザル  
 所ナキ者ナルガ故ニ、實體ヲモ天地萬物ヲモ造リ給ヒシナリ、夫  
 神道トハ即チ神ノ愛子ヲ指ス者ニシテ、既ニ前ニ論シタルガ如  
 ク神ノ愛子ヲ又神道ト云フナリ、創世記第一章ニ曰ク、三神曰ク

宜シク光アル可シト、即チ光アリキト、詩第三十三篇ニ曰ク、六夫  
 天ハ耶和華ノ言ヲ以テ造リヲ受ケ、天ノ衆軍共口ノ氣ヲ以テ造  
 レリト、希伯來書第一章ニ曰ク、ニ此末日ニハ其子ニ託テ我儕ニ  
 告給ヘリ、神ハ彼ヲ立テ萬物ノ嗣ト爲シ、且彼ヲ以テ諸ノ世界ヲ  
 造レリト、

第三項 始神ハ六日間ニシテ天地萬物ヲ造リ給ヘリ、創世記第  
 一章ヲ閱スルニ元始ニ神天ト地ト創造給ヒ然シテ地ハ形ナク  
 空カリキ、其後幾日ナルヲ知ラズ、一日神光ヲ造リテ明暗ヲ別チ  
 給ヘリ、是ヲ第一日ト爲シ、第二日ニハ神蒼穹ヲ造リ給ヒ、第三日  
 ニハ神海陸ヲ分チ地ニハ苗ト種ヲ結フ草ト、實ニ核アル果ヲ結  
 プ樹ヲ造リ給ヒ、第四日ニハ日月星辰ヲ造リ給ヒ、第五日ニハ水

魚ト飛鳥トヲ造リ給ヒ、第六日ニハカヒモノ生畜、ムシケヲ昆蟲、ケモノ走獸、等ヲ造リ給ヒ、又同日ニ人ヲ造リ給ヘリト云フ、是ノ如ク神萬物ヲツクリ創造給ヘル順序ヲ觀ルニ、近年地質學士ノ説ク所ニ合ヒタリ、昔ムカシ摩西ノ時未タ嘗テ地質學ナル者アラザルナリ、而シテ當時ノ學問ハ決シテ是等ノ事ヲ説ク者ナシ、又其時日ノ如キハ六日ト云フト雖凡通常ノ六日ニ非ズ、一説ニ曰ク、摩西ハ幻夢ノ中ニ此示現ヲ受タルヲ以テ、現夢ノ隨ニ六日ト書シタルナリト、又一説ニ曰ク、此ニ用フル所ノ日ノ字ハ通例ノ一日ニ非ズシテ、長久ノ日月ヲ指シテ云フナリト、

第四項 其ツクリ創造シ者ハ皆旨ニ合ヘリ故ニ當時世間ニ惡事ナク萬物皆聖ク義シカリシト雖凡、人間ノ犯罪ニ由テ終ニ惡事ヲ生

シタルナリ、詩第一百〇四篇ニ曰ク、廿四耶和華ヨ爾ガ造ル所ハ何ゾ其多キ哉、皆爾ノ智ヲ以テ造ル所タリ、地ハ爾ノ物ヲ以テ充滿スト、創世記第一章ニ曰ク、三神凡テ造ル所ノ者ヲ觀テ甚ダ善トセリト、

第五項 受造物ノ中ニ就テ人ヲ最モ貴重ノ者トス、故ニ神、諸ノ受造物ヲツクリ創造タルノ後ニ至テ之ヲ造リ給ヒ、且之ヲ男女ニ造リ、神ノ智識、正義、聖潔ニ像トリ、之ニ萬物ヲツクリ理治ルノ權ヲ與ヘ給ヘリ、凡ソ受造物ハ人ヲ除クノ外ニ智慧アル者ト云フヲ得ズ、正義ナル者ト云フヲ得ズ、自由ナル者ト云フヲ得ザルナリ、鳥獸ニモ亦天然ノ智ナキニ非ズト雖凡、其智タルヤ道理ヲ解スルニ足ル者ニ非ズ、又自由ナル者ニ非ザルヲ以テ、鳥獸ハ罪科ヲ犯シ得ベ

キノ理由ナシトス、而モ鳥獸ハ聖且義ナル者ト云フヲ得ズ、唯人ハ罪ヲ犯シ惡ヲ爲シ義ヲ行フヲ得ル者ナリ、始メ人ノ造ラル、ヤ既ニ智アリ義アル者ナリ、蓋神ハ智アリ義アリ且聖ナル者ニシテ、其像ニ肖リテ人ヲ造リ給ヘルニ因ルナリ、人ハ既ニ神ノ像ニ造ラレタルガ故ニ、神ノ天地萬物ヲ統御メ給フガ如ク、人ハ他ノ受造物ヲ理治ヘキ者ナリ、創世記第二章ニ曰ク、七耶和華ナル神地ノ塵ヲ以テ人ヲ造リ生氣ヲ嘘テ其鼻ニ入レタリ、而シテ人成テ生靈トナレリト、又其第一章ニ曰ク、廿七神乃チ己ノ像ニ依テ人ヲ造リ、之ヲ造リテ神ノ像ニ肖レリ、且之ヲ男女ニ造レリ、廿八神之ヲ祝シ又之ニ謂テ曰ク、生育衆多ニシテ地ニ滿盈シ、爾克シ之ヲ治メ、並ニ海魚、飛鳥、及ビ地上ノ有生諸動物ヲ治メヨト、

第二款 神ノ萬物ヲ保リ治メ給フ所業ハ其聖ト獻ト能トナリ、以テ凡テ其造リシ物ト其作業ヲ保リ治メ給フコナリ、  
 第一項 天地萬物ハ獨立スル者ニ非ズ、自力アル者ニ非ズ、萬物大小トナク有生無生ヲ論セズ、神ハ常ニ皆之ヲ守護給ヘリ、然ルニ或ハ説テ爲ス者アリ、曰ク夫神ノ萬物ヲ創造スルヤ、素ヨリ人工製作ノ比ニ非ズ、且人造ノ物ト雖モ、時辰儀自鳴鐘ノ如キハ、一人一タビ之ヲ作り、一タビ其撥機ヲ捲ハ、數年運轉シテ止ザル者アリ、况ヤ天工ノ靈妙ナルニ於テヤ、神一タビ人ヲ創造シテ後ニ之ヲ離ルト雖モ、固ヨリ世間ノ活動ニ障礙アルコナシト、夫然リ豈其然ランヤ、萬物ハ固ヨリ神力ニ由テ其存在ヲ得、其作爲ヲ得ル者ナリ、而シテ神ハ萬物ヲ治メ給フ者ナリ、神其旨ニ從テ之

ヲ造リ給フガ故ニ、神ハ先共第一ノ目的ヲ達センガ爲ニ之ヲ保  
 リ治メ給フナリ、既ニ第一條第一款ニ論シタルガ如ク、神定ハ萬  
 事萬物ニ適當ス可キ者ニシテ之ヲ破ル者ナシ、何トナレバ神ハ  
 之ヲ治メ給ヒ、人ハ自然ノ道理ニ從ヒ、勞動ニ由テ必需ノ品物ヲ  
 得ル者ナリ、然リ而シテ人ノ勞動モ亦神ヨリ受得タル者ナリ、道  
 理當然ノ勢ト雖<sup>イキホヒ</sup>亦神ヨリ出ル者ナリ、且人ノ勞動ト道理トノ  
 間ニ自然是ノ如キ關係アル者ハ、惟神ノ之ヲ治メ給フニ是因ル  
 ナリ、故ニ人ノ勞動ト日用ノ必需トハ實ニ神ヨリ受得タル者ナ  
 リ、

第二項 以上説ク所ノ者ハ實ニ是<sup>チイソヒ</sup>福ナル教義ナリ、何トナレバ  
 神ハ聖智全能ヲ以テ萬物ヲ治メ給ヒ、萬物其定ヲ破ルコトナシ、假

令惡事ハ日ニ漸ク強暴ヲ逞ブスル者トシテ之ヲ視ルモ、神力ハ  
 常ニ之ヨリ大ナルガ故ニ、惡ハ實ニ之ニ勝ツト能ハズ、加之ナラ  
 ズ此惡ナル者モ亦反テ神ノ治メ給フ所ナルガ故ニ、終ニハ惡モ  
 亦神ノ榮光ヲ顯彰ス者トナルニ至ル可シ、且夫神ハ其靈智ヲ以  
 テ萬物ヲ保守統治<sup>マモリ、シツサメ</sup>シマフガ故ニ、後ヨリ之ヲ視レバ天地萬物一  
 トシテ過誤アルコトナキヲ確知ス可シ、萬物皆恰モ真理ニ合ヘリ、  
 其無理ナク不義ナク惡事ナキハ神ノ聖潔ヲ以テ之ヲ見ル可シ、  
 神ノ目的ト其統治トハ恰モ神ノ如ク聖ク潔ク義ク真ナル者ナ  
 リ、然レバ則チ天地萬物ハ衆多ト雖<sup>オホシ</sup>正<sup>マサ</sup>義ニシテ恐ル可キ者ナ  
 シ、但現今ハ痛苦アリ惡事アリト雖<sup>オホシ</sup>正<sup>マサ</sup>義ニシテ恐ル可キ者ナ  
 ヲ以テ萬物ヲ治メ給フガ故ニ終ニハ絶<sup>タ</sup>テ惡事ナキニ至ル可キ

ナリ、  
 神學略說卷之一畢  
 神學略說卷之一畢

神學略說卷之二

在日本 米國宜教師 納屈士 口述

東京府士族 石川彝 筆記

人性部

教說總論

首卷第一篇ノ始ニ既ニ略言スルガ如ク、凡ソ神ヲ知ラント欲  
 スル者ハ、先ヅ人ヲ知ラザル可カラズ、夫レ人ハ神像ニ肖リ  
 テ造ル所ナルヲ以テ、神人ハ大差アリト雖モ、亦大ニ相似タル  
 者アリ、故ニ能シ人性ヲ知ル者ハ、亦稍神性ヲ知ルヲ得ベシ  
 之ニ反シテ、人ヲ知ラント欲スル者ハ、亦神ヲ知ラザル可カラ  
 ズ、神ヲ知ラザル者ハ、人ノ本末ヲ知ルヲ能ハズ、又其目的及ビ

職務ヲ知ルコト能ハザルベシ、抑人ハ本何處ヨリ來レル歟、將ニ何處ニ往ントスル歟、又何ノ爲ニ世ニ生出タル歟、何ニ由テ世間ニ罪ト云フ者アル歟、是古今萬國學士ノ異見アル所ナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ人性ノ學ハ則チ神學ノ一科ナリ、人性學ノ本原モ亦聖書ニ在リトス、而シテ歴史、生理、心理、哲學、等ノ如キモ、亦以テ人性ノ一斑ヲ知ル可シト雖、偏ニ是等ノ學科ノミニ由ル者ハ、未ダ以テ完全ノ人性學ト爲ス可カラズ、唯神ノ示現ニ由テ初テ其要領ヲ知ル可キノミ、是故ニ聖書ハ神道ニ關スル學科ノ本原ニシテ、亦人性ニ係ル學科ノ本原ナリ、雖然、他ノ學科モ亦更ニ無用ト謂フ可キ所ナク、却テ大ニ益アリトス、故ニ彼諸學科ト此聖書トヲ對照シテ觀レバ、則チ轄

然トシテ貫通スル所アル可シ、夫レ聖書ハ天地萬物ヲ創造スル者ノ作ル所ナリ、是即チ聖書ト理學諸科ト相互ニ扶助ニ明瞭ナル所以ナリ、

○第四篇、人ノ罪

第一條、罪ノ試

神人ヲ造リシト、死ノ罰ヲ以テ、善惡ヲ識ル樹ノ果ヲ食フトシテ、禁メ、全ク從フトニ基ツキテ之ニ長生ノ約ヲ立給ヘリ、

第一款、既ニ第三篇、第二條、第一款、第五項ニ説ク所ノ如ク、神其像ニ依テ人ヲ造給ヘリ、當時ノ人ハ未ダ神ヲ離レズ、又中心ニ惡性ナキヲ以テ、神ヲ畏ル、ノ理由ナキ故ニ亞當ハ神ト父子ノ如キ交親アリキ而シテ、人體ハ地塵ナリ、靈魂ハ神氣ナリ、形狀ハ神



像ナルガ故ニ神人ノ關係アルハ固ヨリ、他ノ受造物トモ亦關係アル者タリ、創世記第一章ニ曰ク、廿七神乃チ己ノ像ニ依テ人ヲ造リ、之ヲ造リテ神ノ像ニ肖ドリ且之ヲ男女ニ造リ、廿八神之ヲ祝シタリト、

第二款 抑々人ハ自由ナル者ナリ、此自由ナル言ニ二義アリ、一ニ曰ク、人ハ自ラ擇ビテ神意ニ從ヒ或ハ擇ビテ之ニ從ハザルノ力アリ、是即チ人性自由ノ心力ニシテ即チ所謂ル自由ナリト、二ニ曰ク、人ハ他ノ壓制ヲ受ズシテ己ガ心望ニ從フノ力アリ、是自由ト謂フナリト、第一ハ我心志ノ向フ所ノ自由ニシテ、第二ハ自己ノ心力ニ頼ル所ノ自由ナリ、即チ實ニ眞ノ心力ニ由ル所ノ自由ト謂フ可キ者ナリ、

第三款 初人ニ自由アリト雖モ未ダ善惡ヲ擇ハズ、其所ニ立テ何レニ行ク歟、何レヲ擇バン歟、神意ニ從ハズ歟、將之ニ背カズ歟、人性固ヨリ自由ニシテ之ヲ取舍スルノ力アリ、而モ未ダ善惡ヲ擇ハズルカ故ニ其心志未強固ナラスト雖モ神ニ交親アリ、神ヲ愛スル者ニシテ善ヲ好ム者タルハ固ヨリナリ、又其正義モ未ダ堅牢ナラスト雖モ實ニ正義者タルヤ亦疑フ可キニ非ズ、

第四款 是ニ於テ、神乃チ一法ヲ立テ善惡ヲ識ル樹ノ果ヲ食フヲ禁メ給ヘリ、其意味甚ダ明亮ナリトス、僅ニ樹ノ果ヲ食フハ大事ニ非ズト謂フト雖モ諸罪惡心皆此中ニ含メリ、見ヨヤ、當時食物ハ之ヲ需メズシテ餘アリ、他ノ木實モ亦夥多アリ、苦惱ニ由テ異心ヲ起スノ時ニ非ズ實ニ福ナル時ニシテ福ナル處ナリ、神

ヲ知ラズシテ罪ニ陥ルヲアル可キニ非ズ、神亞當ト直接ノ交親  
 アル時ニ當テ、唯此一小事ヲ禁メタルナリ、然レバ則チ其試タル  
 ヤ明矣、當時ノ人タル者ハ神意ニ隨ハシテ、或ハ私意ヲ縱ニセシ  
 欺抑々故アリテ善ヲ守ラン歟、或ハ故ナクシテ惡ヲ擇ハン歟、僅  
 ニ此試ニ遭テ罪ヲ犯サハ、之ヲ謝スルニ何ノ言カ之アラン、夫善  
 惡ヲ識ル樹ハ人未ダ自己ノ經驗ヲ以テ、善惡ヲ別ツテ能ハザル  
 ノ時ニ方リテ之ヲ食スルハ實ニ其罪タルヲ知ルベク、之ニ反ス  
 ルハ其義タルヲ知ルベキナリ、創世記第二章ニ曰ク、八、耶和華ノ  
 神園ヲ東方ノ埃田ニ樹テ、造ル所ノ人ヲ以テ、諸ヲ其間ニ置ケリ、  
 九、耶和華ノ神觀ル可ク食フ可キノ諸樹ヲ地ヨリ發生セシメ、園  
 ノ中ニ當リテ生命ノ樹アリ、又善惡ヲ別ツノ樹アリト、又曰ク、十六

耶和華ノ神、其人ニ諭シテ曰ク、其中ノ諸樹ノ果ハ爾意ニ任セテ  
 以テ食フ可シ、十七、惟善惡ヲ別ツノ樹ハ、爾食フ可カラズ之ヲ食フ  
 日ニハ必ズ死シト、又第三章ニ曰ク、六、是ニ於テ婦ハ其樹ヲ視テ、  
 食フ可ク觀ル可ク、又慕フ可シトセリ、其能ク智慧ヲ益スヲ以テ  
 ナリ、遂ニ果ヲ摘テ之ヲ食ヒ、並ニ其夫ニ給ヘシカバ、夫モ亦之ヲ  
 食ヘリ、七、二人ノ目即チ明カニシテ、始テ身ノ裸ナルヲ覺ヘ、乃チ無  
 花果ノ樹葉ヲ編テ裳ト爲セリト、  
 第五款 此試ニ續テ既ニ約束アリ、曰ク神ノ律法ニ背ク者ハ必  
 ズ死シト、夫レ生命トハ僅ニ生ヲ繋グノミノ謂ニ非ズ、亞當未ダ  
 罪ヲ犯サルノ前ニ當テ、自ラ其生命ヲ願レバ、實ニ完全ノ福ア  
 ル者ナリ、艱難ナク苦心ナク苛役ナク畏懼ナキ者ナリ、況ヤ常ニ

神ト交親アリテ神ヲ畏ル、トナク、之ヲ愛シ其聲ヲ聞ヲ樂ム者ナリキ、是實ニ眞ノ生命ト謂ツ可キ者ナリ、死トハ則チ之ニ反スル者ニシテ、艱難苦心、疾病、苛役ハ即チ其徵候ニシテ、神ヨリ離ル、ト、神ヲ畏ル、ト、神ノ敵ト爲ル、ト等ハ、即チ眞ノ死ナリ、

第二條 人ノ零落

我儕ノ首祖ハ意ノ隨ニ行フ、トヲ許シタレバ、神ニ背キ罪ヲ犯セシニ由テ、舊ノ情態ヨリ落シナリ、

第一款 意ノ隨ニ行フ、トヲ許サル、トハ、本篇第一條第二款ニ於テ論ジタルガ如ク、人生ノ初ヨリ自由ニ善惡ヲ撰擇ノ力アリ、神ハ人ニ善惡ヲ強ルコナキヲ以テ、人ノ善ヲ撰ヒ義ヲ撰ブハ、固ヨリ止ヲ得ザルニ由ルニ非ズ、雖然、凡第一條第四款ニ説ケルガ

如ク、人能ク義ヲ守ル所以ノ者ハ、神ノ交親アリ、十分ノ娛樂アリ、初生ノ正義キニ是由ルナリ、事實ノ顛末ハ此ノ如ク宜キヲ得タレ、凡唯一ノ試アリシノミ、若此試ナカリセバ、善惡ヲ撰ブ所ノ自由ナルカモ亦ナカル可シ、神ハ實ニ罪ヲ嫌忌給フト、雖凡人類ハ他物ト大ニ異ナル所アルヲ以テ、特ニ自由ノ力ヲ賦與シ賜ヘルナリ、約翰第一書第二章ニ曰ク、十六凡ソ世ニ在ルモノ即チ肉體ノ慾、眼目ノ慾、又勢ヨリ越ル驕傲、是等ハ皆父ヨリ出ルニ非ズ、世ヨリ出ル者ナリト、雅各書第一章ニ曰ク、十三誘ハル、者ハ神我ヲ誘フト言フ勿レ、神ハ惡ニ誘ハレズ、又人ヲ惡ニ誘ヒ給ハズ、十四人惡ニ誘ハル、ハ、己ノ慾ニ引カレテ誘ハル、ナリ、十五慾既ニ孕ミテ罪ヲ生ミ、罪既ニ成テ死ヲ生ムト、

第二款 神ニ背キ罪ヲ犯セシトハ、神ノ律法ヲ知リナガラ、之ヲ犯シタルナリ、亞當、夏娃ハ神ヲ忘ル、乎、神ヲ疑フ乎、否ザレハ罪ヲ犯サ、ルベキニ、僅ニ樹果ノ甘美ヲ好テ神ノ律法ヲ知ナカラ自己ノ慾望ニ任セタル者ナリ、我儕ノ始祖ハ禁メラレタル樹果ヲ食ヒシニ由テ、舊ノ情態ヨリ落シナリ、創世記第三章ニ曰ク、  
 耶和華ノ神ノ造レル所ノ諸生物ニ蛇ヨリ狡シキハ莫シ、蛇婦ニ謂テ曰ク、爾偏ク園中ノ諸樹ノ果ヲ食フ勿レトハ、神ノ命セシ所ニ非ズ乎、ニ婦蛇ニ謂テ曰ク、園樹ノ諸果ハ我儕之ヲ食フヲ得ルナリ、惟園ノ中ニ一ノ樹果アリ神云ク食フ母レ、捫ル母レ死亡ヲ致スヲ免レント四蛇婦ニ謂テ曰ク、爾必ズシモ死セザラン五神ハ爾之ヲ食フノ日ニ、爾ノ目即チ明ニ爾神ニ似テ、能ク善惡ヲ別

ヲ知レバナリト、

第三款 罪ハ神ノ禁戒ニ、全ク從ザルト、之ヲ犯スナリ、亞當ノ

罪ニ由テ能ク罪ノ主意ヲ解ス可シ、夫神ハ之ヲ天地萬物ニ比レバ、神ハ元ナリ始ナリ造物者ナリ、萬物ハ即チ受造物ナリ神ヨリ出タル者ナリ、神ハ限ナク始ナク、獨立シテ存在スル者ナリ、之ニ反シテ萬物ハ限アリ始アリ、其存在ヲ神ヨリ受タル者ナリ、而シテ神ハ萬物ノ頭首ニシテ其中心ナリ、人ハ天地間ノ一小生物ナリ、神ヲ大切ニシテ其意ニ從フ可キ者ナリ、神ハ我主ナリ我皇帝ナリト思惟セザル可カラズ、其然リ而ルニ亞當ハ自己ノ私望ヲ大事トシテ神ノ律法ニ背反ス、則チ神意ニ任ストテ棄テ、自己ノ私望ヲ取ル者ナリ、故ニ亞當ノ心ハ神ヲ主トセズシテ、私望ノ

專ニスル所トナレリ、是即チ罪ノ主意ナリ、神ヲ棄テ外物ニ從フ者ナリ、譬バ古昔タルメノ天動説ニ、此世界ハ天地萬物ノ中心ニシテ至大ナル者ナリ、日輪ハ之ヲ周回スル所ノ小輪ナリト曰タルガ如ク、罪人ハ自己ノ私望ヲ以テ大事ト爲シ、之ヲ生命ノ中心ト爲シ、神ノ律法ヲ以テ小事ト爲シタルノ誤謬ナリ、此思想ニ反シテ神ハ實ニ生命ノ中心ナリ凡ソ願望恩愛喜悅、思想ノ如キハ皆、神ノ周圍ニ回轉スル者ナリ、神ニ任セザル可カラザル者ナリ、凡ソ人ハ神ヲ棄テ己ヲ擇ビ己ヲ望ガ故ニ利己主義、即チ罪心ト爲ルナリ、羅馬書第八章ニ曰ク、七蓋肉ノ事ヲ念フハ神ニ乖ルガ故ナリ、是神ノ律法ニ服ハズ又服フト能ハザルニ因ルト雅各書第四章ニ曰ク、人善ヲ行フトチ知テ之ヲ行ハザルハ罪ナリト、

第四款 我僑ノ首祖ハ神ノ律法ニ背キタルヲ以テ、神ノ命ノ如ク罰ヲ受ル者ト爲レリ、罰トハ何ゾ、即チ神ニ直接ノ交親ヲ失ヒ、其面ヲ見、其聲ヲ聞テ之ヲ喜ブトナク、却テ之ヲ畏ル、者ト爲リ、且夫豊美ナル埃田ノ園ヨリ逐出サレ、勞力ヲ以テ僅ニ必需ノ物品ヲ地ヨリ得タルナリ、又其身體ニハ艱難アリ死ノ原因アリ、又其靈魂ニハ今生ノ苦心アリ來生ニ神ノ怒ヲ受ク可キ者トナレリ、且又人生ノ初テ罪ヲ犯セシヨリ以來愈々孱弱ニシテ常ニ罪ヲ犯ス者トナレリ、是即チ亞當ガ受ル所ノ罰ニシテ死ト云フ言ノ中ニ含ム所ノ意味ナリ、創世記第三章ニ曰ク、九耶和華ノ神、亞當ヲ召テ云ク、爾何ニアルヤ、十日ク園中ニ在リ、我爾ノ聲ヲ聞クニ裸ナルノ故ヲ以テ、懼レテ自ラ匿レタリト、又曰ク、十六婦ニ謂テ曰ク、

我必不貽孕ノ苦ヲ以テ重ク爾ニ加ヘ、子ヲ産ミ、惟艱カラシメン、  
 爾ハ必ズ夫ヲ戀ヒ、夫ハ必ズ爾ヲ治メン、十七亞當ニ謂テ曰ク、爾既  
 ニ婦ノ言ヲ聽テ、我禁ゼシ所ノ樹ヲ食ヘリ、地ハ爾ニ縁テ詛ハレ、  
 爾ハ畢生苦勞シ之ニ由テ食ヲ得ン、十八必ズ爾ガ爲ニ荆棘ヲ生ジ、  
 爾ハ將ニ田ノ蔬ヲ食ハントス、十九必ズ汗流レテ面ニ澁クシテ、始  
 テ口ヲ湖シ、爾ノ土ニ歸ルニ迨ブ可シ、蓋爾土ヨリ出タルバ爾ハ  
 乃チ塵ナリ、必ズ復塵ニ歸ラント、又曰ク、廿三耶和華ノ神、故ニ其人  
 ヲシテ埃田ノ園ヨリ出シテ、自ラ出シ所ノ地ニ耕サシメ、廿四遂ニ  
 其人ヲ逐ヒ、埃田ノ園ノ東ニ於テ數ノ基路氷ト自ラ舞旋スル焰  
 劍トヲ置キ、以テ生命ノ樹ノ途ヲ防ガシメタリト

第三條

亞當及ヒ子孫ノ零落

約ハ亞當ノミニ非ズ、其子孫ノ爲ニモ立シ約ナレバ、彼ヨリ傳  
 ハリ、常情ニ生レタル凡ノ人ハ亞當ガ始テ犯セシ罪ノ中ニ彼  
 ト等シク罪ヲ得、又彼ト共ニ落シナリ、  
 第一款 凡ソ人タル者、幾許ノ衆多ナルヲ論ゼズ、各人全ク各別  
 ノ者ニ非ズ、共ニ唯一ノ生命アリ、萬國ノ人民皆同一ノ始祖ヨリ  
 降リテ、其天性ト生命トハ悉ク同様ノ者ナリ、是猶一樹ノ枝葉繁  
 多ナルガ如ク、人ノ本性ハ一ニシテ夥多ノ衆人アルナリ、今一例  
 ヲ舉テ之ヲ證センニ、茲ニ父子アリ、其性質ヲ觀察スレバ、相同カ  
 ヲザル者アリト雖、其生命ト天性トハ則チ一ナリ、又學問上ヨ  
 リ博ク萬國ノ人民ヲ比較スレバ、互ニ相異ナル所多クト雖、是  
 全ク別物ナリト謂フ可カラズ、近世諸學士ノ所説ニ由レバ、人類

皆同種ニシテ悉ク同一ノ始祖ヨリ降り、同一ノ生命ト天性トヲ有ツ者ナリト云フ、聖書モ亦明白ニ此事ヲ載タリ、使徒行傳第十七章ニ曰ク、廿六且一ノ血脉ヨリ出タル凡ノ民ヲ悉ク地ノ全面ニ住セ豫シ、其時ト住所ノ界トヲ定給ヘリト、

第二款 凡ソ親タル者ハ、只自己一身ノ爲ノミニ生活スベキ者ニ非ズ、子女ニ重大ノ關係アリ、身體ニ於テ其最著明ナル者ハ即チ天法是ナリ、凡ソ惡親ハ惡子ヲ出シ、善親ハ善子ヲ生ガ故ニ、此天法ニ從ヒ牛馬ヲ牧畜スル者ハ漸次ニ其牧群ノ性質ヲ進化セシム、是皆ニ獸類ノミニ非ズ、人ト雖モ亦斯ノ如ク常ニ其親ノ性質ヲ再出スル者ナリ、父子ノ性質互ニ相異ナル所モ亦多シト雖モ、大概子女ノ風儀ヲ觀テ、其父母ヲ知ル可キ者ナリ、是皆ニ其身

體容貌ノミニ非ズ、精神モ亦同一理ナリ、子孫タル者生來ノ本性ハ其祖先ヨリモ優レルカ、或ハ劣レルカ、多少異ナル所ナキニ非ズト雖モ、全ク殊別ナル者ニ非ズ、尙其祖先ノ精神ヲ遺傳シ、其性質ヲ再出スル者ナリ、近時ノ學士之ヲ名ケテ遺傳法ト曰フ、此法ニ於テハ更ニ疑フ所ナク、諸學士ノ共ニ識認スル所ナリ、又ダル井ノ氏ノ説ニ依レバ是亦一個ノ原理ナリトス、

聖書モ亦能ク同一ノ事理ヲ顯明セリ、人類互ニ異ナル所アリト雖モ、全ク殊別ナル者ニ非ズ、必ず相互ノ關係、即チ遺傳法ナル者アルヲ説ケリ、雖然モ、聖書ハ固ヨリ神道ヲ教フル者ナルガ故ニ、身體及ビ精神ノ事ハ多ク之ヲ論セス、反チ善惡ノ道ヲ論ズル者ナリ、而シテ其善惡ニモ亦遺傳法アリト云ヘリ、近世ノ學問ニ於

テモ亦同一ノ事理ヲ顯セリ、時ニ格外ナキニ非スト雖、尼、大約罪人ハ罪人ヲ生ミ、義人ハ義人ヲ出ス者ナリ、善惡ノ性質モ亦子孫ニ遺傳スルヲ大畧此ノ如シ、今此遺傳法ニ由テ之ヲ察スルニ凡ソ人生ニ罪人アリ、善人アル者ハ必ズシモ其親ニ類スルコト非ズ、時トシテ罪人ノ子モ黽勉シテ善人ト爲ル者アリ、善人ノ子モ不肖ニシテ試ニ任セ罪人ト爲ル者ナキニ非ザルナリ、然レバ則チ我儕人類ノ先祖タル亞當夏娃ガ犯シタル罪ハ只己ニ限ラズシテ、神定即チ誓約ニ從ヒ親子一ナリ、亞當ノ罪ニ由リ人類皆罪アリ、是皆亞當ヨリ受得タル者ニシテ遺傳ノ性質ナリ、蓋シ亞當夏娃ハ其心既ニ己ノ罪ニ汚サレタルガ故ニ、子孫モ亦其汚レタル性質ヲ受得タルナリ、是故ニ曰ク人ハ落シニ由テ罪

ト歎ノ有様ニナレリト、常情ニ生レタル人トハ凡テ人類ノ汚レタル性質ヲ受得タル者ヲ謂フナリ、蓋シ基督ハ格別ニシテ聖靈ニ由テ生レタル者ナリ、常情ニ生レタル者ニ非ザルガ故ニ、基督ハ少シモ汚レタル性質ヲ受ザルナリ、羅馬書第五章ニ曰ク、十二然ハ一人ヨリ罪ノ世ニ入り、罪ヨリ死ノ來リ、人皆罪ヲ犯セバ、死ノ凡テ人ニ及ビタルガ如シト、又曰ク、十六賜ハ一人ヨリ來ル罪ノ如キニ非ズ、蓋シ審判ハ一ノ罪ヨリ罪セラレ賜ハ多ノ罪ヨリ義トセラル、ナリト、又曰ク十九夫一人ノ逆ニ由テ多ク罪人トセラレシガ如ク、一人ノ順ニ由テ多ク義トセラル、ナリト、哥林多前書第十五章ニ曰ク廿二亞當ニ屬ル衆ノ人ノ死ル如ク、基督ニ屬ル衆ノ人ハ生ベシト、路加



傳第一章ニ曰ク、四五 天使答テ曰ケルハ聖靈爾ニ臨ル至上者ノ大能爾ヲ庇ン是故ニ爾ガ生トコロノ聖ナル者ハ神ノ子ト稱ラルベシト、

第三款 人ノ落シ有様ノ罪ナルトハ世ニ所謂ル原罪ニテ、即チ亞當ノ始ノ罪ノ罰ニ與ルトト元ノマ、ニ義クアラザルト、又全性ノ聖カラザルト、及ビ之ヨリ起ル凡ノ罪ナル行ナリ、

第一項 人ノ落シ有様ノ罪ナルトハ、世ニ所謂ル原罪ニテ、即チ亞當ノ始ノ罪ノ罰ニ與ルトトハ、既ニ前ニ論シタルガ如ク、子孫ハ固ヨリ其祖先ニ關係アリテ、決シテ別物ニ非ズ、故ニ亞當ハ只自己一身ニ罰ヲ招ク者ニ非ズ、神定ニ由テ或ハ自ラ善ヲ擇テ、子孫ノ爲ニ報酬ヲ招キ、或ハ自ラ惡ヲ擇テ、子孫ノ爲ニ罰ヲ招キタ

ル者ナリ、始亞當ノ罪ヲ犯ス時ニ方テ他ニ入アルト無シ、吾人人類ハ皆亞當ヨリ降リシ者ナルガ故ニ、亞當ノ罪ニ由テ罰ヲ受ルハ即チ人性ナリ、仮令我儕ハ人々亞當ノ罪ヲ犯サハルモ、人性ハ既ニ亞當ガ罪ヲ犯シテ罰ヲ招ク者ナリ、吾人其罰ヲ受ルハ人性ヨリ出タル者ナリ、其汚レタル人情ハ即チ我生得ナリ、故ニ我儕ハ固ヨリ其罪ノ罰ヲ受ベキ者ナリ、以弗所書第二章ニ曰ク、三我儕ハ皆曾テ其中ニ居リ肉ノ慾ニ循ヒテ日ヲ送り肉ト心ノ欲フ任テ爲シ他人ノ如ク本性ニシテ怒ノ子ナリギト、

第二項 元ノマ、ニ義クアラザルトトハ、亞當ハ始義キ者ナリト雖、又惡ヲ擇ゾノ力アリ、是ニ由テ惡ヲ擇ビタルガ故ニ、其氣質ハ惡トナリ、義望情ニ代テ汚心ヲ生シ、且其子孫モ亦汚タル性

質ヲ受タルナリ是ニ由テ之ヲ觀レバ、人性ハ義キ者ニ非ズ、汚レ  
 タル者ナリ、惡人ナリ罪人ナリ、即チ神意ニ適フヲ棄テ、私意ノ  
 任ニスルヲ擇ブ者ナリ、其證據ハ則チ左ノ如シ、  
 誰カ世間ノ歴史ヲ視テ、是ヲ清潔ナル者ノ歴史ナリト思フ者ア  
 ランヤ、常ニ重罪ヲ犯ス者アリ、實ニ罪ニ落タル死ノ世ナリト謂  
 ベシ、又細カニ人生ノ行爲ヲ察ハ亦夥多ノ罪アル者ナリ、古來天  
 下ノ學士自己ノ心術ト行爲トヲ願ミ、又他人ノ行爲ヲ觀テ、能ク  
 人生ノ罪戾ヲ言顯シタル者アリ、セチカ曰ク我輩ハ皆惡人ナリ、  
 又惡人ノ中ニ生活スル者ナリト、オーピト曰ク、我ハ善ト義トヲ  
 見テ、惡ニ循フト、タスイツス曰ク、罪ナシニ人ナシト、孔子曰ク善  
 人ハ我得テ之ヲ見ズト、又曰ク文ハ我猶人ノゴトキナシ、躬君

子ヲ行フハ、則チ吾未ダ之アルヲ得ズト、又聖書ニモ人皆罪アル  
 一ヲ云リ、羅馬書第三章ニ曰ク、世ニ蓋人皆罪ヲ犯セハ神ヨリ榮ヲ  
 受ルニ足ズト、又其第七章ニ曰ク、十八善ナル者ハ我即チ我肉ニ居  
 ザルヲ知ル蓋願フ所我ニ在レハ、善ヲ行フトヲ得ザレバナリト、  
 又其第三章ニ曰ク、十餘シテ義人ナシ、一人モ有ナシト、アルガ如  
 シト、是ニ由テ之ヲ觀レバ人ハ皆罪人ナリ、古人ノ云フ所亦之ニ  
 外ナラズ、果ニ因テ其樹ヲ知ルベシ、人ノ行爲ニ於テ罪惡此ノ如  
 クナレバ、人性モ亦既ニ惡ニ陥リタルヤ明クシ、  
 第三項 全性ノ聖カラザルト、及ビ之ヨリ起ル所ノ凡ノ行ハ  
 リトハ、之ヲ歴史ニ徵シ又人ノ行ヲ察レバ、人類ノ罪ハ僅少ノ事  
 ニ非ズ、大惡弊害ト見ヘタリ、又其罪ノ果即チ困苦、艱難、貧乏、毀傷、

戰亂、殘酷、等ニ由テ罪ノ少小ナラサルヲ知ル可シ、密爾先生曰ク、  
 人ノ徳ト稱スル者ハ大抵皆教育ナキ者ノ意ニ最モ適ザル者ナ  
 リト、故ニ徳ハ則チ人心ニ合ザル者ナリ、先生又曰ク、衆人ハ生來  
 ニシテ種々ノ罪性ヲ稟クル者ナリト、又曰ク、諸人ノ經驗ニ由レ  
 バ利己主義ハ人生ノ稟質ナリト、是蓋シ密爾先生一個ノ私説ニ  
 非ズ、道德學者ハ之ト同説ナル者過半ナリ、聖書ニモ亦之ト同一  
 ノ教説ヲ載タリ、且夫人ハ罪人ナリ、全性ノ聖カラザル者ナリ、身  
 只身體ノミヲ云フニ非ズ、心魂モ亦聖カラザルヲ云ナリ、始人ハ  
 神ノ像ニシテ神ノ形ニ造ラレタル者ナリト雖、現今ニ至リテ  
 其像ヲ失ヒ惡人ト爲レリ、人ノ全性聖カラズトハ實ニ罪ヲ云ナ  
 リ、雖然、凡全性ト行爲トハ之ヲ辨別セザル可カラズ、或説ニ曰ク、

其全性ヨリ出ル行爲ハ罪ナリト雖、凡其本原タル全性即チ本質  
 ハ罪ナル者ニ非ズ、其本質ハ則チ神怒ヲ受ベキ者ニ非ズト、是則  
 チ其果ハ惡シ、ト雖、凡其樹ハ惡シキニ非ズト云フ説ナリ、是猶  
 水原清クシテ其水濁レリト云フガ如シ、決シテ道理ニ適ヘル説  
 ニ非ズ、果ニ由テ其樹ヲ知ル可シ、行爲惡シキ者ハ其全性即チ本  
 質罪アル者ナリ、本末別物ニ非ズ、尙一箇ノ物ナリ、聖書ニ教フル  
 所ニ由レバ、性質ト行爲トハ兩ナガラ惡ナリ、兩ナガラ神怒ヲ受  
 ベキ者ナリ、  
 全性聖カラズト謂フハ實ニ人間第一ノ目的ヲ忘レ、且神ノ榮ヲ  
 忘レテ反逆人トナルノ意味ナリ、夫反逆人ハ大罪人ナリト雖、  
 相互ニ親切ナル行爲ナシト謂フ可カラズ、而シテ此親切ナル行

爲ハ假令親切ナルモ、神ニ從フ心ヨリ出ルニ非ザルガ故ニ眞ニ  
 聖ク且潔キ行爲ト謂フ可カラズ、創世記第六章ニ曰ク、エホバ耶和華  
 世人ノ惡貫キ盈ルヲ見レバ、凡ソ其心念ノ圖維トコロノ者ハ恒  
 ニ唯慝ヲ作リト、馬太傳第十五章ニ曰ク、十九蓋心ヨリ出ル所ノ惡  
 念、凶殺、姦淫、苟合、盜竊、妄證、謗讟、此等ハ人ヲ汚ス者ナリト、約翰傳  
 第三章ニ曰ク、三、耶穌答テ曰ケルハ、誠ニ實ニ爾ニ告ン、人若新ニ  
 生レズハ、神ノ國ヲ見ルト能ハシト、羅馬書第三章ニ曰ク、二十是故  
 ニ律法ノ行ニ由テ、神ノ前ニ義トセラル、者一人ダニアルトナ  
 シ、蓋律法ニ由テ罪ハ知ラル、也ト、  
 第四款 人ハ落シニ由リ、神ノ親ヲ失ヒ其怒ト罰ヲ蒙ムリテ、今  
 世ノ艱難ト死スルトト限ナキ地獄ノ苦楚ヲ受ル者トナレリ、

第一項 人ハ落シニ由リ、即チ罪ニ陷リシニ由リ、若辛艱難ト死  
 ナ受ル者ナリ、斯ノ如キハ皆罪ノ果ナレバ、其固ナル罪ヲ知ラザ  
 レバ之ヨリ出ル所ノ困苦モ亦知ル可カラズ、若罪ヲ知ラザルニ  
 早ク人ノ艱難ヲ考察シバ、其眞ノ原因ヲ知ラザル者ナルガ故ニ、  
 或ハ佛法ノ如ク、人ノ存在ヲ皆無ニ屬スルヲ以テ善ト爲ニ至リ、  
 或ハ密爾先生ノ説ノ如ク、ナルニ至ラン、先生ノ説ニ曰ク、神ハ慈  
 悲アリテ正義ナル者ナリト雖モ、能ザル所ナキ者ニ非ズト、又或  
 ハ其他諸子ノ如ク、無神論ヲ立ルニ至ラン、雖然モ若此問答ノ順  
 序ニ從ヒ、始ニ先人ノ非道ナル罪ヲ見テ而シテ後ニ其困苦ヲ考  
 察セバ、則チ困苦ハ常ニ我罪ノ罰ナルヲ知ル可シ、死ハ罪ヨリ出  
 ル者ナリ、若罪ナカリセバ艱苦モ亦ナカル可キナリ、羅馬書第五

章ニ曰ク十二然ハ是一人ヨリ罪ノ世ニ入り、罪ヨリ死ノ來リ、人皆  
 罪ヲ犯セバ死ノ凡ノ人ニ及ビタルカ如シト、又第六章ニ曰ク、廿三  
 罪ノ價ハ死ナリト、  
 第二項 神ノ親ヲ失ヒ其怒ヲ蒙フリテトハ、始人ハ神ノ像ニ造  
 ラレタル者ナレバ、若其親ナケレバ、眞ノ生命ナカル可キナリ、眞  
 ノ生命トハ即チ神ヲ知ルナリ、然ハ神ヨリ離レテ之ヲ知ラザ  
 レバ、則チ眞ノ生命ナク孤子ノ告ル所ナキガ如キ者ナリ、例ハ人  
 ニ精神アリ、而シテ精神其用ヲ爲ザレバ身體ハ壯健ナリト雖モ、  
 眞ノ生命ナク即チ白痴タルガ如シ、神ノ親ハ人ノ尊キ靈魂ノ爲  
 ニ必要ナル者ナリ、而シテ若クハ猶生リト雖モ眞ノ生命ニ  
 非ズ、即チ靈魂其用ヲ爲ザル白痴ノ如キ者ナリ、夫人罪ヲ犯シテ

神ノ親ヲ失ヒ怒ト罰トヲ蒙フリタルハ、固ヨリ當然ノ道理ナリ、  
 神ハ善ヲ愛シ之ヲ好ム者ナリ、善ヲ愛スルトハ、即チ惡ヲ憎ムト  
 謂フニ同ク、惡ヲ憎マザル者ハ即チ善ヲ愛セザル者ナリ、善惡ハ  
 猶明暗ト云フガ如ク反對ノ言ナリ、然レバ則チ人ハ自由自在ニ  
 惡ヲ擇ビテ自ラ神ノ親ヲ失ヒ其怒ト罰トヲ受タル者ナリ、創世  
 記第三章ニ曰ク、八日ノ晨ントスル片涼風至リ耶和華ノ神園ニ  
 遊ベリ、亞當婦ト其聲ヲ聞テ身ヲ圍樹ノ間ニ匿シ以テ耶和華ノ  
 面ヲ避タリト、又曰ク、廿四 遂ニ其人ヲ逐出シテ乃チ埃田ノ園ノ東  
 ニ於テ敷ノ基路氷ト自ラ能ク舞旋スルノ焰劍トヲ置テ以テ生  
 命ノ樹ノ途ヲ防ガシメタリト、加拉太書第三章ニ曰ク、凡ソ律法  
 ノ行ニ由モノハ誣ハルヘシ、蓋律法ノ書ニ載タル凡ノ事ヲ恒ニ

行ハザル者ハ詛ハルト録サレタルハ也ト、羅馬書第一章ニ曰ク  
 十八夫神ノ怒ハ不義ヲ以テ眞理ヲ抑フル人々ノ凡ノ不虔不義ニ  
 向テ天ヨリ顯ハルト、  
 第三項 此世ノ艱難ト死トハ、實ニ罪ノ罰ナリト思ハバ則チ神  
 ノ義ナルヲ知ル可シ、若人間ニシテ義キ者タラバ何ゾ正義キ神  
 ヨリ是ノ如キ艱難困苦ヲ受ルアラン乎、然レバ則チ人間ノ苦  
 難ハ驚ク可キナラント雖、既ニ人罪ヲ見ルニ及ビテハ、艱難  
 困苦ハ則チ、其罰ナルヲ知ル可ク、反テ人間ノ幸福ハ驚ク可キ  
 ナラン、如何シテ大惡人は是ノ如キ幸福ヲ受ル乎、人間ノ艱難ハ實  
 ニ甚トシト雖、未ダ人罪ニ相當スルニ足ラズ、且夫死モ亦人罪  
 ノ罰ナリ、人若罪ヲ犯スナケレバ、恒久モ世ニ存在ルナラン

乎、或ハエノクノ如ク死セズシテ直ニ天ニ昇ルナランモ未ダ  
 知ル可カラズト雖、凡ノ人ノ死スルハ即チ其罰ナルヲ知ル可  
 シ、  
 第四項 限ナキ地獄ノ苦楚ヲ受ル者トナレリトハ、人間ノ艱難  
 ナル事情ハ僅ニ現世ノミニ有ニ非ズ、此身ノ死スルハ尙我成果  
 ニ非ズ、夫人死スルモ魂魄ハ尙來世ニ生存スル者ナリ、今其情況  
 ヲ説カンニ人自ラ惡ヲ擇ビテ神親ヲ失フ、之ヲ來世ニ懲レバ即  
 チ天國ヨリ放逐サレタルナリ、且本教第一項ニ論シタルガ如ク、  
 神親ハ人ノ靈魂ニ必需ノ者ナリ、若之ナケレバ眞ノ生命アラザ  
 ルナリ、靈魂既ニ死スルナリ、惡人ハ自ラ擇ビタル惡ニ由テ神ヲ  
 離レ苦ヲ受ク、是即チ基督教ノ地獄ノ意味ナリ、又現在世間ニ於

テ其親ヲ失フノミナラズ、來世ニ於テモ亦苦楚ヲ受ベキヲ云ナ  
 リ、其他尙神ノ手ヨリ別ニ困苦ヲ受ベキナリ、即チ限ナキ苦楚  
 ナリ、夫人現世ニ自ラ惡ヲ擇ビ、且將來ノ望モ亦利己主義ナリ、何  
 トナレハ今生ニ自己ノ娛樂ヲ望ミ來世ノ艱苦ヲ惡ム、此二慾ノ  
 本ハ即チ己ニシテ、共ニ異ナルナシ、今現ニ神恩ヲ受ト雖、神  
 チ愛セズ、罪ヲ悔改ムルヲ無ケレハ、來世ニハ必ス其罰ヲ蒙フル  
 可シ、若夫人ニシテ神ヲ愛セズ、遂ニ罪ヲ悔改メザレハ則チ神親  
 ヲ失ヒ艱苦ヲ受ルコト限ナキナリ、約翰傳第十七章ニ曰ク、三永  
 生一ハ唯一ノ眞神ナル爾ト其遺シ、耶穌基督ヲ識ル是ナリト、  
 馬太傳第七章ニ曰ク、廿一我ヲ召テ主ヨ主ヨト曰モノ盡ク天國ニ  
 入ルニ非ズ、唯之ニ入ル者ハ我天ニ在ス父ノ旨ニ遵フ者ノミ也、

廿二其日我ニ語リテ主ヨ主ヨ主ノ名ニ託テ教ヘ主ノ名ニ託テ鬼  
 ヲ逐ヒ、主ノ名ニ託テ多ク異ナル能ヲ行シニ非スヤト云モノ多  
 カラン、廿三其時彼等ニ告、我嘗テ爾曹ヲ知ラス、惡ヲ爲ス者ヨ、我ヲ  
 離レ去レト曰ント、又其第二十五章ニ曰ク、四一遂ニ又左ニ居ル者  
 ニ曰ン、罰セラル可キ者ヨ、我ヲ離レテ惡魔ト其使者ノ爲ニ備ヘ  
 タル燈ザル火ニ入レヨ、四二蓋爾曹我飢シ時、我ニ食セズ、渴シ時我  
 ニ飲セズ、四三旅セシ時我ヲ宿ラセズ、裸ナリシ時我ニ衣ズ、病又獄  
 ニ在シ時我ヲ顧サレハナリ、四四是ニ於テ彼等又答テ曰ン主ヨ何  
 時爾ノ飢マヌ渴キ又旅シ又裸又病又獄ニ在ヲ見テ、主ニ事ザリ  
 シ乎、四五其時王答テ彼等ニ曰ン、我誠ニ爾曹ニ告ン、此最微者ノ一  
 人ニ行ハザルハ、即チ我ニ行ハザリシナリ、四六此等ノ者ハ窮ナキ

刑罰ニ入リ、義者ハ窮ナキ生命ニ入ベシト、路加傳第十二章ニ曰ク、五我懼ル可キ者ヲ爾曹ニ示サン、殺シタル後ニ地獄ニ投入ル權威ヲ有テル者ヲ懼レヨ、我誠ニ爾曹ニ告ン之ヲ懼ル可シト、

○第五篇 拯救ノ教

第一條 拯救ノ定

神或人ヲ罪ト艱難ノ有様ヨリ救ヒ出シ、又之ヲ拯救ノ内ニ入  
 レシ爲ニ、恩ノ約ヲ爲シ給ヘリ、

第一款 神或人ヲ罪ト艱難ノ有様ヨリ救ヒ出シトハ、凡ソ人  
 何國ニ在テモ、教義ヲ立ル者ハ、皆ニ神ヲ拜スルノミナラズ、必ズ  
 又拯救ノ道ヲ定タリ、其中或ハ無稽ノ事アリト雖モ、亦之ニ由テ  
 能理解ス可キノ一事アリ、即チ拯救ハ人心ニ必要ナルト是ナリ、  
 夫拯救トハ何ヨリ之ヲ救フノ謂ナル乎、基督教ニ於テハ前ニ第  
 四篇ニ論シタルガ如ク、罪ト艱難ノ有様ヨリ救フニ必要トスル  
 ナリ、夫罪ハ大本ニシテ、艱難ハ是ヨリ出ル者ナリ故ニ先人ノ罪



ヲ論セザレバ拯救ノ道ヲ語ル可カラズ、人間ハ無限ノ罰ヲ受ベ  
 キノ罪アリ、而シテ此大罪ヲ知ラザレバ拯救モ亦之ヲ知ル可カ  
 ラズ、又他人ノ罪惡ヲ見テ之ヲ知ルモ、未ダ以テ足リト爲ベカラ  
 ス、自カラ我身ヲ反省テ己ノ大罪ヲ知ラザル可カラズ、○人若既  
 ニ己ノ大罪ヲ知ラバ、則チ神ハ人ヲ救ヒ出スベキニ非ザルヲ知  
 ル可シ、若拯救ナケレバ人皆無限ノ罰ヲ受ルハ、固ヨリ當然ノ正  
 理ナリ、人ノ犯シタル罪ヲ救ス可キノ理由ナシ、然ラバ則チ所謂  
 ル拯救ナル者ハ則チ恩惠ナリ、人之ヲ受ベキノ謂ナシ、神ハ人ヲ  
 救ハザルモ既ニ義ナリ、而シテ尙之ヲ施與給フナリ、故ニ之ヲ恩  
 ノ約ト謂フ、即チ恩惠ノ誓約ナリ、而シテ神亞當ニ此約ヲ立給ヒシ  
 ヨリ以來漸ク明カニシテ遂ニ基督ノ贖ニ至テ全ク顯明ナリ、此恩

約ヲ新約ト謂フナリ、始メ一約アリ、曰ハク律法ヲ守ル者ハ永生  
 ヲ受ク、之ヲ守ラザル者ハ死罰ヲ受ント、此始ノ約ヲ舊約ト云フ、  
 雖然、此之ニ由テ永生ヲ受クル者一人モアルヲ無ク、却テ皆罪ニ  
 陷リタリ、故ニ神ノ慈悲ヲ以テ此恩約即チ新約ヲ立給ヘリ、以弗  
 所書第二章ニ曰ク、一神ハ愆ト罪ニ死シ所ノ爾曹ヲモ生シ給ヘ  
 リ、ニ爾曹曾テ斯世ノ風俗ニ循ヒ、夫愆ト罪ヲ行ヒテ日ヲ送り、亦  
 空中ニアル諸禮ヲ總宰ル者、即チ信シ従ハザル者ノ中ニ今働ク  
 所ノ靈ニ循ヘリ、三我儕モ皆曾テ其中ニ居リ、肉ノ慾ニ循ヒテ日  
 ヲ送り肉ト心ノ欲フ任ヲ爲シ、他人ノ如ク本性ニシテ怒ノ子ナ  
 リキ、四然ルニ矜恤ニ富メル神、我儕ヲ愛スル所ノ大ナル愛ニ縁  
 リ、五罪ニ死シ時ニスラ我儕ヲ基督ト偕ニ生シ、爾曹恩ニ由テ救

ハレシナリ、六又耶穌基督ニ在ル我儕ヲ彼ト偕ニ甦ラセ共ニ天  
 ノ處ニ坐セシメ給ヘリ、七是今ヨリ後ノ世々基督耶穌ノ中ニテ  
 我儕ニ施ス所ノ仁慈ヲ以テ其恩ノ勝レテ豐ナルヲテ顯サン爲  
 ナリ、八爾曹恩ニ由テ救ヲ得是信仰ニ由テナリ、己ニ由ルニ非ズ、  
 神ノ賜物ナリ、九行ニ由ルニ非ズ、是ノ如クナルハ誇ル者ナカラ  
 ン爲ナリト、羅馬書第五章ニ曰ク、八然レ基督ハ我儕ノ尙罪人タ  
 ル時、我儕ノ爲ニ死給ヘリ神ハ之ニ由テ其愛ヲ彰シ給フト、創世  
 記第三章ニ曰ク、十五我將ニ爾ト婦トヲシテ仇ト爲リ、爾ノ裔ト婦  
 ノ裔トモ亦仇トナラシメントス、婦ノ裔ハ將ニ爾ノ首ヲ撃ント  
 ス、爾ハ將ニ其踵ヲ撃ントスト、又其第二十二章ニ曰ク、十六耶和華  
 曰ク、爾獨子ヲ以テ我ニ捨ルヲ惜マス因テ爾是ヲ行フ、我故ニ己

ヲ指テ誓フ十七我必ズ福ヲ爾ニ祝シテ必ズ父ノ後裔ヲ増サン、其  
 多キヲ天ノ星ノ如ク、海隅ノ沙ノ如クナラン、爾ノ裔ハ將ニ其敵  
 ノ門ヲ獲ントス十八爾我命ニ遵フニ縁テ、天下ノ萬國將ニ爾ノ裔  
 ヨリ福ヲ獲ントスト、詩第二篇ニ曰ク、耶和華ニ事ルニ畏ヲ以テ  
 シ且戰慄シテ喜ベ、十二其子ニ吻接セヨ恐クハ其忿怒テ而シテ爾  
 ハ路間ニ於テ死シ、蓋其怒ハ必ズ速列ケレバ也、之ニ依頼スル者  
 ハ咸福アリト以賽亞書第五十三章ニ曰ク、四是然リ其我ノ憂患  
 ニ任シテ而シテ我ノ愁苦ヲ負リ、我儕ハ乃チ其撻ヲ受ルハ、神ノ  
 撃ツ所ト爲リテ苦難ヲ致スト意ヘリ五然レモ其我儕ノ諸愆ノ  
 爲ニシテ刺レ、我儕ノ諸罪ノ爲ニシテ壓壞ラレ、我儕ヲシテ平和  
 ヲ得セシムル者ノ罰ハ悉ク其身ニ置キ、且其鞭打ニ縁テ我儕醫

サル、ヲ得タリ、我儕悉ク羊ノ如クニシテ路ニ迷ヒ各轉テ己ノ道ニ向フ、耶和華ハ我衆ノ愆ヲ以テ其身ニ任セリト、

第二款 世ノ始ノ前ヨリ新約アリ、之ヲ新約ト云フト雖也、其始ノ約束ヲ破リタルガ故ニ急ニ出來タル約束ニ非ズ、但人ヨリ之ヲ視テ新約ト號タルナリ、神ハ變易ナク知ラザル所ナキ者ニシテ神ノ定メハ皆始ナク變易ナキ者ナリ、始ヨリ終ニ至ルマデ能ク萬事ヲ定メ給ヘリ、以弗所書第一章ニ曰ク、三神即チ我儕ノ主耶穌基督ノ父ハ頌ベキ哉彼基督ニ由テ諸靈ノ恩ヲ以テ天ノ處ニテ我儕ヲ己ニ惠タリ、四夫神ハ我儕ヲシテ其前ニ聖ク疵ナカラシメン爲ニ世ノ基ヲ置ザリシ先ヨリ我儕ヲ基督ノ中ニ簡ビ

五其意ノ任ニ耶穌基督ニ由テ我儕ヲ己ノ子ト爲サントヲ愛ヲ

以テ預メ定メタリト、彼得前書第一章ニ曰ク、十八蓋爾曹贖レテ先祖ヨリ傳ハリタル徒シキ行ヨリ離レシハ、銀ヤ金ノ如キ壞ル物ニ由ルニ非ズ、十九疵ナク汚ナキ羔ノ如キ基督ノ寶血ニ由ルトヲ知レハナリ、基督世ノ基ヲ置ザリシ先ニ定ラレ、此末ノ時ニ爾曹ノ爲ニ顯ハレ給ヘリト、

第三款 何故神ハ其意ノ隨ニ此救拯ノ道ヲ立給ヘル乎、又何故ニ某人ヲ無限永生ニ撰ビ給ヘル乎、吾人ノ考案ニ由レバ、唯是神意ニ適フト云フノ一事アルノミ、人間一個ノ限アル智慧ヲ以テ、神ノ定ノ深遠ナル主意ヲ知ル丁能ハザルハ固ヨリナリ、之ヲ世間ノ歴史ニ徴シ之ヲ聖書ニ照セバ稍覺ル所アル可シト雖也、未ダ以テ十分ナル悟覺ト云フニ足ザルナリ、信者ハ基督ノ贖罪ニ

由テ少シク悟ル所ナキニ非スト雖凡世間焉ゾ全ク之ヲ氷解ス  
 ル者アラシヤ、其然リ雖然凡信仰アル者ハ必ス満足スル所アラ  
 シ、何トナレハ前ニモ既ニ論シタルガ如ク、神ハ能ハザル所ナク  
 知ラザル所ナク、全ク義シク且慈悲アル者ナレバナリ、是ノ如キ  
 者ハ過誤若クハ道理ニ合ハザルノ定アル可キニ非ズ、神意ニ適  
 フ者ハ必ズ慈悲正義ト道理トニ合フ可キ者ナリ、吾人未ダ其定  
 ナ全ク理解スルヲ能ハズト雖凡、神ノ性質ヨリ考フレバ其意ニ  
 適フ者ハ實ニ無上ノ善事タルヲ知ル可シ、是故ニ神ハ其意ノ隨  
 ニ世ノ始ノ前ヨリ無限永生ヲ與ヘントテ或人ヲ擇ビタルハ、是  
 實ニ信者ノ安慰ナリ、雖然凡神ハ何故ニ某人ヲ擇ビ給ヘル歟、又  
 何故ニ他人ヲ擇ビ給ハザル歟、是未ダ全ク之ヲ理解スルヲ能ハ

ズト雖凡、惟二事ノ知ル可キ者アリ、夫人類ハ皆罪人ナルガ故ニ  
 一人ノ撰バル、者ナキモ猶義ニ合ハサル者ニ非ズ、此撰ビタル  
 ヤ單ニ恩惠ニ惟由ノミ且夫其撰フト撰ハザルトハ未ダ其理由  
 ヲ知ル可カラズト雖凡、乃チ神意ノ隨ニ爲シ給ヘルヲ以テ満足  
 スルナリ、約翰傳第十七章ニ曰ク、九我彼等ノ爲ニ祈ル我祈ルハ  
 世ノ爲ニ非ズ、爾ノ我ニ賜ヒシ者ノ爲ナル耳、夫彼等ハ爾ノ屬ナ  
 レバナリト、羅馬書第十一章ニ曰ク、三三嗚呼神ノ智ト識ノ富ハ深  
 イ哉、其法度ハ測リ難ク其踪跡ハ索テ難シ、三五孰カ主ノ心ヲ知リ  
 シ、孰カ彼ト共ニ議ルトヲ爲シヤ、三五孰カ先彼ニ施テ其報ヲ受シ  
 ヤ、三六蓋萬物ハ彼ヨリ出彼ニ倚リ彼ニ歸レバナリ、願クハ世々榮  
 神ニ在レ、亞孟、

第四款 贖主ニ由テ彼等ヲ罪ト艱難ノ有様ヨリ救ヒ出シ、又之ヲ拯救ノ中ニ入レン爲ニ恩約ヲ爲シ給ヘリ、  
 神ノ約ハ前ニモ既ニ論シタルガ如ク、眞ニ恩約ナリ、吾人々類ハ義ニ於テ全ク其律法ヲ守ラザル可カラザル者ナリ、然リ而シテ吾人ノ既ニ犯シタル罪ヲ赦スハ實ニ恩惠ナリ、初メ亞當ガ埃田ノ園ヨリ逐出サレタル時ニハ既ニ神罰ヲ蒙リタリト雖、尙當時ニ於テ拯救ノ恩約アリ、曰ク我將ニ爾ト婦トヲシテ仇ト爲リ、爾ノ裔ト婦ノ裔トモ亦仇ト爲ラシメントス、婦ノ裔ハ將ニ爾ノ首ヲ撃ントシ爾ハ將ニ其踵ヲ撃ントスト、又亞伯拉罕ノ時ニ於テハ復タ恩約ヲ爲シ給ヘリ、曰ク亞伯拉罕ニ傳ヘテ萬國ノ民ハ爾ニ由テ福ヲ得ント、又大關ノ時ニ至リ申テ此恩約ヲ立給ヘリ、

詩第二篇ニ云ク、七受膏者曰ク我必メ其命ヲ宣ン、耶和華曾テ我ニ論シテ云ク、爾ハ乃チ我ノ子ナリ、我今日爾ヲ生リ、ハ爾ハ惟我ニ求メヨ我將ニ異邦ヲ以テ爾ニ賜ヒテ産ト爲シ、地ノ極ヲ以テ爾ニ賜ヒテ業ト爲サントスト、又其後ニ至リテハ豫言者ニ由テ益々此約ヲ顯彰シ給ヘリ、就中豫言者以賽亞ハ能ク其約ヲ守ルノ法ヲ顯明シタリ、其書第五十三章ノ如キ即チ是ナリ、又其後耶利米、以西結、但以理、等ノ豫言者モ亦皆能ク之ヲ顯彰シタリ、又舊約ノ終ニ馬拉基書アリ、其第三章、第四章ニモ亦此恩約ヲ豫言シタリ、又新約ニ於テハ約翰初テ此恩約ヲ宣傳ヘテ天國ハ近ツケリ悔改メヨト説キタリ、元々基督ハ始ニ此言ヲ以テ道ヲ弘メ給ヘリ、且其他ノ使徒輩モ亦能ク此恩約ヲ論シタリ、是ニ由テ之ヲ

觀レバ、聖書ハ始ヨリ終ニ至ルマデ皆此約ヲ顯彰シ、之ヲ遵守ス  
 ルノ實歴史ナリ、其總體ニ就テ之ヲ察レバ、始終贖主ニ由テ救ハ  
 レタル恩約ナリ、亞當、亞伯拉罕、大衛ニモ皆其子孫ニ由テ人類ヲ  
 救フノ誓約アリ、神ハ贖主ナシニ人ノ罪ヲ贖フノ約束ヲ爲シ給  
 ハズ、又人ノ義ニ由リ或ハ祭祠ニ由テ罪ヲ赦スノ誓約ナシ、必ズ  
 皆贖主ニ由テ其罪ヲ贖フト云フアルノミ、猶太教ノ祭祠ト宮殿  
 ノ贖ト摩西ノ立タル禮式トヲ以テ之ヲ觀レバ、皆是同一ノ教ヲ  
 指ス者ナリ、以賽亞書第十一章ニ曰ク一惟耶西ノ幹ヨリ將ニ一  
 ノ柔條ヲ苗サントス、其根ヨリ將ニ一枝ヲ發セントスルナリ、二  
 耶和華ノ靈將ニ其上ニ安居セントス、即チ智慧ト明哲ノ靈ト謀  
 畧ト才能ノ靈ト、知識ト耶和華ヲ畏ル、ノ靈トナリ、三彼將ニ耶

和華ヲ畏ル、ノ畏ヲ通達セントス、必ズ目ノ見ル所ニ循テ鞠カ  
 ズ、耳ノ聞ク所ニ循テ擬ザラン、四彼必ズ義ヲ以テシテ貧者ヲ鞠  
 キ、理ヲ以テシテ謙遜ナル者ノ訟ヲ聽ン、又將ニ口ノ杖ヲ以テ地  
 ヲ撃チ唇ノ氣ヲ以テ惡人ヲ殺サントス、五公義ハ其腰ノ紳ト爲  
 リ、忠實ハ其身ノ佩ト爲サン、六當時豺狼ハ將ニ羔ト同シ居ラン  
 トシ、豹ハ將ニ山羊羔ト同ク臥セントシ、犢ト小獅子、及ビ肥タル  
 畜トモ皆將ニ同ク伏セントス、而シテ童子之ヲ導ク可シ、七牛ト  
 熊トハ將ニ同ク食ハントシ、其小子ハ將ニ共ニ伏セントシ、獅ハ  
 將ニ牛ノ如クコシテ草ヲ嚙ントス、八乳ヲ哺ノ嬰ハ將ニ毒蛇ノ  
 穴ニ戯レントシ、乳ヲ斷ノ嬰ハ將ニ其手ヲ蝮ノ窟ニ置ントス、九  
 我聖山ノ偏處ニ在リテハ必ズ傷ツク所ナク害スル所ナカラシ、

蓋シ耶和華ヲ知ルノ知識ハ將ニ地ニ充滿シテ、水ノ海ヲ掩蓋ガ  
 如ク異ナルヲ無カラントスト、路加傳第二十四章ニ曰ク廿五耶穌  
 曰ケルハ豫言者ノ凡テノ言タルヲ信ズル心ノ遅ク愚ナル者  
 ヲ、廿四基督ハ此等ノ難ヲ受テ其榮光ニ入ル可キニ非ズヤ、廿七故ニ  
 摩西ヨリ凡テノ豫言者ヲ始メ凡テノ聖書ニ於テ己ニ就テノ事  
 ハ解明サレタリト、此他ハ讀者宜シク希伯來書第一章第一節ヨ  
 リ以下第十章ノ終ニ至ルマデヲ就覽スベシ、

第二條 贖主

神ノ撰ビシ人ノ贖主トハ唯獨一ニシテ即チ主耶穌基督ナリ、  
 彼ハ神ノ始ナク終ナキ子ニシテ人ト爲リ、其時ヨリ神ト人ノ  
 兩性ヲ具ヘシ儘ニテ究ナク在ラン者ナリ、

第一款 神ノ撰ビシ人ノ贖主ハ誰アヤト問ハ唯獨一ニシテ即  
 チ主耶穌基督ナリト答ンノミ他ニ之ニ答フルノ詞ナシ、是儘ニ  
 萬國史ヲ一見シテ之ヲ考フルモ亦知ル可キナリ、凡ソ歴史ハ一  
 般ニ基督降世ノ前後ヲ以テ其年代ヲ別チテ二ト爲ス、古來聖人  
 アリ又立教者アリト雖、創世ヨリ以來基督ノ如キハ未ダ曾テ  
 之アラザルナリ、聖賢哲人ノ教モ亦緊要ナル者アリト雖、基督  
 ノ教義ト其一生ノ行爲ヨリ大切ナル者ナシ、且現今諸般ノ教義  
 ナ觀察スルニ、能ク人民ヲ改革スルニ足ル可キ勢力アル者ハ、其  
 惟基督教アルノミ、又方今萬國ニ行テ傳道スルノ勢力アル者モ  
 亦基督教ノミナリ、又萬國ノ現況ヲ察ルニ贖主ト云ヒ救主ト云  
 フ者アラバ即チ基督ト云フニ異ナラズ、是聖書ヲ一讀シテ最モ

顯明ナル所ナリ、舊約全書ニ於テ之ヲ觀レバ、始メ救主即チ贖主  
 ハ亞伯拉罕ノ裔ニ在リト云ヒ、後ニハ大關ノ裔タルヲ顯彰シ  
 タルノミナリト雖モ、新約ニ至テハ拿撒勒ノ耶穌ハ救主即チ贖  
 主ナリト明出シタリ、故ニ猶太人ハ皆贖主ノ臨ルヲ峻望タリ、是  
 ニ由テ之ヲ觀レバ、拿撒勒ノ耶穌ハ種々ナル前徴ヲ以テ其贖主  
 タルヲ顯明シタルガ故ニ、當時之ニ從フ者甚ダ衆多ナリキ、加  
 之ナラズ基督再ビ天國ニ昇リタルヲ以テ、使徒輩ハ福音即チ天  
 ヲリ降リタル救主アリト云フ教ヲ以テ、往テ萬國ニ宣傳ヘタリ、  
 是ニ於テ基督ハ宿ニ猶太人ノ救主ナルノミナラズ萬國人民ノ  
 救主ナリ、實ニ神ノ榮光ヲ顯明ス者ハ唯耶穌ノミナリ、神ニ完全  
 ノ贖ヲ爲ス者ハ、唯基督ノミナリ、是故ニ耶穌基督ハ唯獨一ノ贖

主ナリ、耶穌基督ヲ措テ他ニ贖主アルヲナシ加拉太書第四章ニ  
 曰ク、四雖然モ期既ニ至ルニ及ヒテ神其子ヲ遣シ給ヘリ、彼ハ女  
 ヲリ生レ且律法ノ下ニ服シタリ、五是律法ノ下ニ在ル者ヲ贖ヒ  
 我儕ヲシテ子タルヲ得セシメンガ爲ナリト、使徒行傳第四章  
 ニ曰ク、十二此外別ニ救アルヲナシ、蓋天下ノ人ノ中ニ我儕ノ依賴  
 ミテ救ハルベキ他ノ名ヲ賜ハラザレバナリト、約翰傳第三章ニ  
 曰ク、三六子ヲ信ズル者ハ無窮生命ヲ得、子ニ從ハザル者ハ生命ヲ  
 見ルヲ得シ、且神ノ怒ノ上ニ留マラント、馬可傳第十六章ニ曰  
 ク、十五耶穌彼等ニ曰ケルハ偏ク世界ヲ廻リテ諸人ニ福音ヲ宣傳  
 ヘヨト、羅馬書第十章ニ曰ク、十夫人ハ心ニ信シ義トセラレ口ニ  
 認ハシテ救ハルハナリ、十一聖書ニ凡テ彼ヲ信ズル者ハ辱シメラ



レシト云ヘリ、十二猶太人ト希獵人ノ別ナシ衆ノモノ主ハ惟一ナ  
 レバナリ、凡ソ之ヲ願求ムル者ニハ恩ヲ豐盛ニシ凡テ主ノ名ヲ  
 願求ムル者ハ救ハル可シ、十四然レバ未ダ信セザル者ヲ何テ願求  
 ムルトヲ得ンヤ、未ダ聞ザル者ヲ何テ信スルトヲ得ンヤ、未ダ宣  
 ザル者ヲ何テ聞クトヲ得ンヤト、  
 第二款 彼ハ神ノ始ナク終ナキ子ナリ、拿撒勒ノ耶穌ハ抑何人  
 ナルヤ、初メ猶太人ヲ以テ之ヲ見レバ木工約瑟ノ子タルニ過ズ  
 ト雖モ、當時尙之ヲ奇トシ大ニ人ニ異ナル所アリト、思惟タリ、耶  
 穌歳三十ニシテ始テ能ク天國ノ道ヲ宣傳ヘ、又屢々奇蹟ヲ顯シ  
 タリ、猶太人之ヲ觀テ曰ク、耶穌ハ豫言者ナル乎、否ザレバ神ヨリ  
 來レル人ナリト、十二使徒モ亦耶穌ヲ以テ神ヨリ來レル豫言者

ト爲シタレ、其初二年間ハ神ノ子ト思惟タル者ナカリシ、雖然  
 凡漸ク其教ヲ聽キ且其死ヨリ甦タルヲ見ルニ及ビテ、實ニ耶穌  
 ハ始ナク終ナク神ノ子タルト知リタリ、而シテ其之ヲ知リタ  
 ルヤ、初メ耶路撒冷ニ於テシ、次ニ出テ其近傍ノ諸國ニ往キ其道  
 ヲ宣傳ヘテヨリ、漸次ニ其教會ヲ増加シ、之ガ爲ニ紛議百出シタ  
 リト雖、凡基督降世後三百二十五年ニ至テニセアノ大會ニ於テ  
 之ヲ眞ノ教義ト決定シタリ、是ヨリ以來此教義ニ就テ斯ノ如キ  
 大議論アリタルトナシ、故ニ基督ハ其降世以前ニ在テモ實ニ始  
 ナク終ナク神ノ子タリシナリ、即チ三位一體ノ神ニハ其愛子ナ  
 リ、始ヨリ父ト偕ニ居リシ者ニシテ、其本質ハ父ノ神ト同質ナリ、  
 前ニ第二篇第三條第二款ニ於テ細ニ之ヲ論シタルヲ以テ、再ビ

茲<sup>コト</sup>ニ之ヲ贅<sup>ゼイ</sup>セズト雖<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>其證據<sup>シヤウコ</sup>ノ大畧<sup>ダイリヤク</sup>ヲ舉<sup>ア</sup>グレハ、第一耶蘇ノ言<sup>コト</sup>ナリ、耶蘇ハ神ノ子タルヤ、或<sup>アル</sup>ハ偽善者<sup>ギゼンシヤ</sup>タルヤ、再三<sup>サイサイ</sup>教フル所ノ其言<sup>コト</sup>ニシテ誠<sup>マコト</sup>ナラザラン乎、耶蘇ハ實ニ虛言者<sup>キヨゲンシヤ</sup>タルヲ免<sup>マヌ</sup>レズ、其然<sup>シカ</sup>リ而<sup>シテ</sup>不信者<sup>フシンシヤ</sup>ト雖<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>耶蘇ハ道德學士<sup>ドクツクガクシ</sup>中ノ最モ尊<sup>タカ</sup>ク最モ有名<sup>メイメイ</sup>ナル者ナリト云<sup>イ</sup>ヘリ、苟<sup>イフ</sup>モ耶蘇ノ言行<sup>ゲンゴウ</sup>ヲ見聞<sup>ミケン</sup>スル者ハ、誰カ耶蘇ヲ以テ虛偽者<sup>キヨギシヤ</sup>ト爲<sup>ス</sup>ス者アラシヤ、況<sup>イハ</sup>ンヤ啻<sup>タガ</sup>ニ其言行<sup>ゲンゴウ</sup>ノミナラズ、死ヨリ甦<sup>ヨミガ</sup>リタル事實<sup>ジツ</sup>アルニ於テヲヤ、且其死ヨリ甦<sup>ヨミガ</sup>リタル事實<sup>ジツ</sup>成就<sup>ツキ</sup>テハ明確<sup>アキアラカ</sup>ナル證據<sup>シヤウコ</sup>ノ在<sup>ア</sup>ルアリ、又使徒輩<sup>シヤウコ</sup>ノ證據<sup>シヤウコ</sup>アリ、夫使徒輩<sup>シヤウコ</sup>ハ生來猶太人<sup>ウレナカシ</sup>ナリト雖<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>唯一ノ神ヲ信仰<sup>シンゴウ</sup>シタル者ナリ、而シテ基督<sup>キリスト</sup>ハ神ノ子ナリト深ク信<sup>シン</sup>シテ疑<sup>ウタガ</sup>ハズ、其之ヲ證<sup>シヤウ</sup>スルニ當<sup>タ</sup>テハ言論<sup>ゴン</sup>ヲ以テ證<sup>シヤウ</sup>スルノミナラズ、各生命<sup>カクシヤウ</sup>ヲ抛<sup>ナク</sup>テ其眞實<sup>シンジツ</sup>ナル證據<sup>シヤウコ</sup>

ヲ顯彰<sup>ケンチャウ</sup>シタリ、又教會<sup>キヤウカイ</sup>ノ證據<sup>シヤウコ</sup>アリ、凡<sup>レ</sup>ソ教會<sup>キヤウカイ</sup>タル者ハ天主<sup>テシユ</sup>教<sup>キヤウ</sup>、希臘<sup>ギリヤ</sup>教<sup>キヤウ</sup>、新教<sup>シンキヤウ</sup>ヲ論<sup>ロン</sup>ゼズ、皆<sup>イツ</sup>一致<sup>イツ</sup>シテ能ク其教義<sup>キヤウギ</sup>ヲ承認<sup>シンニョウ</sup>シタリ、是即<sup>シ</sup>テ基督教<sup>キリストキヤウ</sup>ノ基礎<sup>キソ</sup>ナリ、若<sup>シ</sup>基督教<sup>キリストキヤウ</sup>ニシテ其基礎<sup>キソ</sup>ナカリセバ、早<sup>ハヤ</sup>ク己<sup>ミ</sup>ニ滅<sup>メツ</sup>亡<sup>ボウ</sup>シタルナラン、然<sup>シテ</sup>ルニ基督教<sup>キリストキヤウ</sup>ハ世間<sup>セケン</sup>ノ道德<sup>ドクツク</sup>ヲ改革<sup>クワイク</sup>スルノ教ナリ、是ノ如ク堅牢<sup>ケンロウ</sup>ナル者ニシテ能ク虛偽<sup>キヨギ</sup>ノ基礎<sup>キソ</sup>上<sup>ノ</sup>ニ建<sup>タツ</sup>ト思<sup>シ</sup>カラスル者アル可ケンヤ、約翰傳<sup>ヨハネ</sup>第一章ニ曰ク、十八未<sup>ミ</sup>ダ神ヲ見<sup>ミ</sup>シ人アラズ、惟<sup>タダ</sup>生<sup>ナマ</sup>給<sup>タマ</sup>ヘル獨子<sup>ヒトリゴ</sup>、即<sup>シ</sup>テ父ノ懷<sup>フトコロ</sup>ニアル者ノミ之ヲ彰<sup>ア</sup>セリト、又其第十六章ニ曰ク、廿八我父ヨリ出<sup>イ</sup>テ世<sup>ヨ</sup>ニ臨<sup>キタ</sup>レリ、又世ヲ離<sup>ナ</sup>レテ父ニ往<sup>イ</sup>ント、又其第十七章ニ曰ク、五父ヨ今我ヲシテ爾ト偕<sup>トモ</sup>ニ榮<sup>サカ</sup>ヲ得<sup>エ</sup>サセ給<sup>タマ</sup>ヘ、則<sup>シ</sup>テ創<sup>シ</sup>世<sup>ノ</sup>ヨリ先<sup>ニ</sup>ニ爾ト偕<sup>トモ</sup>ニ有<sup>タ</sup>チシ所<sup>ノ</sup>榮<sup>サカ</sup>ヲ得<sup>エ</sup>サセ給<sup>タマ</sup>ヘト、腓立非書<sup>フィリビ</sup>第二章ニ曰ク、五爾曹<sup>ニ</sup>基督教<sup>キリストキヤウ</sup>耶蘇ノ意<sup>コト</sup>ヲ以テ意<sup>コト</sup>トス

ベシ、六彼ハ神ノ像ニテ居シカドモ、自ラ其神ト匹ク在ル所ノ事ヲ棄テ難キトト意ハズト、又其第一章ニ曰ク、一基督耶穌ノ僕保羅ト提摩太、腓立比ニ居ル所ノ基督耶穌ニ在ル衆ノ聖徒、及ビ監督執事ニ書ヲ達ル、ニ願クハ爾曹、我儕ノ父ナル神、及ビ主耶穌基督ヨリ恩寵ト平康ヲ受ヨト、又曰ク、ハ我基督耶穌ノ心ヲ以テ爾曹衆ヲ戀慕フトニ就テハ其證ヲ爲ス者ハ神ナリト、

第三款 人ト爲リトハ、基督ハ固ヨリ神ノ愛子ナリト雖、又人ト爲リ他ノ人類ノ如ク、身體アリ情性アリ靈魂アリ、惟罪ナキノミニシテ、其餘ハ皆恰モ猶他ノ人類ノゴトキヲ謂フナリ、或者ハ能ク耶穌ヲ神ノ愛子ト知りナガラ、其人性アルヲ忘ル、者アリ、是大ナル誤謬ナリ、基督ハ誠ニ人ナルガ故ニ其意思ハ人ノ意思

ニ同シク、其必需ハ人ノ必需ニ等シ、聖書ノ言ニ由テ基督モ亦人ナルトヲ證ス可シ、約翰傳第一章ニ曰ク、十四夫道ハ肉體ト成テ我儕ノ間ニ寄レリ、我儕其榮ヲ見ルニ實ニ父ノ生給ヘル獨子ノ榮ニシテ恩寵ト真理ニテ充テリト、希伯來書第二章ニ曰ク、十六實ニ天ノ使等ヲ助ケズ、亞伯拉罕ノ子孫ヲ助ク、十七是故ニ神ニ屬ル事ニ就テ矜恤ト忠義ナル祭司ノ長ト爲リテ民ノ罪ヲ贖ハン爲ニ諸事ニ於テ兄弟ノ如クナルハ宣ナリト、提摩太前書第二章ニ曰ク、五夫神ハ一位ナリ、又神ト人トノ間ニ一位ノ中保アリ、即チ人ナル基督耶穌ナリト、

第四款 其時ヨリ神ト人トノ兩性ヲ具ヘシ儘ニテトハ、何ニ由テ基督ニ此兩性アリヤト問バ、之ヲ説明スルト甚ダ難シ、蓋人ノ

肉體ト靈魂トノ關係ヲ解ヨリモ尙難キ者アリ、例バ一點ノ周圍ニ二圓輪ヲ畫テ得ルガ如ク、又火ト鐵トハ全ク別物ナレハ鐵ヲ火中ニ投レバ則チ同度ノ熱ヲ得ルガ如シ、雖然此等ノ例ハ未ダ以テ實ニ之ヲ説明シ得タリト謂フ可カラズ、眞ニ解ス可カラザルノ事ナリト雖モ、未タ之ヲ以テ全ク有リ能ハザルノ事ト爲ス可カラズ、夫人ハ始メ神ノ像ニ造ラレタル者ナリ、又直接ニ神ヨリ靈魂ヲ稟得タル者ナリ、然レバ則チ人性ト神性トハ互ニ相似タルハ固ヨリナリ、若人アリ神ハ石ト爲リ木ト爲リ或ハ鳥獸ト爲ルト云バ、人得テ之ヲ信ズ可カラズト雖モ、人ト神トハ始ヨリ此ノ如キ關係アリ故ニ神ハ人ト爲ルト云フニ於テハ、其方略コソ未ダ明知スルヲ能ハズト雖モ、猶未ダ信ズ可カラザル事

ニ非ズ、基督ニハ此兩性アリタルヲ以テ之ヲ指テ兩性アル者ト云フモ可ナリ、乃チ基督ハ天地萬物ノ主ナリ、是其神性ナリ、基督ハ馬利亞ノ所生ナリ、是其人性ナリ、又基督ノ能ハザル所ナキハ神性ナリ、其飢渴シタルハ人性ナリ、此ノ如ク兩性アリト雖モ、是唯ニ獨一ナルノミ、決シテ二人ナリト云フ可カラズ、又唯神ノ愛子ナルノミニ非ズ、又唯人タルノミニ非ズ、兩性合併テ唯獨一ノ耶穌基督ナリ、羅馬書第一章ニ曰ク、三其子我儕ノ主耶穌基督ヲ指テ示シ、彼ハ肉體ニ由レハ大關ノ裔ヨリ生レ、四聖善ノ靈性ニ由レバ甦リシトニ由テ明カニ神ノ子タルヲ顯レタリト、又其第九章ニ曰ク、五列祖ハ是彼等ガ先祖ナリ肉體ニ因テ言ハ基督モ亦彼等ヨリ出ヅ、彼ハ萬物ノ上ニ在テ世々讚美ヲ得ベキ神ナ